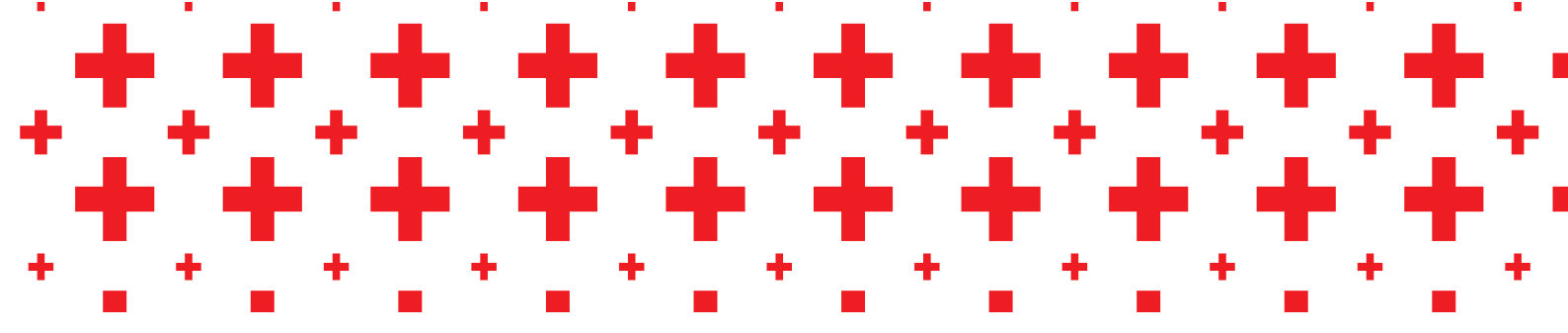




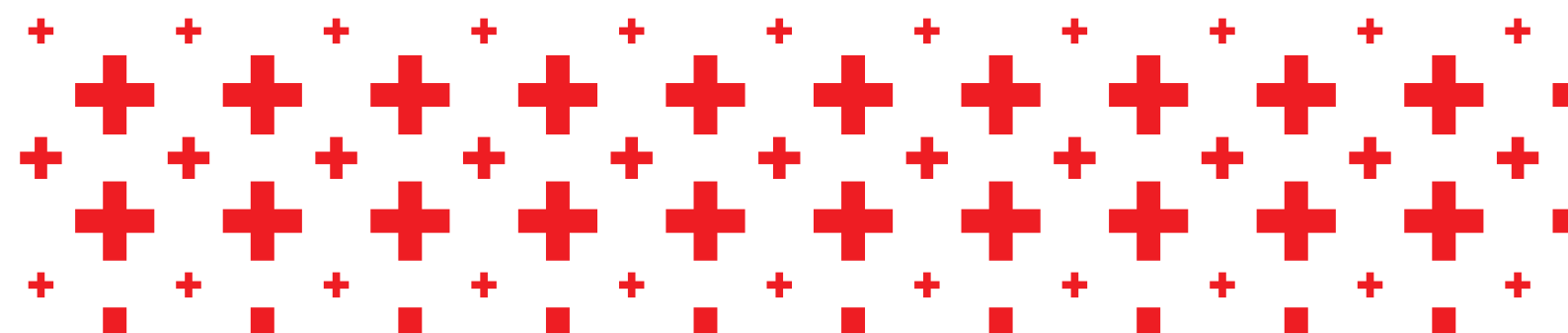
年 報

平成28年度版



日本赤十字社
JAPANESE RED CROSS SOCIETY

唐津赤十字病院



平成 28 年度年報の発刊にあたって

平成 28 年度の年報が完成しました。この 1 年間は病院の新築移転の引越しの年となり 7 月、8 月是一部診療制限を行い、地域の皆さまにはご迷惑をおかけしました。

その中で各科、各部署の診療実績、学会活動等について報告いたします。当院の評価の一助になればと思います。

今年度は 4 月に熊本地震が発生しました。同じ九州にあって唐津も震度 4 を本震の 4 月 16 日午前 1 時 40 分に経験し、本当に身近な恐ろしいものと感じました。

当院からは 4 月 14 日 22 時 27 分の初震発災直後より準備を開始し、4 月 15 日未明には救護班と D M A T 班が熊本に向けて出発しました。この 2 班は 16 日の本震に現場で遭遇することとなり、大変な思いをいたしました。以後、D M A T 計 2 班、救護班計 5 班、病院支援計 3 班の計 48 名の当院職員が救護活動に当たりました。今後の早期の復興を切に祈ります。

平成 26 年 6 月 7 日に唐津赤十字病院の移転新築工事の起工式を執り行い、平成 28 年 7 月 23 日に開催した竣工祝賀会には、当時壇一雄の「花筐」を唐津で映画撮影されていた大林宣彦監督に「映画は、古里からの手紙です」という題目で記念講演をしていただきました。その後平成 28 年 8 月 1 日に新病院に移転しました。移転後数か月間は職員、患者さん共に若干の戸惑いがありましたが、現在ではすっかり落ち着いています。新病院では病室からの眺めも良く、快適な療養環境を提供できていると自負しております。職員にも大変好評です。

これからは新しい建物、設備にふさわしい医療の質の向上に努め、佐賀県北西部の中核医療機関としての役割を果たすべく、職員一同努力していきます。

平成 29 年 3 月

唐津赤十字病院
院長 志田原哲



唐津赤十字病院の理念

「安心な医療」

「あたたかい看護」

「地域への貢献」

基本方針

- ① 患者さまの人権を尊重します。
- ② 質の高い医療と看護を提供します。
- ③ 救急医療やがん医療の充実に努めます。
- ④ 地域医療連携を推進します。
- ⑤ 災害救護に貢献します。
- ⑥ 健全で安定した経営基盤を確立します。

患者さまの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 治療や検査に関して、理解できるまで説明を受け、ご自身で決定する権利があります。
3. 医療機関を選択し変更する権利、別の医師の意見を聞く権利があります。
4. ご自身の医療情報を知る権利があります。
5. プライバシーが守られる権利があります。
6. 個人の尊厳が尊重される権利があります。

医療バランスト・スコアカード導入について

当院では、平成8年度より5次にわたって経営改善計画等を策定し、経営基盤の強化と医療の充実の両立を目指してきました。

今後の病院経営は、社会保障と税一体改革が目指す2025年の医療のあるべき姿としての将来像を踏まえつつ、且つ佐賀県保健医療計画における当院が担うべき役割を認識し、ポジショニングを明確にする必要があります。

また、平成26年度以降の診療報酬改定では、2025年を見据えた改定が盛り込まれることはもちろんながらマイナス改定も予想され、今後も医療を取り巻く環境は一段と厳しさを増すものと思われます。

一方、当院が担うべき医療を積極的に展開するためには、医師、看護師をはじめとする医療スタッフの強化が大きな課題であり、ここ数年は将来のビジョンに沿ってスタッフ確保に力を傾注してきた結果、職員数は平成20年度424名から平成26年度では550名と約100名以上の増加となりました。

しかし、国家資格者による多職種共働という病院の特殊性に加え、組織の拡大から職員間の意思疎通が希薄化することが懸念されることも事実です。

このように医療を取り巻く環境が激しく変化する現在では、従来型の3年若しくは5年に亘る経営改善計画を策定し職員に周知するだけでは、安定した病院経営は展開できないことは明らかであるとともに、地域医療再生計画に基づいた新病院移転新築事業も進行しており将来に備えた経営基盤の強化、安定化は喫緊の課題です。

そこで医療行政の動向に対応しながら、この地域の医療ニーズに応えるには組織一丸となって取組んでいく必要があることから、医療バランスト・スコアカード（以下「BSC」という）を経営手法として平成26年度より本格導入することとしました。

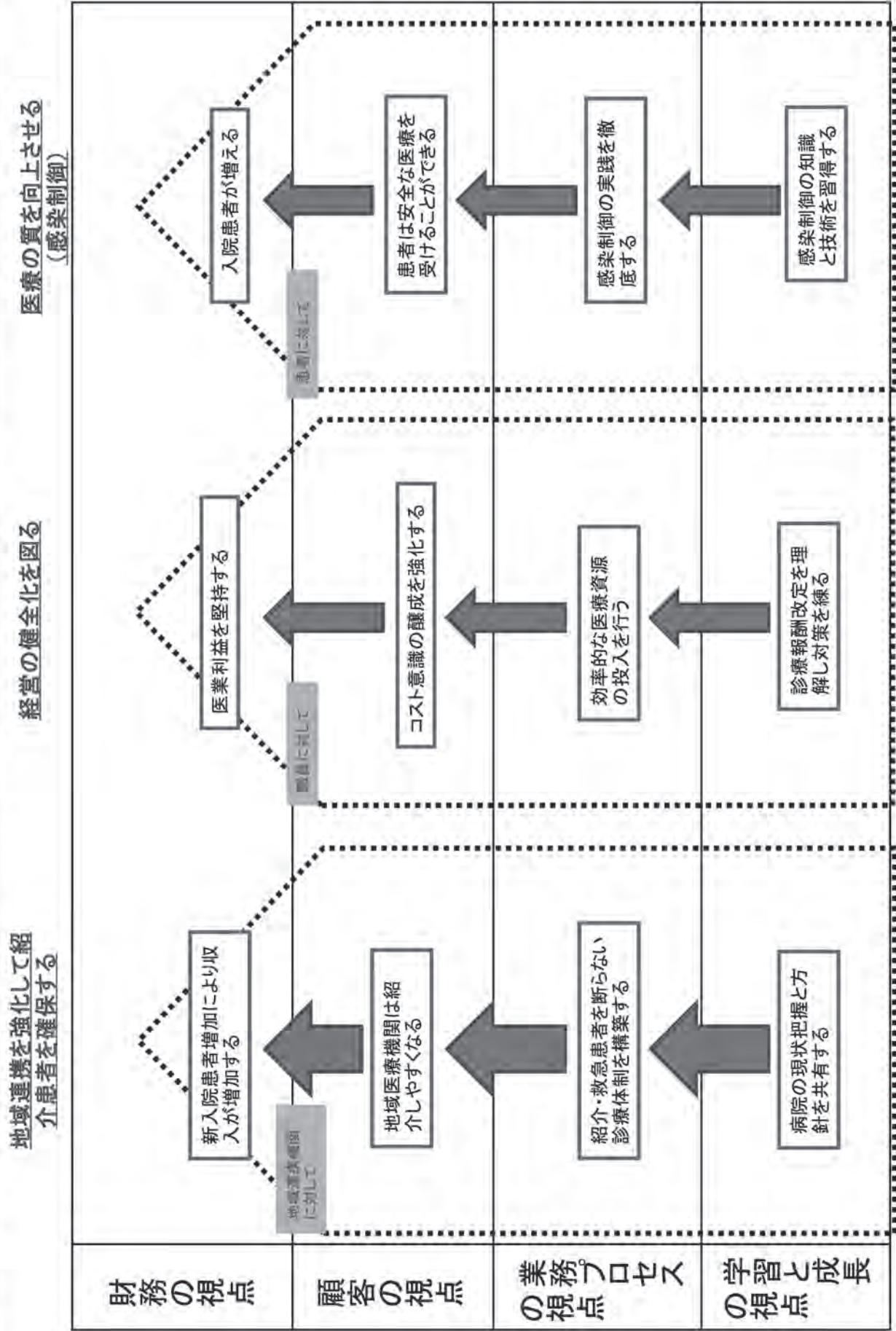
導入3年目となった平成28年度は日本医療バランスト・スコアカード研究学会第14回学術総会において当院の職員が優秀演題賞を獲得しました。

平成 28 年度病院 B S C

○戦略マップ

○スコアカード

ミッション:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
 ビジョン:新病院開院を機に紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、3年後の黒字化を目指す



〔平成28年度 病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念：「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン：新病院開院を機に紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、3年後の黒字化を目指す

《地域連携を強化して紹介患者を確保する》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ① 結果目標の達成のために、もたらさなければならない事業活動の成果	成果尺度 ② 結果目標がどのくらい達成されたかを測るための成果	現状値	目標値	行動計画（アクションプラン） ③ 結果目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	新入院患者増加により収入が増加する	新入院患者増加により収入が増加する	新入院患者数の増加	新入院患者数	・526人/月	・550人/月		
顧客の視点	地域医療機関は紹介しやすくなる	地域医療機関は紹介しやすくなる	紹介元の満足度が上がる	・紹介患者数 ・逆紹介患者数	・655人/月 ・483人/月	・750人/月 ・550人/月	・診療部内職員の接遇を改善する ・返書管理を徹底する ・他医療機関の意見を聞く ・外来予約システムを構築する。 ・逆紹介の推進	・医局長 ・地連室 ・地連室 ・外来運営委員会 ・診療部
業務プロセスの視点	紹介・救急患者を断らない診療体制を構築する	紹介・救急患者を断らない診療体制を構築する	・診療体制の見直し	・救急車の不応需率 ・紹介患者を断った症例数	・6.31% ・7.6件/月	・5% ・4件/月	・当直体制を充実させる。（休日3人体制） ・各科、各部署の対応策を工夫する。	・両副院長 ・各部署
学習と成長の視点	病院の現状把握と方針を共有する	病院の現状把握と方針を共有する	・これからの地域医療に関する知識の理解と共有をする。（地域包括ケアシステムを理解する）	・ミーティング回数	・1回/月	1回以上/月	・伝達方法を工夫する。 ・各部署でのミーティング強化（場所、時間、内容の工夫、講演会等の情報共有）	・各部署 ・各部署

〔平成28年度 病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:新病院開院を機に紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、3年後の黒字化を目指す

《経営の健全化を図る》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ①結果目標の達成のために、もたらさなければならない結果 ②結果目標を達成するための成果	成果尺度 ①結果目標の達成と②成果の達成 の両方	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ①結果目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	医療利益を堅持する	医療利益を堅持する	経営基盤の強化	・実質利益率	・5%	・0%		
顧客の視点	コスト意識の醸成を強化する	コスト意識の醸成を強化する	・診療行為の適正な情報伝達 ・各部門におけるコスト削減	・請求漏れの検証回数 ・SPD使用金額/医療収益	・0回 ・8.64%	・2回/年 ・7.5%	・入院前に外来で検査を済ませる ・請求漏れをチェックする ・原価計算の実施 ・各部門の在庫管理の見直し(各部門の適正在庫数) ・SPDデータをフィードバックする ・各部門のコスト削減	・診療部 ・医事課 ・企画、会計、総務 ・関係部署、会計 ・会計課 ・各部署
業務プロセスの視点	効率的な医療資源の投入を行う	効率的な医療資源の投入を行う	・変動費の圧縮 ・業務の効率化をはかる	・材料比率(材料費/医療収益) ・業務提案件数	・27.1% ・0件	・25% ・各部署1件	・クリニカルパスの見直し ・購入窓口を年度課に統一 ・交渉能力アップ ・院長ヒアリング時に業務提案ができるようにする	・パス委員 ・会計課 ・会計課 ・経営企画
学習と成長の視点	診療報酬改定を理解し対策を練る	診療報酬改定を理解し対策を練る	・データ分析力の向上	・管理会議における経営に関するデータの提供回数	・2回/年	・6回/年	・事務職員の外部長期研修の導入 ・タシシュボードの有効活用	・事務部 ・事務部

〔平成28年度 病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:新病院開院を機に紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、3年後の黒字化を目指す

《医療の質を向上させる》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ①戦略目標の達成のために、もたらさなければならない成果 ②戦略目標を達成するための成果	成果尺度 ①戦略目標と②の成果を比較する ②戦略目標と③の成果を比較する	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ①戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	入院患者が増える	入院患者が増える	・病床利用の適正化	・病床回転数 (空床期間+病床回転数)	・1.73/月	・1.83/月		
顧客の視点	患者は安全な医療を受けることができる	患者は安全な医療を受けることができる	・院内感染による入院の長期化を防ぐ	・平均在院日数 ・SSI発生率 ・CRE患者発生数	・15.0日 ・1.18% (1月～11月) ・3.4人/月 (4月～11月)	・14.0日以内 ・1.00%以下 ・0	・患者家族への手洗い指導 ・手洗い後培養実施(抜き打ち)	・看護部 ・医療安全 (感染管理)
業務プロセスの視点	感染制御の実践を徹底する	感染制御の実践を徹底する	・抗菌薬の適正使用 ・感染予防資材の適正使用	・届出指定抗菌薬の対前年使用量減少品目数 ・手指消毒薬使用量	・9/14品目 ・8.5プッシュ/患者	・14/14品目 ・10プッシュ/患者	・抗菌薬使用のマニュアル化 ・チェックカーによる定期的な検証	・医療安全 (ICT、薬剤部) (感染管理)
学習と成長の視点	感染制御の知識と技術を習得する	感染制御の知識と技術を習得する	・感染予防研修の充実	・新規実践研修の実施	・0回	各部署年2回以上	・各部署の研修担当者による計画実施	・各部署

唐津赤十字病院年報 平成28年度版

I 病院の概況

1. 病院の変遷	1
2. 病院の紹介	6
3. 病床数	10
4. 病院の組織表	11
5. 職員の状況	12
6. 土地・建物の概要	13
7. 施設案内図	14
8. 主要医療機器	15
9. 平成28年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	17
10. 平成29年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書	18
11. 医療事業会計決算の推移（過去4年）	19
12. 平成28年度院内各種委員会等組織表	20

II 統計

1. 患者統計	
(1) 入院	21
(2) 外来	23
(3) 救急	24
(4) 診療科別	25
(5) 平成28年度月別	27
2. 稼働統計	28
3. 手術統計	31
4. 業務統計	32

III 各部門の概況

1. 診療部門	
・糖尿病内科	34
・腎臓内科	37
・消化器内科	39
・呼吸器内科	43
・血液内科	46
・肝臓内科	50
・循環器内科	53
・小児科	55
・外科	60

・ 整形外科	68
・ 脳神経外科	74
・ 皮膚科	76
・ 泌尿器科	77
・ 産婦人科	79
・ 眼科	81
・ 放射線科	84
・ 麻酔科	86
・ 救急科	88
・ 病理診断科	91
・ 形成外科	94
2. 薬剤部門	
・ 薬剤部	95
3. 看護部	101
4. 医療技術部門	
・ 栄養課	117
・ 臨床工学技術課	119
・ 検査技術課	122
・ 放射線技術課	125
・ リハビリテーション技術課	128
5. 医療安全推進センター	130
6. 教育研修推進センター	139
7. 救命救急管理センター	142
8. がん医療推進センター	143
9. 地域医療連携室	148
10. 事務部	
・ 総務課	153
・ 会計課	156
・ 医事課	158
・ 経営企画・情報課	160
・ 広報推進室	176
11. 医療社会事業課	177

I 病院の概況



1. 唐津赤十字病院の変遷

- S32 10 月 唐津赤十字病院開設 内科、外科、小児科、理学診療科 4科
〈一般 46 床 結核 214 床 計 260 床〉
- S33 1 月 産婦人科開設
10 月 耳鼻咽喉科開設、理学診療科を放射線科に変更
11 月 整形外科開設
12 月 気管食道科開設
- S35 6 月 唐津市伝染病棟 30 床併設 一般 35 床増床
〈一般 121 床 結核 142 床 伝染 30 床 計 293 床〉
7 月 一般 3 床 結核 2 床増床
〈一般 124 床 結核 144 床 伝染 30 床 計 298 床〉
10 月 眼科開設〈総合病院承認〉
- S39 2 月 ラジウム治療室 2 床増床
〈一般 126 床 結核 144 床 伝染 30 床 計 300 床〉
- S42 4 月 東松浦郡伝染病棟 30 床併設
〈一般 126 床 結核 144 床 伝染 60 床 計 330 床〉
- S44 3 月 結核 74 床を一般病床へ変更
〈一般 200 床 結核 70 床 伝染 60 床 計 330 床〉
- S45 2 月 救急告示病院指定
12 月 唐津市助産施設 3 床増床
〈一般 203 床 結核 70 床 伝染 60 床 計 333 床〉
- S46 8 月 理学診療科開設
- S48 4 月 心療内科開設
- S54 1 月 病院改築着工
- S55 3 月 病院改築第 1 期工事完工
6 月 皮膚科開設
- S56 2 月 病院改築竣工 (S54.1～S56.1)
4 月 病院群輪番制病院指定
6 月 泌尿器科開設
- S57 4 月 脳神経外科、神経内科開設
11 月 病床変更 結核 70→30 床、伝染 60→30 床、70 床を一般病床へ変更
〈一般 273 床 結核 30 床 伝染 30 床 計 333 床〉
- S58 4 月 歯科開設



	6 月	血液透析開始
S63	4 月	麻酔科開設
	9 月	ICU・CCU、救急処置室等増築工事竣工
H 元	4 月	一般 10 床増床〈一般 283 床 結核 30 床 伝染 30 床 計 343 床〉 医事システム運用開始
H 3	3 月	リハビリテーション等棟竣工
H 4	3 月	2 階西病棟改修竣工（小児病棟）
H 5	3 月	一般 30 床増床〈一般 313 床 結核 30 床 伝染 30 床 計 373 床〉
H 5	5 月	「経営改善委員会」設置
	6 月	H I V 感染症に関する中核医療機関指定
H 6	3 月	互助会設立
	4 月	結核病床 30 床休止
H 7	11 月	外来診療録ジャストサーチシステム導入
H 8	4 月	「経営改善実施計画」スタート（県、市町村補助開始）
	6 月	初診料特定療養費届出（紹介患者VI）
	10 月	手術室（中央材料室）改修工事、血液透析室移転工事竣工
	12 月	I C U 新設工事、外科・脳外科外来移転工事竣工、中央処置室運用開始
H 9	1 月	I C U 届出（第 3 号）
	2 月	2 階東病棟改修工事竣工
	3 月	新看護届出（第 72 号）、血管造影室（一般、心臓カテーテル）竣工
	4 月	心臓カテーテル検査運用開始
	7 月	5 階病棟改修工事竣工
	9 月	院外処方箋発行開始
	11 月	地域災害医療センター（地域災害拠点病院）指定
	11 月	オーダーリングシステム（処方）、医事、薬剤システム運用開始
H10	1 月	結核病床 30 床廃止 〈一般 313 床 伝染 30 床 計 343 床〉
	4 月	「臨床研修病院」指定
	4 月	呼吸器科、消化器科、循環器科開設 気管食道科廃止
	4 月	再来予約オーダー運用開始
	6 月	駐車場有料化
	9 月	病棟オーダー、検査オーダー 検査部門システム 給食部門システム運用開始
	12 月	検査予約オーダー・S P D システム運用開始
H11	4 月	感染症医療機関指定（伝染 30 床 → 感染症 4 床） 〈一般 313 床 感染 4 床 計 317 床〉



	4 月	心療内科休診
	8 月	「診療録管理室」設置
	10 月	医療事故防止マニュアルの策定(リスクマネジメント)
H12	1 月	「診療情報の提供に関する要領」策定
	4 月	旧病棟(伝染病棟)解体
	5 月	駐車場 40 台分増設
	9 月	MR I 更新、「地域医療連携室」運営開始
	10 月	システム運用による院外処方箋発行開始
	12 月	無菌手術棟増築工事竣工
H13	1 月	初診料特定療養費の変更(750 円→1,050 円)
	3 月	電話交換機更新、院内 P H S 導入
	4 月	「経営自立 3 カ年計画」スタート
	7 月	新看護 2 : 1 体制届出
H14	1 月	外来診療録 1 患者 1 診療録運用開始
	10 月	ホームページ開設
	11 月	ラジウム治療廃止
H15	2 月	新病棟増築工事竣工、受水槽移設工事完成
	4 月	一般病床 20 床増床〈一般 333 床 感染症 4 床 計 337 床〉
	4 月	南病棟運用開始、病棟再編成
	4 月	2 階西病棟休床
	9 月	C R システム稼動
H16	3 月	新医事システム稼動、急性期入院加算届出辞退
	4 月	「第 3 次経営改善計画」スタート
	10 月	共同利用型病床届出
H17	4 月	初診料特定療養費の変更(1,050 円→1,575 円)
	8 月	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術届出
H18	2 月	リストバンド運用開始
	4 月	一般病棟入院基本料 10 対 1
	7 月	テレビ掲示システム導入
	8 月	イントラネット(グループウェア)導入
	9 月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価受審
	11 月	デジタル X 線テレビシステム更新
	12 月	特定集中治療室(ICU)管理料施設基準辞退
H19	1 月	7 対 1 入院基本料届出、地域がん診療連携拠点病院指定
	2 月	「看護管理センター」設置
	2 月	N S T 稼動施設認定



- 3 月 64 列マルチスライス C T 導入
- 4 月 「第 4 次経営改善計画」 スタート
- 4 月 テレパソロジーによる病理組織迅速顕微鏡検査開始
- 7 月 地域医療支援病院指定
- 8 月 病院機能評価 (Ver. 5.0) 認定
- 10 月 開院 50 周年
- 12 月 新医療情報システム (オーダーリング) 稼働
- H20 1 月 A E D 設置 (7 台 : 各病棟・外来)
- 4 月 産婦人科医 1 人体制へ
- 7 月 救急科開設
- 10 月 病院敷地内全面禁煙
- 12 月 内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出 (切除術) 開始
- H21 3 月 佐賀県災害派遣医療チーム (佐賀県 DMAT) 指定病院へ指定
D P C 算定開始
地域救命救急センター設置 (認定)
- 7 月 「ほほえみの会 (がん患者会)」 発足
- H22 3 月 循環器用血管撮影装置更新
- 4 月 新医事システム (H O P E) 稼働
光サーチシステム機器の更新
産婦人科医 2 人体制へ
- 9 月 佐賀県がん診療連携協議会スタート
- 10 月 市民公開講座「がんと上手に付き合う方法」
- H23 1 月 ホームページ全面リニューアル
- 4 月 救護活動市民報告会開催
(東日本大震災における唐津赤十字病院の救護班の活動報告会)
産婦人科医 3 人体制へ
小児科 5 人体制へ
病理診断科開設
「病院建設推進室」 設置
「フットケア外来」 開設
- 7 月 フィルムレス用モニター一部設置・稼働
- 9 月 第 34 回佐賀救急医学会
- 10 月 形成外科開設
フィルムレス用モニター設置完了・全稼働
- 11 月 地域連携システム稼働
市民公開講座「がんと上手に付き合おう」



- H24 1 月 「ハートケア外来」開設
 2 月 フィルムレス全運用開始
 3 月 唐津赤十字病院N S T公開講座「地域一体型の栄養サポートをめざして」
 血管造影装置更新
 4 月 「臨床工学技術課」設置
 9 月 新病院設計業者決定プロポーザル
 地域医療連携特別講演会
 11 月 J I C A インドネシアプロジェクト研修受け入れ
 12 月 市民公開講座「もっと知ろう！がんの治療」
 新病院建設基本設計開始
- H25 2 月 日本医療マネジメント学会
 4 月 「唐津赤十字病院経営計画」スタート
 6 月 医療バランスト・スコアカード（B S C）導入開始
 11 月 市民公開講座「もっと知ろう乳がんのこと」
- H26 3 月 生理検査部門システム導入
 リハビリ管理システム導入
 6 月 新病院移転新築工事起工式
- H27 11 月 市民公開講座「もし、その時が近づいたなら・・・」
- H28 4 月 新病院引渡し式
 7 月 新病院落成式
 8 月 新病院開院（二タ子地区 → 和多田地区）
 〈28科 一般 300床 感染 4床 計 304床〉
 電子カルテシステム稼働
 11 月 市民公開講座「がんと向き合い生きよう～仲間と支え合い、分かち合いながら～」



2. 病院の紹介

◇名 称	唐津赤十字病院				
◇所 在 地	佐賀県唐津市和多田 2 4 3 0				
◇開 設 年 月 日	昭和 3 2 年 1 0 月 1 5 日				
◇診 療 科 目	内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・糖尿病内科・神経内科・腎臓内科 循環器内科・小児科・外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・脳神経外科 皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・救急科・形成外科 精神科・リハビリテーション科・病理診断科2 8 科				
◇医療機関指定	臨床研修病院（基幹型・九大協力型・佐大協力型） 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 地域救命救急センター 佐賀県緊急医療施設（管理受諾） 救急告示病院 地域災害拠点病院（地域災害医療センター） H I V 感染症に関する中核医療機関 第二種感染症指定医療機関 二次被ばく医療機関				
◇許可病床数	3 0 4 床	{	一般病床 3 0 0 床（うち）地域救命救急センター1 6 床 （うち）無菌治療室（緊急被ばく医療）4 床 （うち）共同利用型病床5 床 感染症病床 4 床		
◇特殊医療施設	無菌手術室（緊急被ばく医療）1 室 血液透析室1 1 床 外来化学療法室2 1 床				
◇高額医療機器	6 4 列、3 2 0 列マルチスライス C T、血管造影装置（一般、心臓カテーテル用） R I（シンチレーションカメラ）、ライナック（高エネルギー放射線治療装置） M R I（Gyrosan Intera 1.5T、3.0T）、体外衝撃波腎・尿管結石破碎装置				
◇敷 地 面 積	2 9， 0 6 7 m ² （市有地無償貸与）				
◇建築延面積	2 1， 0 0 4． 4 4 m ² 本館（鉄筋コンクリート造 6 階建）2 3， 3 0 3． 1 9 m ² エネルギー棟（鉄筋コンクリート造 2 階建）8 0 6． 1 8 m ² マニホールド（鉄筋コンクリート造平屋建）2 1． 0 0 m ² 立体駐車場（鉄骨造 3 階建）4， 0 4 2． 9 2 m ²				
◇駐 車 場	6 4 1 台				



◇施 設 基 準	一般病棟入院基本料(7 対 1 入院基本料) 総合入院体制加算 3 超急性期脳卒中加入算 診療録管理体制加算 1 医師事務作業補助体制加算 1 (25 対 1) 急性期看護補助体制加算 (25 対 1) (看護補助者 5 割以上) 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 無菌治療室加算 2 医療安全対策加算 I 感染防止対策加算 I (感染防止地域連携加算) 患者サポート体制充実加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ハイリスク妊娠管理加算 データ提出加算 2 イ 退院支援加算 2 精神疾患診療体制加算 救命救急入院料 3 注 4、注 7 小児入院医療管理料 4 入院食事療養 (I) 糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料 1、がん患者指導管理料 2 糖尿病透析予防指導管理料 腎不全期患者指導加算 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料 開放型病院共同指導料 がん治療連携計画策定料 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料 1 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 H P V 核酸検出及び H P V 核酸検出 (簡易ジェノタイプ) 検体検査管理加算 (IV) 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ヘッドアップティルト試験 コンタクトレンズ検査料 I
----------	--



	小児食物アレルギー負荷検査 画像診断管理加算 2 C T 撮影及びMR I 撮影 冠動脈C T 撮影加算 外傷全身C T 加算 大腸C T 撮影加算 心臓MR I 撮影加算 乳房MR I 撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算 1 無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション料（I）初期加算 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）初期加算 運動器リハビリテーション料（I）初期加算 呼吸器リハビリテーション料（I）初期加算 がん患者リハビリテーション料 透析液水質確保加算 1 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 大動脈バルーンパンピング法（I A B P 法） 腹腔鏡下肝切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 医科点数表第 2 章第 1 0 部手術の通則 1 6 に掲げる手術 輸血管理料 II 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 麻酔管理料（I） 高エネルギー放射線治療 病理診断管理加算 I 酸素の購入単価に関する届出 特別の療養環境の提供（特別室）の届出 1 8 0 日越特定療養費
◇学会認定施設等	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設



	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本消化器病学会専門医制度関連施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本乳癌学会認定関連施設
	日本脳神経外科学会専門医訓練施設
	日本整形外科学会研修施設
	日本泌尿器学会専門医教育施設
	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
	日本臨床細胞学会認定施設
	日本病理学会研修登録施設
	日本小児科学会小児科専門医研修施設
	呼吸器外科専門医制度認定修練施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本透析医学会認定施設
	日本栄養療法推進協議会 N S T 稼働施設



3. 病床数

(1) 許可病床数

		病床数
種 別	一 般	300床
	感 染 症	4床
合 計		337床

(2) 病棟別病床内訳

病棟 / 区分	病 床 数		診療科
	許 可 病 床 数	実 働 病 床 数	
地域救命救急センター (3階南)	16床	16床	重 症
3階西	40床	40床	内 科 系 脳 神 経 外 科 眼 科
4階東	25床	25床	産 婦 人 科 外 科 乳 腺 外 科
4階西	42床	42床	外 科 乳 腺 外 科
4階南	15床	15床	小 児 科 (感染症病床4床含む)
5階東	42床	42床	整 形 外 科 泌 尿 器 科
5階西	40床	40床	混 合
6階東	42床	42床	内 科 系 (無菌室4床含む)
6階西	42床	42床	内 科 系 (陰圧室4床含む)
合 計	304床	304床	

※内科系（内科・糖尿病内科・腎内科・呼吸器科・消化器科・血液内科）

5. 職員の状況

平成28年4月1日現在

	全職員	正職員	常 嘱	臨時	非常嘱	パート
医師	73	55	18			
医師	55	55				
レジデント	8		8			
研修医	5		5			
嘱託医師						
県派遣	5		5			
看護師	313	293	11			9
助産師	10	10				
看護師	303	283	11			9
准看護師						
コメディカル	79	78	1			
薬剤師	17	17				
検査技師	18	17	1			
放射線科技師	14	14				
臨床工学技士	6	6				
栄養士	4	4				
理学療法士	9	9				
視能訓練士	3	3				
歯科衛生士	2	2				
マッサージ師	1	1				
言語聴覚士	2	2				
作業療法士	3	3				
事務	63	33	28	1		1
県派遣						
事務	50	31	17	1		1
メディカルクラーク	13	2	11			
福祉職	31	6	25			
社会福祉士	4	4				
介護福祉士	2	2				
ケアワーカー	25		25			
その他	14	6	7	1		
看護助手	4	3	1			
クラーク	3		3			
薬剤助手	2		2			
放射線科助手	2		1	1		
調理師	3	3				
技術員						
合 計	573	471	90	2		10



6. 土地・建物の概要

(1) 土地

敷地面積 **29,067㎡**

(2) 建物

名 称	構 造	階	床面積	用 途	建築年月日
本 館	鉄 筋 コンクリート造	1	5,914.27㎡	総合受付・ガレリア・医事課・患者総合支援センター・外来診察室・中央処置室・放射線科・検査(生理)・内視鏡室・疾病予防センター・佐野講堂・コンビニ・患者ラウンジ・ATM・院内保育所	H28.4.30
		2	4,818.61㎡	血液浄化センター・リハビリテーション・外来化学療法室・薬剤部・検査技術課・栄養課・医局・事務室・倉庫他	
		3	3,874.73㎡	病棟・手術室・中央材料室・MEセンター	
		4	3,145.71㎡	病棟	
		5	2,497.40㎡	病棟・看護部	
		6	2,497.40㎡	病棟	
		7	555.07㎡	搬送EVホール・設備機械室	
本 館 計			23,303.19㎡		
エネルギー棟	鉄 筋 コンクリート造	1	607.24㎡	中央監視室・備蓄倉庫・電気室・医療ガス機械室・倉庫他	H28.4.30
		2	198.94㎡	自家発電機室・廃棄物庫等	
エネルギー棟計			806.18㎡		
マニホールﾄﾞ	鉄 筋 コンクリート造	1	21.00㎡	マニホールﾄﾞ	H28.4.30
マニホールﾄﾞ計			21.00㎡		
立体 駐車場	鉄骨造	1	1,010.76㎡	駐車場	H28.5.17
		2	1,516.08㎡	駐車場	
		3	1,516.08㎡	駐車場	
立体駐車場計			4,042.92㎡		
延べ床面積 合計			28,173.29㎡		

7. 施設案内図

病棟編成

7階	ヘリポート		
6階	6階西病棟 内科系 42床	CW控室 学生控室	6階東病棟 内科系 42床
5階	5階西病棟 混合病棟 40床	看護管理センター 医療安全推進センター	5階東病棟 整形外科 泌尿器科 42床
4階	4階西病棟 外科 乳腺外科 42床	産婦人科外来	4階東病棟(周産期) 産婦人科 外科 乳腺外科 25床
		4階南病棟(小児病棟) 小児科 15床(感染症病床4床を含む)	
3階	3階西病棟 脳神経外科 内科系 眼科 40床	手術室 (無菌手術室1室を含む)	
		3階南病棟(救命救急病棟) 地域救命救急センター 16床	
2階	事務室 職員ラウンジ 会議室 医局 SPD カルテ庫	リハビリテーション技術課 薬剤部 栄養課 検査技術課 血液浄化センター 外来化学療法室	霊安室 当直室
1階	総合受付 外 来 ローソン 患者ラウンジ 院内保育園 佐野講堂	ガレリア 患者総合支援センター 疾病予防センター 医事課 生理検査室 内視鏡室	中央処置室 放射線科 守衛室 救急外来 小児救急センター



8. 主要医療機器

機器名	数量	設置場所	取得年月日
デジタルX線テレビシステム(Winscope64)	1	放射線科	平成18. 08. 28
X線コンピュータ断層撮影装置CT(64列)	1		平成19. 03. 27
ライナック(PRIMUS Mid-Energy M2-6745)	1		平成20. 03. 20
循環器用血管撮影装置(INFX-8000V)	1		平成22. 03. 31
X線撮影装置(東芝)※主要ユニット交換	1		平成22. 12. 28
核磁気共鳴画像診断装置MRI (1. 5T)	1		平成23. 03. 29
一般X線撮影装置	1		平成23. 09. 30
頭腹部用血管撮影装置(シーメンス)	1		平成24. 03. 31
放射線治療計画装置 エレクタ Xio	1		平成26. 11. 28
核磁気共鳴画像診断装置MRI(3. 0T)	1		平成28. 07. 11
骨密度測定装置	1		平成28. 07. 29
X線コンピュータ断層撮影装置CT(320列)	1		平成28. 08. 01
バーチャルスライドシステム(C9600-50)	1	検査室	平成19. 04. 25
自動血液・尿分析検査システム(シスメックス)	1		平成19. 10. 22
凍結切片作成装置(ティシュー・テック クライオ3)	1		平成21. 08. 21
東芝フルデジタル超音波診断装置 Aplio XG	1		平成21. 04. 13
循環器超音波診断装置(iE33 Live3D)	1		平成23. 10. 31
生理検査システム(H1-MEDIONシステム一式)	1		平成26. 03. 31
超音波画像診断装置(aplio 400)	1		平成28. 03. 31
Force Triad エネルギープラットフォーム	1	手術室	平成20. 09. 02
内視鏡下椎間板摘出システム	1		平成20. 09. 17
麻酔器(エスティバ7900)	1		平成21. 09. 02
麻酔器(ファビウスタイロ)	1		平成21. 09. 02
手術室用モニター(BSM-5100 麻酔器対応)	2		平成21. 08. 27
手術用顕微鏡	1		平成23. 09. 30
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成23. 11. 30
外科用Cアーム(GE)	1		平成26. 12. 20
超音波手術器(ソノペット UST-2001)	1		平成26. 11. 28
眼科(網膜・硝子体／白内障)手術装置コンステレーションビジョン	1		平成28. 08. 01
胆道ビデオスコープ CHF-240	1	中央材料室	平成20. 08. 20
外科用Cアーム(フィリップス)	1		平成28. 12. 28
超音波画像診断装置(S-Nerve L-07810)	1		平成25. 11. 06
低温プラズマ滅菌システム(ステラット100S)	1	中央材料室	平成26. 01. 18
低温プラズマ滅菌システム(ステラットNX)	1		平成28. 08. 01
電子内視鏡システム(Q-260)	1	内視鏡	平成18. 11. 29
上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-Q260J	1		平成20. 08. 26
上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-XP260N	1		平成20. 08. 26
大腸ビデオスコープ(EVIS LUCERA TYPE Q260JII)	1		平成21. 08. 25
内視鏡システム(EVIS LUCERA ELITE)	1		平成25. 11. 08
超音波内視鏡システム(EU-MEI)	1		平成24. 09. 16
電子内視鏡システム(EVIS-LUCERAELITE)	1		平成28. 08. 01
内視鏡画像システム(オリンパス)	1		平成28. 08. 01
血液浄化装置 JUN-55X	1	血液透析室	平成20. 09. 30
透析液供給装置	1		平成23. 09. 30
血液透析機器(DBB-27(1))	1		平成24. 10. 29
血液透析機器(DCS-100NX)	7		平成28. 08. 01
経皮の心肺補助装置 キャビオスEBS	1	救急室	平成23. 09. 30
循環動態モーターシステム	1		平成24. 10. 31
超音波診断装置(Xario200)	1		平成26. 11. 28
ベッドサイドモニター	2		平成28. 08. 01
血ガス分析装置(ABL90)	1	救命	平成28. 07. 22
セントラルモニター4人用	1		平成28. 08. 01
ベッドサイドモニター	11		平成28. 08. 01
血ガス分析装置(ABL825)	1	救命	平成27. 06. 30



機器名	数量	設置場所	取得年月日
マンモトームシステム	1	外科	平成22. 09. 21
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成24. 09. 30
超音波診断装置(SDD-ALPHA7-S)	1		平成25. 10. 31
超音波診断装置(Xario XG SSA-680)	1	泌尿器科	平成23. 09. 30
YAGレーザー(ドルニエ)	1		平成28. 06. 29
体外式衝撃波結石破碎装置(ドルニエ)	1		平成28. 06. 29
サージトロンドュアルEMC	1	皮膚科	平成26. 11. 28
分娩監視装置(FM-20N)アトム	1	産婦人科	平成26. 10. 28
超音波診断装置(Prosound α7)	1		平成23. 09. 30
超音波診断装置(Xario 200)	1		平成27. 11. 26
超音波診断装置(Xario 100)	1		平成28. 08. 01
超音波診断装置(Xario 100)	1		平成29. 02. 22
超音波画像診断装置(UD-1000BM)	1	眼科	平成19. 08. 23
OTC光干渉断層撮影装置 (HS-100)	1		平成25. 07. 07
散瞳・無散瞳一体型眼底カメラ (VX-20・VK-2)	1		平成26. 03. 31
マルチカラーレーザー/ヤグレーザーコンビ	1		平成26. 11. 28
開頭手術用ドリル(レジェンドシステム)	2	脳外科	平成20. 08. 12
脳神経内視鏡システム(OTV-S7ProH-HD-12E)	1		平成25. 05. 07
脳室ビデオスコープ(VEF-V)	1		平成25. 05. 07
成分採血装置(COM. TEC)	1	内科	平成21. 08. 27
汎用超音波画像診断装置(フィブrosキャン502)	1		平成24. 12. 31
経鼻咽頭食道ビデオスコープセット(VISERA OFFJCE)	1	耳鼻咽喉科	平成21. 07. 03
透視下・内視鏡下脊椎手術システム	1	整形外科	平成22. 09. 28
低侵襲手術システム	1		平成25. 11. 27
脊椎用ハンドピース(ソノペット)	1		平成28. 11. 30



9. 平成28年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

I. 収益的收入及び支出

(単位:円)

区 分 項 目	平成28年度 予算額	構成比率 (%)	平成28年度 決算額	予算対比 (%)	備 考	
病院収入	9,059,906,000		8,736,851,721	▲ 3.6		
医業収益	7,469,851,000	100.0	7,319,854,965	▲ 2.0	病床利用率	83.1%
入院収益	5,522,250,000	73.9	5,352,026,090	▲ 3.1	入院稼働日	365
外来収益	1,794,793,000	24.0	1,813,692,118	1.1	外来稼働日	243
その他医業収益	170,347,000	2.3	170,672,190	0.2		
保険等査定減	▲ 17,539,000	▲ 0.2	▲ 16,535,433	▲ 5.7		
医業外収益	1,585,895,000		1,276,699,305	▲ 19.5		
医療社会事業収益	160,000		109,150	▲ 31.8		
特別利益	4,000,000		140,188,301	3404.7		
					医業収益負荷率(%)	
病院費用	11,051,345,000		10,057,959,019	▲ 9.0	本年度	前年度
医業費用	9,075,730,000		8,893,641,178	▲ 2.0	121.5	121.5
医業外費用	136,051,000		130,987,217	▲ 3.7		
医療奉仕費用	16,720,000		19,780,287	18.3		
特別損失	1,810,534,000		1,011,532,230	▲ 44.1		
法人税等	2,310,000		2,018,107	▲ 12.6		
予備費	10,000,000			—		
当期利益	▲ 1,991,439,000		▲ 1,321,107,298	▲ 33.7		

II. 資本的收入及び支出

区 分 項 目	平成28年度 予算額	構成比率 (%)	平成28年度 決算額	予算対比 (%)	備 考
病院収入	4,627,077,912	100.0	4,172,526,393	▲ 9.8	
固定負債	4,457,423,912	96.3	4,014,210,285	▲ 9.9	
その他資本収入	169,654,000	3.7	158,316,108	▲ 6.7	
病院費用	4,627,077,912	100.0	4,172,526,393	▲ 9.8	
固定資産	4,495,861,912	97.2	4,041,310,713	▲ 10.1	
借入金等償還	131,216,000	2.8	131,215,680	▲ 0.0	



10. 平成29年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書

I. 収益的収入及び支出

(単位:円)

区分 項目	平成29年度 予算額	予算対比 (%)	平成28年度 予算額	構成比率 (%)	備考	
病院収入	8,967,908,000	▲ 1.0	9,059,906,000			
医業収益	7,894,702,000	5.7	7,469,851,000	100.0	病床利用率	92.6%
入院収益	5,650,000,000	2.3	5,522,250,000	73.9	入院稼働日	365
外来収益	2,065,000,000	15.1	1,794,793,000	24.0	外来稼働日	243
その他医業収益	195,132,000	14.5	170,347,000	2.3		
保険等査定減	▲ 15,430,000	▲ 12.0	▲ 17,539,000	▲ 0.2		
医業外収益	1,072,546,000	▲ 32.4	1,585,895,000			
医療社会事業収益	160,000	0.0	160,000			
特別利益	500,000	▲ 87.5	4,000,000			
					医業収益負荷率(%)	
病院費用	10,244,683,000	▲ 7.3	11,051,345,000		本年度	前年度
医業費用	9,268,915,000	2.1	9,075,730,000		117.4	121.5
医業外費用	129,927,000	▲ 4.5	136,051,000			
医療奉仕費用	24,855,000	48.7	16,720,000			
特別損失	808,822,000	▲ 55.3	1,810,534,000			
法人税等	2,164,000	▲ 6.3	2,310,000			
予備費	10,000,000	0.0	10,000,000			
当期利益	▲ 1,276,775,000	▲ 35.9	▲ 1,991,439,000			

II. 資本的収入及び支出

区分 項目	平成29年度 予算額	予算対比 (%)	平成28年度 予算額	構成比率 (%)	備考
病院収入	609,895,000	▲ 86.8	4,627,077,912	100.0	
固定負債	0	▲ 100.0	4,457,623,912	96.3	
その他資本収入	609,895,000	259.9	169,454,000	3.7	
病院費用	609,895,000	▲ 86.8	4,627,077,912	100.0	
固定資産	511,945,000	▲ 88.6	4,495,861,912	97.2	
借入金等償還	97,950,000	▲ 25.4	131,216,000	2.8	



11. 医療事業会計決算の推移（過去4ヵ年）

(単位:円)

項目	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	決算値	前年対比(%)	決算値	前年対比(%)	決算値	前年対比(%)	決算値	前年対比(%)
病院収入	7,318,226,189	5.9	7,610,815,184	4.0	7,722,437,785	1.5	8,736,851,721	13.1
医業収益	7,092,641,978	6.8	7,415,909,218	4.6	7,549,653,760	1.8	7,319,854,965	▲ 3.0
入院収益	5,307,190,785	3.8	5,502,874,592	3.7	5,592,475,638	1.6	5,352,026,090	▲ 4.3
外来収益	1,637,065,524	13.5	1,747,575,602	6.8	1,814,142,717	3.8	1,813,692,118	▲ 0.0
その他医業収益	165,434,344	70.9	177,949,130	7.6	162,150,721	▲ 8.9	170,672,190	5.3
保険等査定減	▲ 17,048,675	36.0	▲ 12,490,106	▲ 26.7	▲ 19,115,316	53.0	▲ 16,535,433	▲ 13.5
医業外収益	213,686,680	▲ 19.5	186,692,788	▲ 12.6	168,458,573	▲ 9.8	1,276,699,305	657.9
医療社会事業収益	152,429	▲ 91.6	164,581	8.0	501,011	204.4	109,150	▲ 78.2
特別利益	11,745,102	134.7	8,048,597	▲ 31.5	3,824,441	▲ 52.5	140,188,301	3,565.6
病院費用	7,026,317,564	5.6	7,339,140,120	4.5	7,504,452,844	2.3	10,057,959,019	34.0
医業費用	6,879,807,392	5.8	7,192,897,930	4.6	7,356,373,642	2.3	8,893,641,178	20.9
医業外費用	121,959,739	▲ 3.4	125,233,651	2.7	126,475,277	1.0	130,987,217	3.6
医療奉仕費用	20,400,758	5.2	16,772,684	▲ 17.8	16,686,232	▲ 0.5	19,780,287	18.5
特別損失	2,205,765	▲ 38.2	2,223,747	0.8	2,666,045	19.9	1,011,532,230	37,841.3
法人税等	1,943,910	34.7	2,012,108	3.5	2,251,648	11.9	2,018,107	▲ 10.4
予備費								
医業収支	212,834,586		223,011,288		193,280,118		▲ 1,573,786,213	
当期純利益(損失)	291,908,625		271,675,064		217,984,941		▲ 1,321,107,298	



12. 唐津赤十字病院委員会等組織表



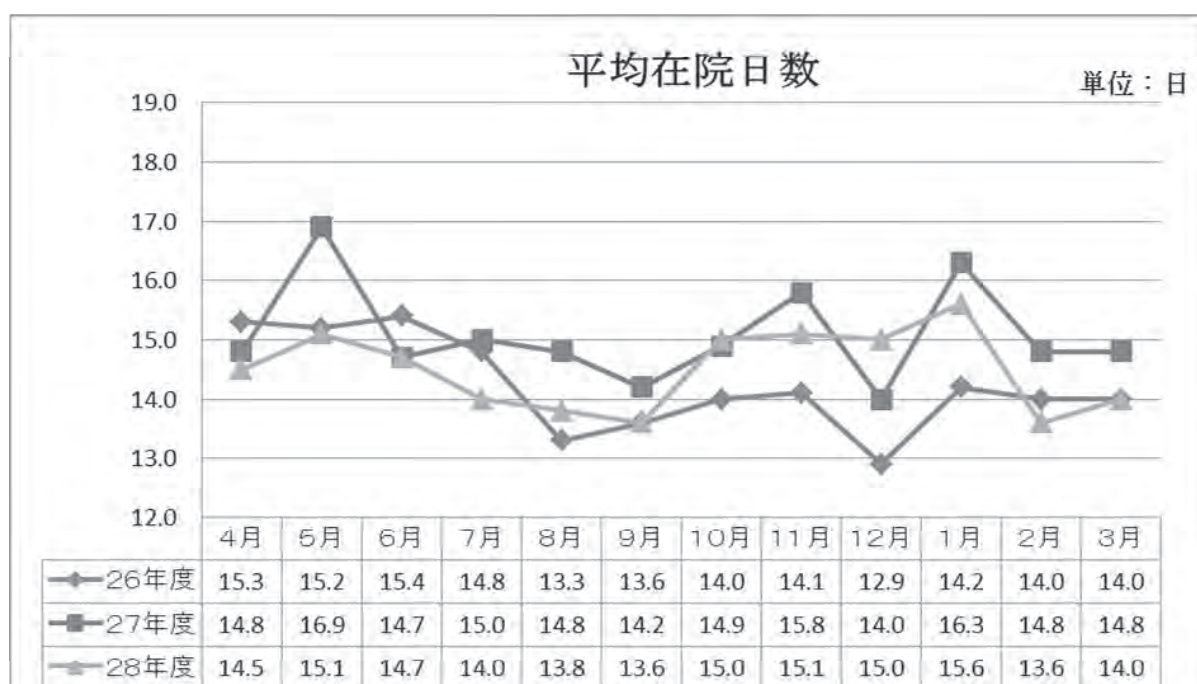
Ⅱ 統計



1. 患者統計

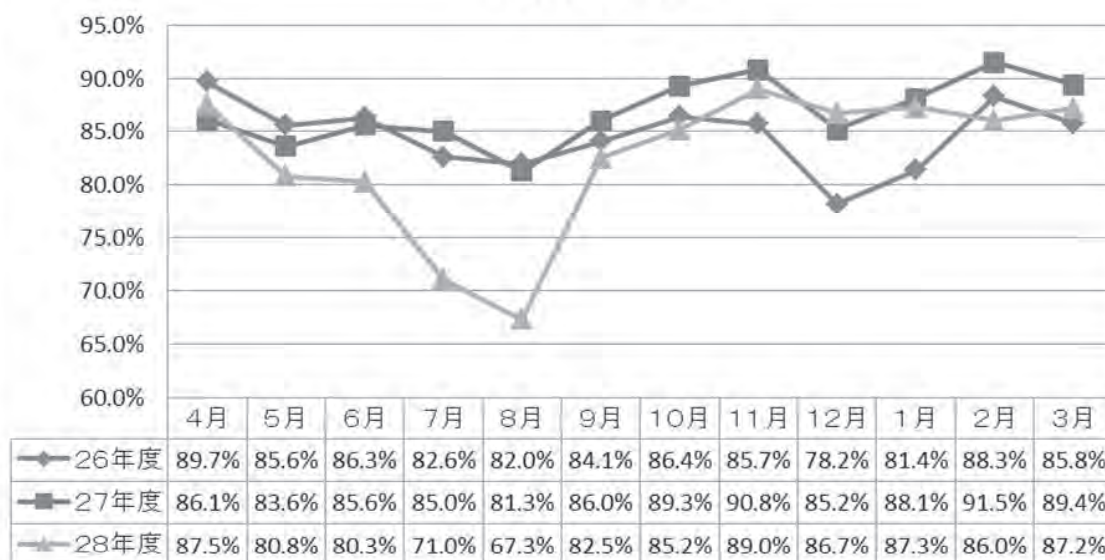
(1) 入院

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
入院	実働病床数(床)	301	301	304
	実日数(日)	365	366	365
	入院患者数(人)	99,524	101,965	97,572
	病床利用率(%)	84.6	86.8	82.3
	平均在院日数(日)	14.2	15.0	14.5
	1日平均入院患者数(人)	272.7	278.6	267.3
	入院診療単価(円)	55,149	54,680	54,565



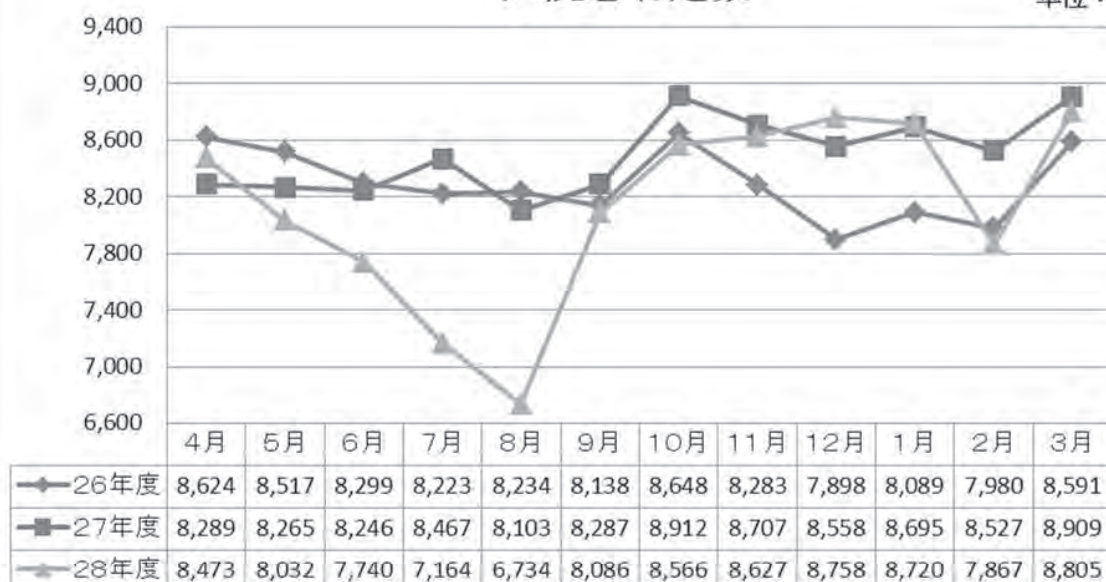


病床利用率



入院患者延数

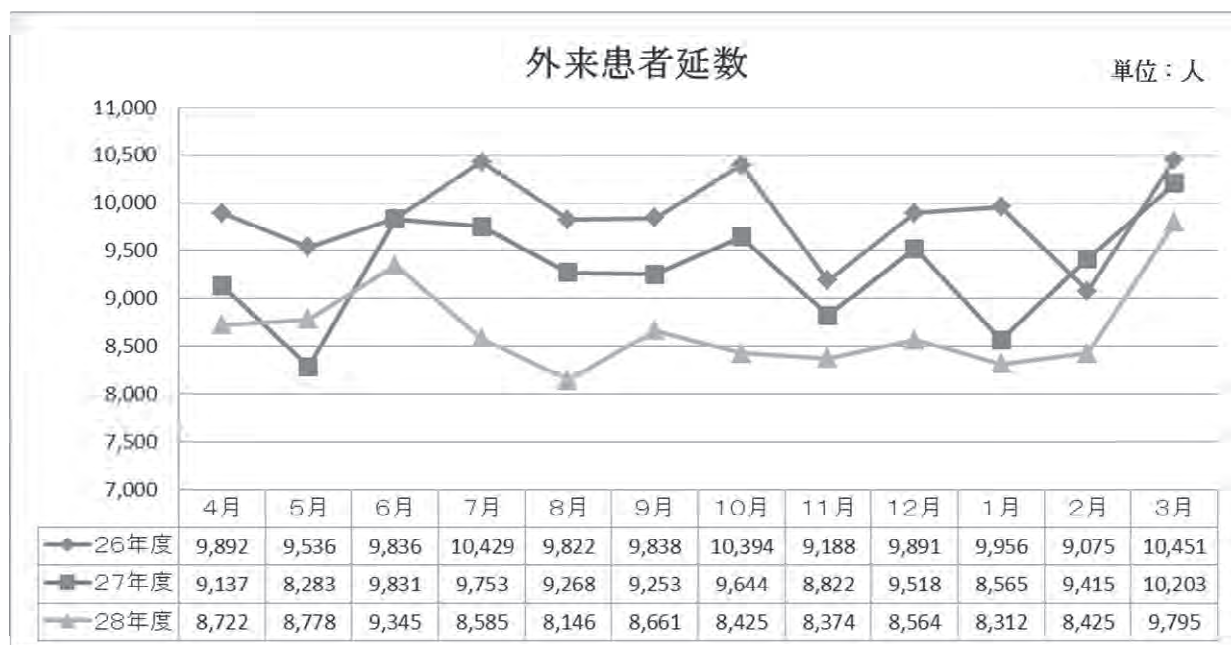
単位：人





(2)外来

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	実日数(日)	243	243	243
	外来患者延数(人)	118,308	111,692	104,132
	紹介患者数(人)	8,393	7,708	7,360
	紹介率(%)	84.4	89.8	88.5
	1日平均外来患者数(人)	486.9	461.5	428.5
	外来診療単価(円)	14,672	16,588	17,351





(3)救急

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
救急患者数	患者数(人)	8, 041	7, 983	7, 329
	診療科別内訳	内 科	2, 741	2, 732
		小 児 科	1, 097	748
		外 科	833	982
		整 形 外 科	719	598
		脳神経外科	504	387
		産 婦 人 科	198	186
		そ の 他	1, 891	1, 696
	患者搬送別	救 急 車	1, 991	1, 979
		そ の 他	5, 992	5, 350



(4)診療科別

外来患者数

(人)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
内 科	35,105	37,144	38,432	37,853	36,849
小 児 科	11,132	11,249	12,445	10,823	8,417
外 科	13,651	14,327	14,551	15,172	14,983
整 形 外 科	11,179	10,999	11,424	10,887	10,585
脳神経外科	3,420	3,736	3,582	3,244	2,912
皮 膚 科	4,205	4,562	4,199	4,437	4,439
泌 尿 器 科	5,126	5,311	5,515	5,395	4,939
産 婦 人 科	5,945	6,192	6,693	6,261	6,109
眼 科	12,262	11,290	11,794	12,570	10,568
耳鼻咽喉科	1,526	1,364	1,276	1,220	1,136
放 射 線 科	3,042	3,025	3,286	2,876	2,284
麻 酔 科	192	168	194	187	142
救 急 科	383	371	402	458	502
形 成 外 科	271	247	326	309	267
歯 科	4,359	4,203	4,189		
合 計	111, 798	114, 188	118, 308	111, 692	104, 132



入院患者数

(人)

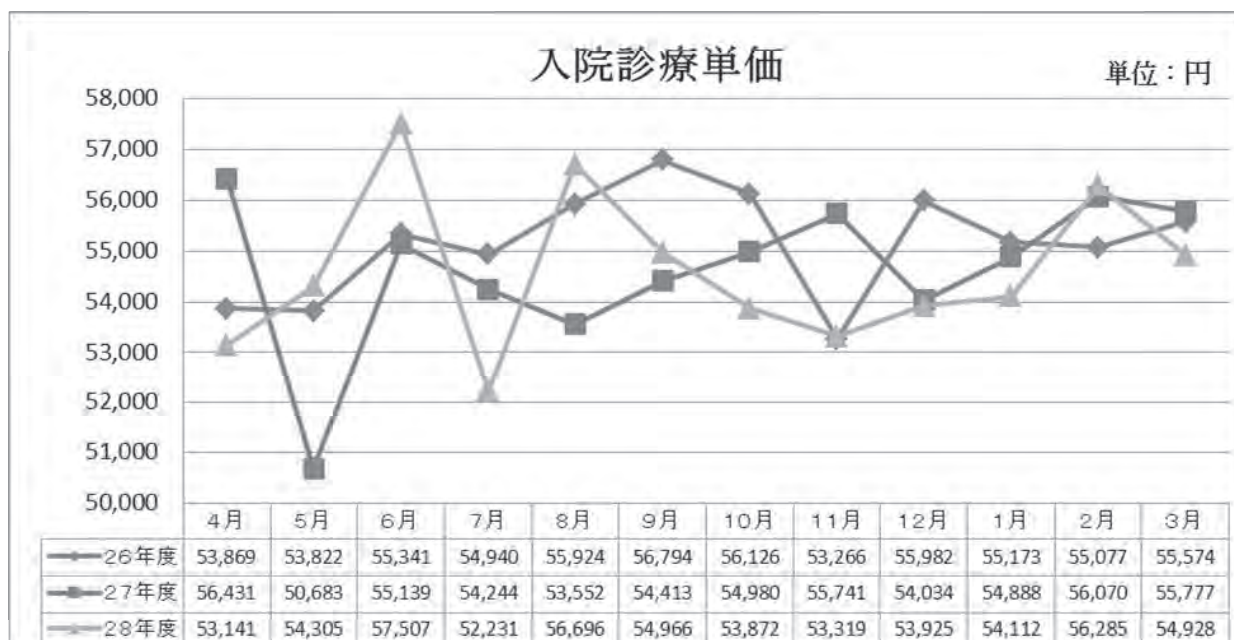
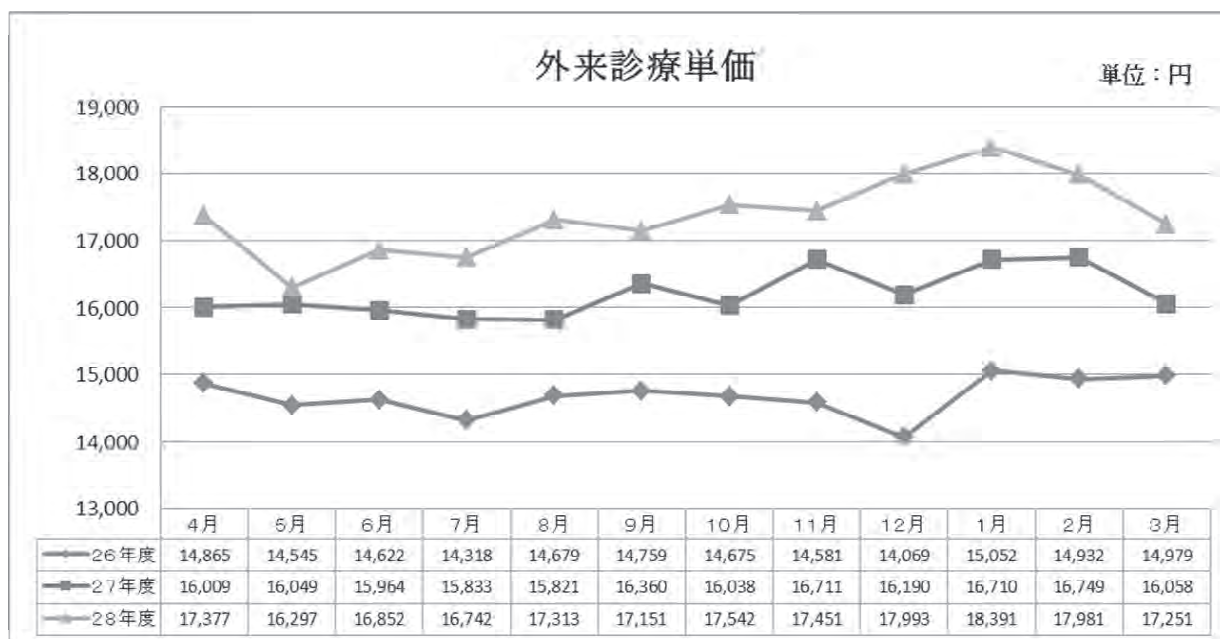
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
内 科	39,100	42,555	40,324	42,401	40,790
小 児 科	3,583	4,146	4,443	4,030	4,354
外 科	16,611	15,781	15,402	15,520	15,220
整 形 外 科	17,920	16,172	18,124	17,817	17,852
脳神経外科	10,029	12,130	10,656	11,332	9,909
皮 膚 科	783	1,000	857	1,075	847
泌 尿 器 科	2,696	2,531	2,633	2,649	2,429
産 婦 人 科	3,917	3,740	4,025	3,562	2,971
眼 科	2,039	2,068	2,336	2,717	2,406
耳鼻咽喉科					
放 射 線 科	199	5	4	0	1
麻 酔 科	4	6	5	7	16
救 急 科	976	659	715	855	777
形 成 外 科					
菌 科					
合 計	97,857	100,793	99,524	101,965	97,572



(5)平成28年度月別

	入院				外来		
	実日数 (日)	患者数 (人)	1日平均 (人)	病床利用 率(%)	実日数 (日)	患者数 (人)	1日平均 (人)
4月	30	8,473	282.4	87.5%	20	8,722	436.1
5月	31	8,032	259.1	80.8%	19	8,778	462.0
6月	30	7,740	258.0	80.3%	22	9,345	424.8
7月	31	7,164	231.1	70.3%	20	8,585	429.3
8月	31	6,734	217.2	67.3%	22	8,146	370.3
9月	30	8,086	269.5	82.5%	20	8,661	433.1
10月	31	8,566	276.3	85.2%	20	8,425	421.3
11月	30	8,627	287.6	89.0%	20	8,374	418.7
12月	31	8,758	282.5	86.7%	19	8,564	450.7
1月	31	8,720	281.3	87.3%	19	8,312	437.5
2月	28	7,867	281.0	86.0%	20	8,425	421.3
3月	31	8,805	284.0	87.2%	22	9,795	445.2
合計	365	97,572	267.3	82.3%	243	104,132	428.5

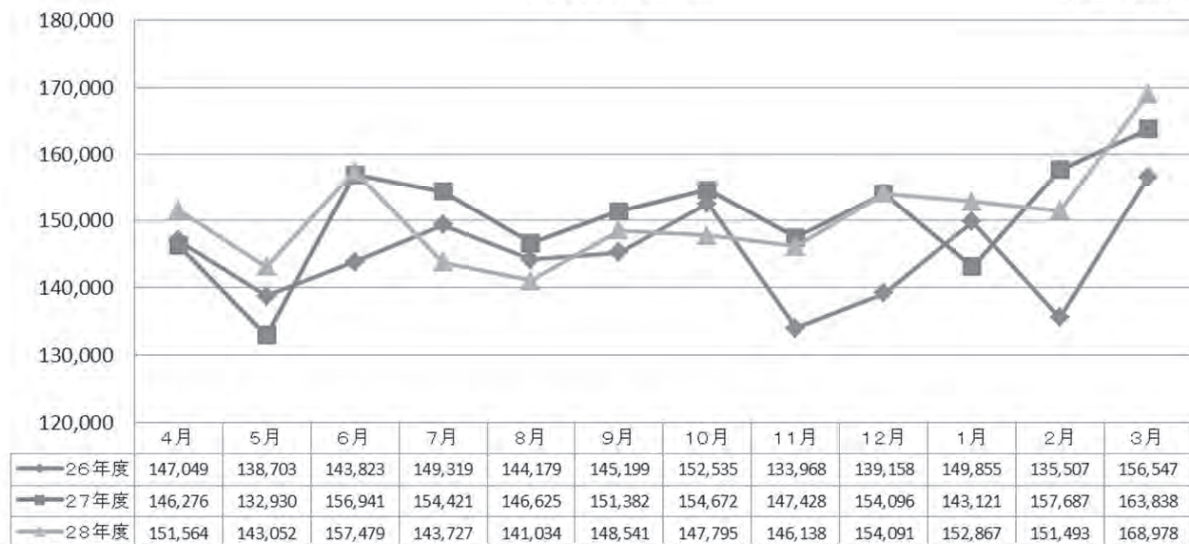
2. 稼働統計





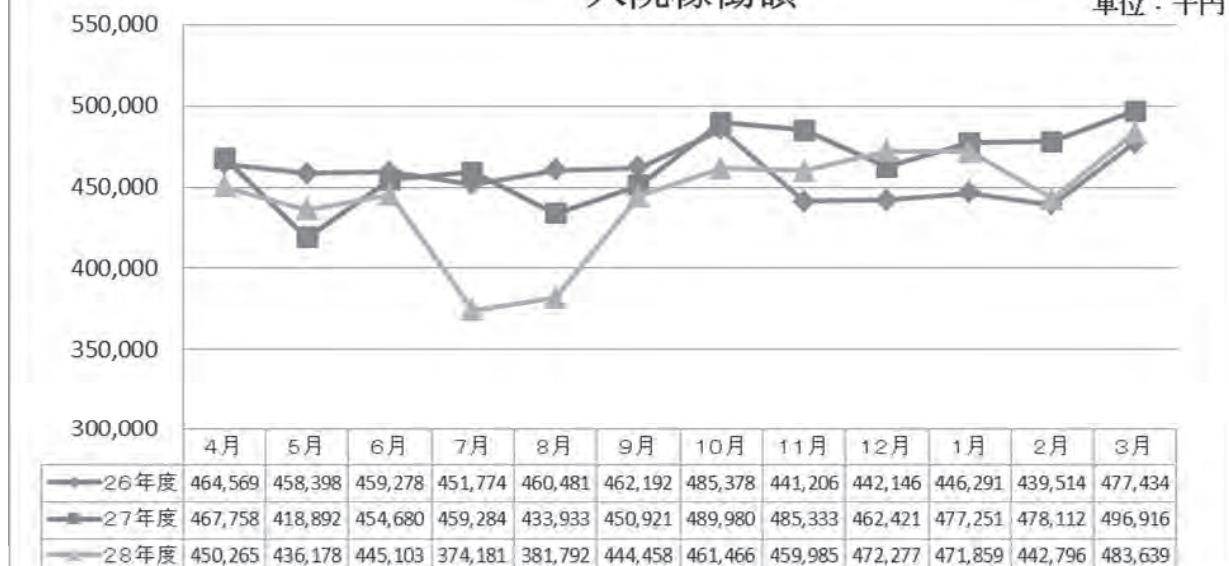
外来稼働額

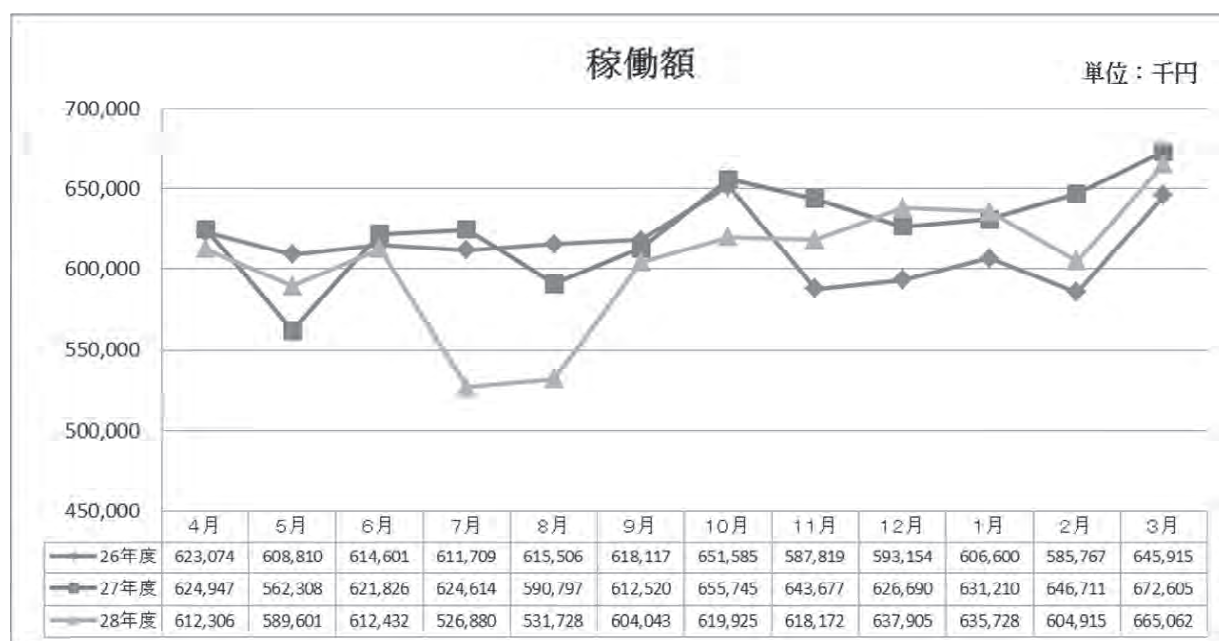
単位：千円



入院稼働額

単位：千円







3. 手術統計

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
内科	442	429	575	709	699
腎内科	6	32	49	68	55
循環器内科	219	223	165	213	188
小児科	25	18	17	24	9
外科	940	925	960	964	910
整形外科	1120	897	994	983	973
脳神経外科	284	356	306	289	228
皮膚科	125	96	107	104	101
泌尿器科	165	143	207	210	218
産婦人科	248	264	309	299	254
眼科	457	536	641	626	553
耳鼻咽喉科	5	13	14	6	4
放射線科	3	0	0	5	6
麻酔科	30	33	41	37	19
救急科	48	40	66	83	86
形成外科	22	18	22	20	18
歯科	732	675	589	0	0
合計	4871	4698	5062	4640	4321



4. 業務統計

(人)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
検査	一般	4,100	4,536	4,789
	生理	206,063	210,483	224,192
	血液	37,833	40,147	39,582
	生化学	51,176	51,366	49,817
	血清(免疫学的)	51,765	53,403	51,909
	細菌(微生物学的)	4,280	9,829	4,767
	病理	11,124	10,611	10,397
	合計	366,341	380,375	385,453
放射線撮影	一般撮影	40,621	38,817	37,724
	消化管透視	1,623	1,574	1,665
	CT検査	10,852	11,647	11,534
	MRI検査	4,253	4,373	4,646
	RI検査	552	419	375
	血管造影	157	166	144
	心臓カテーテル	372	320	272
	放射線治療	10,441	9,934	6,645
	超音波	8,352	8,225	7,740
	合計	77,223	75,475	70,745



				平成26年度	平成27年度	平成28年度
薬剤業務	調剤業務	調剤薬処方箋(枚)	外来	6,979	7,111	6,963
			入院	61,997	61,128	60,117
			合計	68,976	68,239	67,080
		注射箋(枚)	外来	15,556	15,212	15,845
			入院	61,953	61,013	68,216
			合計	77,509	76,225	84,061
		院外処方箋	枚数	60,734	59,188	55,993
			発行率	89.69%	89.27%	88.94%
		TPN の 無菌調整		件数	267	303
	本数			267	303	120
	抗癌剤の 無菌調整		件数	3,687	3,525	3,906
			本数	6,041	6,013	7,092
	院内製剤の調整		品目数	13	13	14
	その他	薬剤 管理 指導	病棟数	9	9	8
			件数	4,695	4,611	4,831
		錠剤鑑別件数		20,588	21,735	24,390
		DIニュース回数		76	77	68
給食	常食			84,090	76,520	79,579
	軟菜食			26,731	24,691	32,529
	特別食			122,786	123,317	128,870
	合計			233,607	224,528	240,978

Ⅲ 各部門の概況



1. 診療部門

糖尿病内科

1. スタッフ（平成 29 年 3 月 31 日現在）

副院長	茨木 一夫	昭和 52 年卒	日本内科学会認定医・指導医 日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医・指導医 日本糖尿病学会
医師	竹之下 博正	平成 15 年卒	日本内科学会専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会 日本循環器学会 日本下肢救済学会（支部評議員） 日本慢性疾患重症化予防学会

2. 臨床実績（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）

入院患者

1 型糖尿病	5 名
2 型糖尿病	59 名
妊娠糖尿病	1 名
内分泌疾患	6 名
一般内科	18 名
合計	39 名

3. 学会

日本糖尿病学会年次学術集会 平成 28 年 5 月 20 日

「糖尿病患者における足部関節可動域低下は、診察による神経障害スコアと網膜症の有無に関連する」

日本糖尿病学会九州地方会 平成 28 年 10 月 14 日

「疾病管理マップを用いた糖尿病腎症急速進行例の抽出と保健師との協働による透析予防」

日本慢性疾患重症化予防学会 第 3 回年次学術集会 平成 29 年 2 月 12 日

「%ΔeGFR の臨床応用とその実用性」

4. 講演会・研究会

平成 28 年 4 月 28 日 唐津市食生活改善推進協議会（保健福祉事務所主催）

平成 28 年 8 月 27 日 第 107 回市民糖尿病教室（県医師会主催）



平成 28 年 10 月 30 日 市民公開講座（日本下肢救済・足病学会主催）
平成 28 年 11 月 27 日 日曜糖尿病教室及び市民公開講座（保健福祉事務所主催）
平成 28 年 12 月 18 日 コメディカルの為の外来糖尿病セミナー（保健福祉事務所主催）
など

5. Letter

Nagahori W, Takenoshita H, Yuki K, Kimachi M. : Lactation and Progression to Type 2 Diabetes Mellitus After Gestational Diabetes Mellitus. : Ann Intern Med. 2016;165(4):299.

6. 唐津糖尿病臨床カンファレンス（唐津赤十字病院にて開催）

- 1) 平成 28 年 5 月 9 日 症例検討
- 2) 平成 28 年 10 月 24 日 症例検討
- 3) 平成 29 年 2 月 20 日 特別講演
「病態から考える高齢者糖尿病の治療」

医療法人社団シマダ 嶋田病院

糖尿病内科 内科部長 赤司 朋之先生

7. 講義

佐賀県療養師研修会（佐賀大学）

糖尿病看護認定看護師授業（福岡県県立大学）

8. この一年の歩み

前年度の平成 28 年 3 月 24 日には国は糖尿病性腎症重症化予防の取組の横展開の一環として、厚生労働省、日本医師会、日本糖尿病対策推進会議の三者で「糖尿病性腎症重症化予防に係る連携協定」が締結され、全国でこれらの展開が始まった。実は当地域は、糖尿病腎症による透析導入予防のために、同様の取り組みを平成 25 年 12 月から開始しており平成 28 年 12 月時点で約 3 年経過していた。佐賀県でも平成 28 年 11 月に佐賀県糖尿病対策会議と県医師会・佐賀県健康増進課が主体となり、県全体での糖尿病重症化予防が開始となり、当地区は県のモデル地区として取り組み事例を報告した。モデル地区として評されるのはよいが、来年度からはしっかりとした結果を求められることとなり、より強力な地域との協力体制が必要となっている。

糖尿病教育では糖尿病療養指導カードの講習会に認定看護師とともに参加し、これまで詰め込み式であった糖尿病教育から、より患者の理解度や生活に沿った柔軟



性の高い糖尿病教育が行えるようになってきており、これらを外来及び糖尿病教育入院でも生かしていく予定である。尚、茨木は平成 29 年 3 月で定年となり、今後は当院疾病予防センターで人間ドック健診を介して糖尿病の早期発見や発症予防などに従事する予定である。(文責 竹之下 博正)



腎臓内科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

第二内科部長	長嶋 昭憲	昭和 62 年卒	日本内科学会総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医
第二内科副部長	冬野 誠太	平成 13 年卒	日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会 日本透析学会

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

(1)入院疾患内訳（延べ人数）

疾患区分	件数
ネフローゼ・腎炎・電解質異常	22
急性腎不全・多臓器不全など	11
末期腎不全(透析導入)	27
シャント造設・シャント PTA	30
透析患者の合併症	11
CKD または CKD 患者合併症	07
その他	12
計	120

(2)血液透析 総回数 1990 回（ICU での緊急透析 7 回を含む）

新規血液透析導入患者	26 名
シャント PTA（入院・外来）	6 件
内シャント造設術	32 件

腹膜透析 患者数 9 名（新規腹膜透析導入患者 1 名）

アフエレーシス

CHDF 110 回、 エンドトキシン吸着 1 回、単純血漿交換 1 回、白血球吸着 24 回

(3)腎生検 9 例

組織診断内訳

IgA 腎症 2 例、膜性腎症 2 例、ループス腎炎 1 例、巣状糸球体硬化症 2 例、急性腎炎 1 例、微小変化 1 例

(4)病理解剖 3 例

80 才代男性	高 Ca 血症、悪性リンパ腫
70 才代女性	腎盂腎炎、敗血症、末期腎不全（腹膜透析中）
80 才代男性	慢性心不全、自己免疫性膵炎・間質性腎炎（IgG4 症候群）治療後



3. 研究業績

【学会発表】

第 314 回日本内科学会九州地方会 (2016/08/06 宮崎)

高カルシウム血症と低ナトリウム血症を合併した B 細胞悪性リンパ腫の一部検例

白石さくら、蒲池和晴、宮原正晴、長嶋昭憲、茨木一夫、明石道昭

第 315 回日本内科学会九州地方会 (2016/11/20 熊本)

肺胞出血による急性呼吸不全を呈しリツキシマブにより救命しえた顕微鏡的多発血管炎の一例

白石 さくら、貞松 宏典、井上 周、梅口 仁美、長嶋 昭憲、茨木 一夫

4. この一年の歩み

腎臓内科部門

平成 28 年 8 月新病院新築移転にともない一時期入院を制限したため、入院患者数は前年より減少した (140→120 例)。腎内科外来は、移転を機に安定した再来患者をかかりつけ医に紹介し再来数は減少した。その分、常時紹介患者を受け入れ可能になり、時間をかけ診察できるようになった。紹介患者は、障害や健診での検尿異常の患者が増え、腎炎を疑う症例には積極的に腎生検を行った。

血液浄化部門

新築後は透析ベッド数が (敷地面積の関係で) 11 床より 10 床と減少した。しかし ICU に 2 床透析可能なベッドを確保し、旧病院の通院血液透析患者を近隣の透析施設に転医させ、ベッドの稼働性を向上させ、近隣の透析病院からの急患に十分対応できるようになった。急性腎不全や多臓器不全の CHDF も救急科と協力し積極的に取り組んだ。

当院は透析導入患者が年々増加している。しかし高齢者の腎硬化症の腎不全患者が多く、透析導入後に自宅退院や通院が困難な症例があり、地域の透析施設に転院や通院送迎を快諾していただき非常に感謝している。また当院の透析室の特徴として腹膜透析 (CAPD) を積極的に取り組んでいる。佐賀県全 CAPD 患者 16 名中 9 名を当院で管理しており、伊万里や佐賀市内の透析施設からも CAPD 患者の合併症治療依頼やコンサルトを受けたり、CAPD 研究会で情報発信を行った。



消化器内科

1. スタッフ紹介

第1内科部長	野田 隆博	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・学会評議員 日本消化器内視鏡学会指導医・支部評議員 日本消化管学会認定医・指導医 がん治療認定医機構認定医・暫定教育医 プライマリケア学会認定医 臨床腫瘍学会
内科医師	宮原 貢一	日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本消化器学会専門医・支部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化管学会指導医 日本ヘリコバクター学会認定医 がん治療認定医機構認定医 日本胆道学会 日本脾臓学会
内科医師	武富 啓展	日本内科学会 日本消化器病学会
内科医師	島村 拓弥	平成28年4月1日～ 日本内科学会 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会

前年度より引き続き野田、宮原貢一、武富が残留。藤本が3月で移動し、4月より島村が加入した。

2. 臨床業績

入院は悪性腫瘍の内視鏡治療・化学療法・緩和治療、消化管出血の内視鏡治療、炎症性腸疾患増悪の内科的治療、イレウスの保存的治療、急性脾炎・急性胆嚢炎・総胆管結石の内科的治療等を中心に診療を行った。

外来は難治性逆流性食道炎、ヘリコバクター除菌、炎症性腸疾患、悪性腫瘍精査、および消化管出血・急性腹症・イレウス等の救急診療等を行った。

内視鏡検査は約4,360件施行した。消化管ステント術・食道および大腸ESD・超音波内視鏡下穿刺術が増加した。学会活動にも積極的に取り組んだ。



3. 研究業績

【論文】

- 1 2016.6 月
消化器内視鏡 Vol.28 No.6 2016
内視鏡的粘膜下層剥離術が診断に有用であった肺癌胃転移
宮原 貢一、武富 啓展、野田 隆博

【学会発表】

- 1 2016.5.28
第 313 回日本内科学会九州地方会
胆嚢癌との鑑別に難渋した 黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例
武富啓展 1)、 藤本洋 1)、 小平俊一 1)、 宮原貢一 1)、 井手康史 1)、 野田隆博 1)、 茨木一夫 1)
- 2 2016.6.24-25
第 107 回日本消化器病学会九州支部例会
内視鏡的摘除を行った 十二指腸魚骨刺入の 2 例
武富啓展、藤本洋、小平俊一、宮原貢一、井手康史、野田隆博
- 3 2016.6.24-25
第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
胃 ESD 後の後出血予防としてボノプラザン内服は PPI 静注と同等の効果が期待できる
宮原貢一、武富啓展、藤本洋、井手康史、野田隆博
- 4 2016.9.19-21
The international society for disease of the esophagus; 15th world congress
Clinical characteristics of patients with acute esophageal mucosal lesion in Japan
Koichi Miyahara¹, Takahiro Noda¹, Koji Yamamoto^{2,3}, Yasuhisa Sakata³, Shinpei Shirai³, Nanae Tsuruoka³, Naoyuki Tominaga², Shiichi Ogata², Ryuichi Iwakiri³, Kazuma Fujimoto³
- 5 2016.11.3-6
JDDW2016 第 92 回日本内視鏡学会総会
当院における食道魚骨の検討
宮原貢一、武富啓展、藤本洋、井手康史、野田隆博
- 6 2016.11.25-26
第 102 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
小腸に深掘れ潰瘍形成を認めた好酸球性胃腸炎の一例
島村拓弥、武富啓展、宮原貢一、井手康史、野田隆博



- 7 2016.11.25-26
第 108 回日本消化器病学会九州支部例会
食道癌放射線化学療法後の食道大動脈瘻にステントグラフト内挿術が有効であった 1 例
武富啓展、 島村拓弥、 藤本洋、 小平俊一、 宮原貢一、 井手康史、 野田隆博
- 8 2017.2.17-18
第 13 回日本消化管学会
双孔式人工肛門からの自然肛門側内視鏡検査時の送気にて大腸裂創と free air を認めた一例
島村拓弥、 野田隆博、 宮原貢一、 武富啓展

【研究会等】

- 1 2016.6.25
内視鏡技師会九州地方会
外来患者の下部消化管内視鏡検査における腸洗浄剤服用場所に関する検討
古川統、宮原貢一、武富啓展、藤本洋、井手康史、野田隆博
- 2 2016.7.19
唐津東松浦消化器研究会
胃内分泌細胞癌
武富啓展
- 3 2016.7.19
唐津東松浦消化器研究会
ミニレクチャー：胃癌内視鏡検診マニュアル
野田隆博
- 4 2016.7.21
佐賀胃腸懇話会
胃疾患症例提示・レクチャー
島村拓弥、武富啓展、宮原貢一、野田隆博
- 5 2016.11.17
佐賀胃腸懇話会
好酸球性胃腸炎
島村拓弥
- 6 2016.12.12
唐津東松浦医師会学術講演会
上部消化管から EUS-FNA で行える診断・治療（膵・胆病変、リンパ腫、粘膜下腫瘍など）
宮原貢一



- 7 2017.3.21
唐津東松浦消化器研究会
右側虚血性腸炎
島村拓弥
- 8 2017.3.21
唐津東松浦消化器研究会
ミニレクチャー：当院における PEG 偶発症

【その他】

- 1 2016.6.24-25
第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
支部例会長
野田隆博
- 2 2016.11.3-6
JDDW2016 第 92 回日本内視鏡学会総会
座長
野田隆博
- 3 2016.11.3-6
JDDW2016 第 92 回日本内視鏡学会総会
座長
宮原貢一



呼吸器内科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

梅口 仁美	平成 17 年卒	日本内科学会 認定医・総合内科専門医
		日本呼吸器学会 専門医
		日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
		ICD（インфекションコントロールドクター）
		日本肺癌学会
		日本感染症学会
		日本緩和医療学会
		日本呼吸器内視鏡学会
井上 周	平成 21 年卒	日本内科学会 認定医
		日本呼吸器学会
		日本呼吸器内視鏡学会
		日本肺癌学会
貞松 宏典	平成 23 年卒	日本内科学会 認定医
		日本呼吸器学会
		日本アレルギー学会
		日本肺癌学会

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

診療統計

疾患別入院患者数（延べ人数）

疾患区分	患者数
肺感染症	58
肺癌	177
肺癌以外の悪性腫瘍	10
間質性肺炎	40
COPD	16
喘息	14
その他の呼吸不全	24
気胸	23
膿胸	5
気道出血	8
その他	38
合計	413



気管支鏡検査（延べ人数）

症例数 127 件

（内訳）

経気管肺生検法 75 件、気管支肺胞洗浄法 18 件、気管支洗浄 15 件

内腔観察 22 件 その他処置等 8 件

化学療法

（登録レジメン）

ADOC、AMR、Bev、CBDCA+CPT-11、CBDCA+DOC、CBDCA+ETP、CBDCA+GEM、
CBDCA+GEM+Bev、CBDCA+Pem、CBDCA+Pem+Bev、CBDCA+PTX、
CBDCA+PTX+Bev、CBDCA+S-1、CBDCA+VNR、CBDCA+nab-PTX、
CBDCA+nab-PTX+Bev、CDDP+CPT-11、CDDP+DTX、CDDP+ETP、CDDP+GEM、
CDDP+GEM+Bev、CDDP+Pem、CDDP+Pem+Bev、CDDP+S-1、CDDP+VNR、
CPT-11、DTX、DTX+Ram、GEM、NGT、Pem、Pem+Bev、S-1、VNR、nab-PTX、
Gefitinib、Erlotinib、Afatinib、Osimertinib、Crizotinib、Alectinib、Nivolumab、
Pembrolizumab

3. 研究業績

学会発表

第 56 回日本呼吸器学会学術講演会

「IgG4 関連疾患の肺病変に関する解析」 貞松 宏典

ATS2016（American Thoracic Society International Conference）

「An Analysis of Pulmonary Manifestations of IgG4-related Disease」 貞松 宏典

第 77 回日本呼吸器学会九州支部夏季学術講演会

「血栓性微小血管障害症に合併した肺胞出血の一例」 貞松 宏典

第 74 回日本呼吸器学会・結核病学会九州支部春季学術講演会

「通常型腺癌パターンを伴った高悪性度胎児型腺癌の 1 例」 井上 周

4. この 1 年の歩み

平成 28 年度の呼吸器内科は常勤医師 3 名の体制となりました。

外来診療では、前年に引き続き平日のすべての曜日で新患・定期外来患者さんの対応をおこなっています。

入院患者さんに対しては、平成 27 年度より多職種参加型の“呼吸器リハカンファレンス”を週 1 回定期開催していますが、今年度は医師、看護師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーに加えて薬剤師、言語聴覚士、作業療法士、薬剤師も参加す



るようになりました。慢性および急性呼吸器疾患や癌患者さんのリハビリテーション、退院・転院にむけた社会的資源の利用について、より多角的視点で検討し、早期退院と再入院の抑制につなげることができています。

肺癌領域においては、ドライバー遺伝子変異をターゲットとした分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など、ほぼ毎年のように新規薬剤が保険収載され治療戦略の幅が大きく広がるとともに、組織系、遺伝子変異の有無、PD-L1 発現の程度により患者さんごとに薬物治療の個別化が進んでいます。当院でも最新の知見に基づきこれらに対応した検査・治療がおこなえるよう体制のアップデートを続けております。



血液内科

1. スタッフ紹介（平成29年3月31日現在）

第3内科部長	宮原 正晴	平成2年卒	日本内科学会：総合内科専門医・指導医 日本血液学会：専門医・指導医 日本造血幹細胞移植学会 日本がん治療認定医機構：がん治療認定・暫定教育医 日本臨床腫瘍学会：暫定指導医 日本輸血細胞療法学会 日本感染症学会 ICT（インフェクションコントロールドクター） 日本プライマリ・ケア連合学会：認定医 日本医療マネジメント学会 日本老年医学会
医師	蒲池 和晴	平成22年卒	日本内科学会：認定医 日本血液学会 日本臨床腫瘍学会 日本造血幹細胞移植学会 日本血栓止血学会
医師	田邊 桃香	平成24年卒	日本内科学会：認定医 日本血液学会
非常勤医師	富樫 りか	平成7年卒	日本血液学会：専門医 日本内科学会：認定医
非常勤医師	板村 英和	平成20年卒	平成29年3月31日まで 日本血液学会：専門医 日本内科学会：認定医 日本造血幹細胞移植学会 日本臨床腫瘍学会
非常勤医師	吉村 麻里子	平成16年卒	平成29年4月1日より 日本血液学会：専門医 日本内科学会：認定医 日本臨床腫瘍学会：がん薬物療法専門医

常勤医師3名、非常勤医師2名で診療しています。



2.臨床業績

入院患者内訳（延人数）（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

疾患名	患者数
急性骨髄性白血病	26
慢性骨髄性白血病	2
急性リンパ性白血病	1
骨髄増殖性腫瘍	3
成人T細胞白血病リンパ腫	28
原発性マクログロブリン血症	4
悪性リンパ腫	187
多発性骨髄腫	12
骨髄形成症候群	19
特発性血小板減少性紫斑病	3
再生不良性貧血	6
その他貧血、感染症など	67
合計	358

新患患者内訳（入院+外来）（平成28年1月～平成28年12月）

疾患名	患者数
急性骨髄性白血病	8
慢性骨髄性白血病	0
急性リンパ性白血病	2
骨髄増殖性腫瘍	2
成人T細胞白血病リンパ腫	14
悪性リンパ腫	34
原発性マクログロブリン血症	1
多発性骨髄腫	13
骨髄形成症候群	15
特発性血小板減少性紫斑病	3
再生不良性貧血	6
その他貧血、感染症など	67
合計	165



3.研究業績

【学会報告】

- 1 1 第 90 回日本感染症学会総会・シンポジウム 9 (2016 年 4 月 15 日)
「アウトブレイク対応の実際」
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) による院内感染事例
宮原 正晴
- 2 第 314 回内科学会九州地方会 高カルシウム血症と低ナトリウム血症を合併した悪性リンパ腫の 1 剖検例
白石さくら 蒲池和晴 宮原正晴 長島昭憲 茨木一夫
- 3 唐津東松浦医師会学術講演会 高齢者悪性リンパ腫の治療 (2016 年 12 月 9 日)
蒲池 和晴 宮原 正晴

【論文】

1. Kaposi 肉腫の 2 例 西日本皮膚科 78 ; 44-49 2016
土井和子、嬉野博志、宮原正晴、古江増隆
2. Famotidine-induced reactive plasmacytosis and generalized lymphadenopathy : a case report and review of the literature. Int. J clin Exp Pathol 9:7680-7685 2016
Kitamua H, Kubota Y, Fukusima N, Ichinohe T, Hayasaka D, Kamachi K, Yoshihara M, Itamura H, Hisatomi T, Wakayama K, Sueoka E, Kimura S.
3. Acute myeloid leukemia with(t(3;8)8q26;q24) complicated by diabetes insipidus
Kubota Y, Ichinohe T, Yoshihara M, Itamura H, Hisatomi T, Fukusima N, Sueoka E, Kimura S.
4. Acute Megakaryoblastic leukemia with Myelodysplasia-related Changes Associated with ATM Gene Deletion. Intern Med 55:1625-1629 2016
Ureshino H, Tanabe M, Kurogi K, Miyahara M, Kimura S
5. Spontaneous regression of adult T cell leukemia/lymphoma following development of immune Thrombocytopenia. Ann Hematol 95:1743-1744 2016
Ureshino H, Miyahara M
6. Effector regulatory T cells reflects antitumor immunity and autoimmunity. Cancer Immunol Res4:544-549 2016
Ureshino H, Shindo T, Nishikawa H, Watanabe N, Watanabe E, Satoh N, Kitaura K, Kitamura H, Doi K, Nagase K, Kimura H, Sakurai R, Baba R, Kurogi K, Samukawa M, Kusunoki S, Miyahara M, Suzuki R, Sakaguchi S, Kimura S



7. CCR4 frameshift mutation identifies a distinct group of adult T cell leukemia/lymphoma with poor

prognosis. J Pathol. 2016 Apr;238(5):621-626.

Yoshida n, miyoshi H, Kato T, Sakata-Yanagimoto M, Niino D, Taniguchi H, Moriuchi Y, Miyahara M, Kurita D, Sasaki Y, Shimono J, Kawamoto K, Utsunomiya A, Imaizumi Y, Seto M, Ohshima K

8. Scurvy in the Postoperative Oropharyngeal Cancer Patient. International J. of clinical Medicine, 2016, 7, 577-584

Kamachi K, Doi K, Tanabe-Ishida M, Miyahara M, Kimura S

4.この一年の歩み

血液内科では、造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫など）や造血障害（再生不良性血、骨髄異形性症候群など）、血小板凝固異常症（出血傾向や血栓傾向を生じる疾患）などの専門的診断と治療を行っています。

患者さま、ご家族との十分なコミュニケーションの上での、全人的医療の実践を目標に、各疾患の標準的治療を実施してきています。新病院移転後、無菌室 4 床を有し、化学療法、放射線療法、免疫療法、分子標的治療薬、自家末梢血幹細胞移植など実施してきています。

また同種幹細胞移植が必要な症例は、移植施設との連携をとり積極的に移植目的の紹介をしています。

地域医療支援病院として地域の連携医療機関から多くの患者さまを紹介いただいております。また県内の他の血液疾患専門診療施設（佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館）とも医療連携を行い、定期的に情報交換をしながら治療成績向上をめざしています。



肝臓内科

1. スタッフ紹介（平成29年3月31日現在）

副部長 井手 康史 平成12年卒 日本内科学会総合内科専門医・指導医
 日本肝臓学会認定専門医
 日本消化器病学会専門医・支部評議員
 がん治療認定医
 日本消化器内視鏡学会
 日本糖尿病学会

小平 俊一 平成21年卒 日本内科学会認定医
 日本肝臓学会
 日本消化器病学会
 日本消化器内視鏡学会

2. 臨床業績（平成28年4月～平成29年3月）

入院患者 253名

【肝臓治療】

経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）	14件
経皮的エタノール注入療法（PEIT）	7件
肝動脈化学塞栓術（TACE）	14件
肝動脈注入療法（Lip-TAI）	0件
分子標的治療薬導入	0件
その他化学療法	1件

3. 研究業績（平成28年4月～平成29年3月）

【学会・講演・論文等】

1. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（2016.4.19）
 新規線維化マーカーM2BPGiについて
 井手康史
2. 唐津糖尿病臨床カンファレンス（2016.5.9）
 糖尿病と肝細胞癌 ー当院におけるNBNC肝細胞癌の検討ー
 井手康史



3. 日本消化器病学会九州支部例会（2016.6.24）
当院におけるC型慢性肝炎に対するダクラタスビル・アスナプレビル併用療法の
治療成績と不成功例の薬剤耐性獲得に関する検討
井手康史
4. 日本消化器病学会九州支部例会（2016.6.24）
巨大HCCに対するTACE後に腹腔内出血を来した一例
小平俊一
5. 佐賀県北西地区肝炎治療懇話会（2016.7.12）
当院におけるソホスブビル＋リバビリン併用療法の治療成績
井手康史
6. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（2016.8.16）
腎障害患者に対するC型肝炎治療の現況とこれから
井手康史
7. 唐津市糖尿病・肝疾患市民公開講座（2016.11.27）
生活習慣病と脂肪肝 -NASHってなあに？-
井手康史
8. 佐賀県北西部肝疾患・栄養・リハ研究会（2016.12.15）
当院における腹水コントロール
井手康史
9. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（2016.12.20）
門脈圧亢進症のマネジメント -胃・食道静脈瘤を中心に-
井手康史
10. C型肝炎等に関する保健従事者研修会（2017.2.17）
C型肝炎とNASHについて
井手康史
11. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（2017.2.21）
Refaximinの使用経験
井手康史

4. この1年のあゆみ

当科ではウイルス性肝炎の治療や肝障害の鑑別診断、肝がんの内科的治療などを主に、各種肝疾患の診断や治療を行っています。



C型肝炎に対する抗ウイルス療法については近年急速な進歩を遂げており、非代償性肝硬変を除く殆どのC型慢性肝炎患者のウイルス排除が可能になりました。そのため治療症例数は減少していますが、引き続き抗ウイルス療法と治療後の肝臓スクリーニングを行っています。

ウイルス性肝炎患者のキャリア数減少に伴い、全国的な動向と同様に当院でも肝細胞癌患者は減少しています。一方で脂肪性肝疾患や糖尿病などの生活習慣病やアルコール性肝障害を背景とした肝細胞癌が増多傾向にあります。いわゆる非B非C (NBNC) 肝臓患者は、定期的な肝臓スクリーニングをされていないことがほとんどのために発見時には進行していることも多く、また高齢で合併症も多い傾向にあります。そのため手術適応外であることが多く内科的治療の重要度は高まっていると考えられます。

また、胆膵疾患に対しても、消化器内科と協働で取り組んでいます。ERCPやPTBDなどの手技による閉塞性黄疸の診断や治療、胆道癌・膵癌に対する化学療法などを行っています。

前年度から小平医師が加わって当科は2人体制となり、柔軟に急患や重症患者に対応することが可能となって入院・外来患者数は増えています。しかし、平成29年度からは後任の補充がなくまた一人体制に戻る事となりました。パワーダウンは否めませんが、消化器内科をはじめ他科の協力を得ながら、現在提供できている医療水準を維持したいと考えております。



循環器内科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部長	森 唯史	昭和 63 年卒 第 1 循環器内科部長 日本内科学会 専門医 日本循環器学会 専門医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医・ 指導医 日本心臓リハビリテーション学会 指導士
部長	橋本 重正	昭和 62 年卒 第 2 循環器内科部長 日本内科学会 専門医 日本循環器学会 専門医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医 プライマリケア学会
循環器内科医	轟木 渉	平成 18 年卒 日本内科学会 日本循環器学会 日本医学放射線学会
循環器内科医	古川 陽介	平成 19 年卒 日本内科学会 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会
循環器内科医	柿本 洋介	平成 21 年卒 日本内科学会 認定医 日本循環器学会
循環器内科医	有馬 岳史	平成 25 年卒



2.臨床業績（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）

心臓カテーテル検査	141 件
冠動脈インターベンション	105 件 (うち緊急 33 件)
末梢血管インターベンション	3 件
ペースメーカー植え込み術	新規 28 件 交換 9 件
冠動脈 CT	175 件
心臓 MRI	6 件
心筋シンチ	21 件
心エコー	2734 件
ホルター心電図	168 件

3.研究業績

【学会発表】

ARIA 2016;

避けては通れない PCI の合併症～その時あなたは どうしますか？

古川 陽介

4..この一年の歩み

平成 28 年度は、人事異動は無く前年と同じ 6 名のスタッフでスタートをきるようになりました。全員が複数年での勤務ですので、開業医の先生方とも顔の見えやすい連携が出来ていたと思います。

冠動脈インターベンションは、28 年度も継続して年間 100 例を超えて、冠動脈インターベンション治療学会の研修関連施設の維持が今後も可能になっており、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設とも併せ充実した研修も行えております。他院とも協力し、急患の受け入れ、緊急の冠動脈造影、インターベンションも 24 時間体制でこれまでのとおり行えました。



小児科

1. 小児科診療スタッフ（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

辻 功介（小児科専門医）
田島 大輔（小児科専門医）
阿部 淳（小児科専門医）
土井 大人（小児科専門医）
森田 駿

2. 業績（臨床・研究）（平成 28 年 4 月 1 日～29 年 3 月 31 日）

辻 功介

2016.01.27 食物アレルギー講話（唐津市 佐志中学校）
2016.02.07 小児在宅医療地域コア人材養成講習会（東京都）
2016.06.06 エピペン講習会（唐津市 カトリック幼稚園）
2016.06.10 佐賀北部支援学校 看護師研修会（唐津市）
2016.06.17-19 日本アレルギー学会総会（東京都）
2016.07.01-02 日本小児救急医学会（仙台市）
2016.07.03 小児アレルギー市民公開講座（佐賀市）
2016.08.06 九州・沖縄小児救急医学会（福岡市）
2016.08.07 西日本小児アレルギー研究会（福岡市）
2016.11.13 小児アレルギー市民公開講座（佐賀市）
2016.11.27 小児アレルギー市民公開講座（佐賀市）
2016.03.04 Fabry 病シンポジウム（東京都）
他、唐津看護専門学校高等看護過程講師

田島大輔

2016.04.16 日本小児科学会佐賀地方会（佐賀市）
2016.04.21 てんかん連携の会（佐賀市）
2016.04.23 福岡小児神経研究会（福岡市）
2016.05.05-08 日本赤十字社佐賀県支部救護班活動（熊本県内被災地）
2016.05.13-15 日本小児科学会（札幌市）
2016.06.03-05 日本小児神経学会



2016.06.18 福岡小児神経研究会（福岡市）
2016.06.26 佐賀小児神経セミナー（佐賀市）
2016.07.09 日本てんかん学会九州地方会（福岡市）
2016.07.16 福岡小児神経研究会（福岡市）
2016.07.22 虐待セミナー（福岡市）
2016.08.20-21 日本てんかん学会専門医試験（東京都；合格）
2016.08.17-19 小児神経学セミナー
2016.09.24 福岡小児神経研究会（福岡市）
2016.10.07-09 日本てんかん学会（静岡市）
2016.10.22 福岡小児神経研究会（福岡市）
2016.11.19 福岡小児神経研究会（福岡市）
2016.11.22 紹介症例検討報告会（唐津赤十字病院）
2016.12.03 福岡小児神経研究会（福岡市）
2017.01.08 九州小児神経研究会（熊本市）
2017.02.11 てんかんシンポジウム（東京）
2017.02.25 福岡小児神経研究会（福岡市）
他、唐津看護専門学校高等看護過程講師

阿部 淳

2016.02.05 危機管理研修会（佐賀市）
2016.02.20 環境感染学会・ICD 講習会（京都市）
2016.07.30-31 小児感染症専門医育成セミナー（東京都）
2016.08.06-07 HAPPY（神戸）
2016.09.17-18 WHONET 講習会（群馬県）
2016.09.24-25 小児感染症学会夏季セミナー（静岡市）
2016.10.08-09 医療疫学 TC（福岡市）
2016.10.29-30 HAPPY（千葉県）
2016.11.19-20 日本小児感染症学会（岡山市）
2017.02.07 佐賀県小児科医会講師（佐賀市）
2017.02.24-26 日本環境感染学会（神戸市）
他、唐津看護専門学校高等看護過程講師
唐津赤十字病院院内感染対策委員として活動多数



土井大人

- 2016.04.16 日本小児科学会佐賀地方会（佐賀市）
- 2016.05.13-15 日本小児科学会（札幌市）
- 2016.06.11 心臓健診（鹿島市）
- 2016.06.26 心臓健診（佐賀市）
- 2016.07.01-02 日本小児救急医学会（仙台市）
- 2016.07.03 心臓健診（佐賀市）
- 2016.07.06-08 日本小児循環器学会（東京都）
- 2016.07.17 心臓健診（佐賀市）
- 2016.10.29-30 九州小児不整脈研究会（佐賀市）
- 2016.12.11 日本小児科学会佐賀地方会（佐賀市）
- 2017.02.11 不整脈研究会（佐賀市）

森田 駿

- 2016.04.16 日本小児科学会佐賀地方会（佐賀市）
- 2016.05.13-15 日本小児科学会（札幌市）
- 2016.06.26 佐賀小児神経セミナー（佐賀市）
- 2016.07.08 小児初期診療研修会講師（唐津救急医療センター）
- 2016.07.16 福岡小児神経研究会（福岡市）
- 2016.07.24 日本小児科学会長崎・佐賀合同地方会（長崎市）
- 2016.08.06 九州・沖縄小児救急医学会（福岡市）
- 2016.08.20-21 専門医インテンシブセミナー（）
- 2016.09.10-11 緩和ケア講習会
- 2016.10.15-16 米子セミナー（米子市）

3. 活動概要

平成 28 年度も唐津赤十字病院小児科は 5 名体制で診療業務に当たった。

長い準備期間を経て唐津市和多田の高台に竣工した新病院への移転は、08 月 01 日に滞りなく完了し、小児科医一同心機一転のもと診療に励んでいる。



新築移転を機にそれまでの産婦人科との混合病棟から小児科単独病棟となり、NICU 規格の新生児治療室（定床 2）および小児一般病棟（定床 13）の運用が開始された。一般病棟の配分は個室 9 室 9 床、2 人部屋 2 室 4 床であり、感染症流行時のベッドコントロールに煩わされずに済む。しかし、経口食物負荷試験の日帰り入院や鎮静を要する検査 1 泊入院などで入退院が目まぐるしい当科の場合、この病床数では一時的に満床を越えることはしばしばであり、年長児や非感染症児の入院を他病棟にお願いしているのが現状である。

また、今年は 3 次医療の症例が徐々にではあるが増加し、救急救命センターの医師やスタッフの協力のもと、呼吸管理や集中治療に携わっている。加えて背景に社会的問題を持つ小児診療の機会も増え、院内 MSW や児童相談所、訪問看護ステーションや自治体保健師と連携する体制ができ上がりつつある。

佐賀北部医療圏の医療人口は約 13 万人であり、年間出生数は約 1000 人である。医療圏内に分娩が可能な産科クリニックは僅か 2 施設であり、当院産科でも何らかのトラブルを持つ約 150 件の分娩がある。院内産科や市内産科クリニックからご紹介となる早期産や SFD 新生児の初期対応も当科の重要な業務のひとつである。

佐賀北部地区の時間外・休日小児診療体制は、市内に 1 次診療を担う唐津救急医療センターが存在し、唐津市・玄海町のみならず西部医療圏の伊万里市北部までをカバーしている。このため当科は佐賀県北部および西部地区の一部の時間外小児診療の拠点として位置づけられ、別紙集計に示すとおり、入院総数における時間外入院数の比率は概ね 30-50%と高く、また時間外・休日受診患者総数に対する入院比率もまた 30%程度と高く推移する。平成 28 年度の時間内・時間外を含めた総入院件数は 707 件であり、平成 27 年度に比べ 77 件、約 11%の増加であった。

2017 年 4 月から唐津・東松浦地区（佐賀県北部医療圏）の時間外・休日小児診療所は、それまでの唐津市千代田町の医師会医療センター内から当院内に移設されることが決定しており、院内各部門および派遣大学小児科医局や地区医師会との間で目下協議調整中である。今後時間外 1 次小児診療所が当院内で稼



動するに当たり、当科への精査入院目的での紹介数は増加するとみられる。加えて、福岡市立こども病院の移転に伴い福岡市西部および糸島地区では小児の入院を受諾できる医療機関が減少し、今年度から糸島地区医師会と当院間で小児患者入院受け入れの申し合わせが締結された。これらの事情により 2017 年、当科は佐賀県北部医療圏のみならず西部医療圏の一部と糸島市以西も含めた小児時間外診療の入院拠点病院として機能していくと考えられる。

教育面について、今年度は 2 年次研修医が 1 名と少なかったが、山口医師が平成 28 年 12 月に 1 か月間小児科を研修した。また、自治医科大学卒業生で後期研修医の池田医師（平成 28 年 11 月・12 月）、八板医師（平成 29 年 2 月・3 月）もそれぞれ 2 か月間の小児科研修を行なった。池田医師と八板医師は平成 29 年度から少なくとも 2 年間は唐津市の離島診療所勤務が予定されており、また唐津・東松浦地域の小児時間外診療所にも出務予定がある。それぞれ 2 か月間という短い期間ではあったが熱心に有意義な研修をしていただけたと考える。

当院は医療圏唯一の小児病床を持つ特定機能病院であり、病院・診療所の機能分離が進めば今後一般外来受診件数は徐々に減少していく可能性があるが、時間外・休日の入院患者数は増加していくと考えられる。現在は小児科単独での当直はおこなわず、ファースト、およびセカンドコールで対応しているが、平成 29 年 4 月に当院へ移設される佐賀県北部診療圏の時間外小児診療所との連携をどのように取っていくのが今後の課題となる。



外科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

副院長 兼がん医療推進センター長	湯ノ谷 誠二	日本外科学会 認定医・専門医・指導医
		日本消化器外科学会 認定医・専門医・指導医
		日本消化器病学会 専門医
		日本内視鏡外科学会評議員
		日本がん治療認定医機構暫定教育医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定 消化器がん外科治療認定医
		日本胃癌学会
		日本癌治療学会
		日本腹部救急医学会
		日本緩和医療学会
		日本臨床外科学会
		佐賀大学医学部臨床教授 他
		日本外科学会認定医・専門医
第 1 外科部長	鮫島 隆一郎	日本消化器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
		日本癌治療学会
		日本臨床外科学会
		日本内視鏡外科学会
		日本胃癌学会
		日本静脈経腸栄養学会
		日本外科学会認定医・専門医・指導医
		日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医
第 2 外科部長	井久保 丹	日本がん治療認定医機構暫定教育医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
		日本癌学会
		日本臨床外科学会
		日本バイオセラピー学会
		日本外科学会認定医・専門医・指導医
乳腺外科部長	田淵 正延	日本乳癌学会認定医・専門医
		日本消化器外科学会認定医・指導医



		日本消化器内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本乳癌検診学会評議員 日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医 NPO 法人日本マンモグラフィ検診精度 中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 日本乳腺甲状腺超音波医学会 日本臨床細胞学会
呼吸器外科部長	黒木 英男	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会 日本呼吸器外科学会 日本胸部外科学会 NPO 法人日本マンモグラフィ検診精度 中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医 日本 DMAT 隊員
第 1 外科副部長	神谷 尚彦	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
第 2 外科副部長 兼医療社会事業部長 兼医療技術部長	酒井 正	日本外科学会認定医・専門医 日本消化器外科学会 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
外科医師	山田 浩平	日本外科学会 日本臨床外科学会
呼吸器外科医師	古賀 智子	日本外科学会 日本消化器外科学会 日本内視鏡外科学会 日本臨床外科学会 日本乳癌学会
外科医師	池田 翔大	日本外科学会
外科医師	八板 信介	



2. 臨床業績

外科年間手術症例数（平成 28 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

全手術件数	586 例
定期手術	516 例
緊急手術	70 例
食道手術	3 例
食道悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	3（2）例
胃・十二指腸手術	50 例
胃全摘術	16 例
幽門側胃切除術（うち鏡視下）	25（17）例
胃空腸吻合術（うち鏡視下）	1 例
穿孔性潰瘍手術（うち鏡視下）	2（2）例
小腸・虫垂手術	44 例
小腸切除術	11（1）例
虫垂切除術（うち鏡視下）	33（33）例
結腸・直腸・肛門	81 例
結腸悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	38（34）例
結腸良性腫瘍手術（うち鏡視下）	1 例
人工肛門・腸瘻造設・閉鎖	23 例
直腸悪性腫瘍前方切除術（うち鏡視下）	11（9）例
直腸切断術（うち鏡視下）	4（4）例
その他直腸手術	3 例
その他肛門手術	1 例
肝・胆・膵・脾	130 例
肝切除術(亜区域以上)	15 例
肝部分切除術（うち鏡視下）	5（2）例
胆道悪性腫瘍手術	4 例
胆嚢摘出術（うち鏡視下）	100（71）例
膵頭十二指腸切除術	4 例
膵体尾部悪性腫瘍手術	1 例
その他膵手術	1 例
乳腺手術	55 例
乳房切除	19 例
乳房温存	29 例
乳腺腫瘍摘出	6 例
その他乳腺手術	1 例



胸部手術	65 例
肺悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	34（33）例
肺切除術（うち鏡視下）	19（19）例
縦隔腫瘍手術（うち鏡視下）	5（5）例
胸膜手術（うち鏡視下）	7（5）例
甲状腺手術	12 例
その他	148 例
汎発性腹膜炎手術	7（2）例
後腹膜腫瘍手術	1（1）例
癒着剥離術（うち鏡視下）	8（4）例
腹壁ヘルニア手術（うち鏡視下）	12（5）例
鼠径ヘルニア（うち鏡視下）	46（23）例
試験開腹術（うち鏡視下）	7（6）例
その他	67 例

3. 研究業績（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日）

【論文】

- 1、北川 浩、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下幽門側胃切除中に両側気胸を来した
1 例 日本消化器外科学会雑誌 49：1072-1079, 2016

【学会発表】

- 1、井久保 丹、古賀智子、鶴 安浩、山田浩平、神谷尚彦、酒井 正、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二、田渕正延、加藤雅人：抗がん剤による間質性肺炎の検討 第 116 回日本外科学会定期学術集会 2016.4.14-16 大阪
- 2、植木 隆、真鍋達也、井上重隆、家永 淳、山中直樹、江上拓哉、石川幹真、許斐裕之、井久保 丹、永吉絹子、永井俊太郎、梁井公輔、大塚隆生、永井英司、中村雅史：A feasibility study of neoadjuvant XELOX without radiotherapy for locally advanced lower rectal cancer 第 116 回日本外科学会定期学術集会 2016.4.14-16 大阪
- 3、加藤雅人、古賀智子、湯ノ谷誠二：術後気管支瘻による膿胸に対し腹腔鏡下大網受動術により根治した得た一例 第 33 回日本呼吸器外科学会 2016.5.12-13 京都
- 4、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：膿胸の開窓術後に広背筋・大胸筋充填術を施行した一例 第 33 回日本呼吸器外科学会 2016.5.12-13 京都
- 5、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：横隔膜弛緩症に対する完全胸腔鏡下横隔膜縫縮術の一例 第 33 回日本呼吸器外科学会 2016.5.12-13 京都



- 6、山口 博史、山田 浩平、神谷 尚彦、鮫島 隆一郎、湯ノ谷 誠二：腹腔鏡下に根治し得たS状結腸間膜裂孔ヘルニアの1例 第53回九州外科学会 2016.5.13-14 長崎
- 7、池田翔大、神谷尚彦、井久保丹、湯ノ谷誠二：肝臓NETの一切除例 佐賀胆膵研究会 2016.5.13 佐賀
- 8、坂本亜佐子、岩田和弥、牧原りつ子、湯ノ谷誠二、前里喜一：第21回日本緩和医療学会学術大会 2016.6.17-18 京都
- 9、山田浩平、鮫島隆一郎、古賀智子、鶴安浩、神谷尚彦、酒井正、井久保丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：腹腔内膿瘍と鑑別困難であった回盲部低分化腺癌の1例 第107回日本消化器病学会九州支部例会 2016.6.24-25 佐賀
- 10、古賀智子、神谷尚彦、井久保丹、鶴安浩、山田浩平、酒井正、鮫島隆一郎、田渕正延、加藤雅人、湯ノ谷誠二：胃癌、悪性リンパ腫、肝内胆管癌のHBV陽性異時性多発癌の一切除例 第107回日本消化器病学会九州支部例会 2016.6.24-25 佐賀
- 11、池田 翔大、神谷 尚彦、鮫島 隆一郎、湯ノ谷 誠二：腸重積で発症した小腸腺腫の一例 第107回九州消化器病学会九州支部例会 2016.6.24-25 佐賀
- 12、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：間質性肺炎急性増悪の寛解後にVATS-lobectomyを行った肺癌の一例 第6回福岡胸部外科疾患研究会 2016.7.9 福岡
- 13、井久保 丹、古賀智子、鶴 安浩、山田浩平、神谷尚彦、酒井 正、鮫島 隆一郎、田渕正延、加藤雅人、湯ノ谷誠二：消化器領域における同時性、異時性の重複癌 第71回日本消化器外科学会総会 2016.7.14-16 徳島
- 14、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：膿胸の開窓術後に広背筋・大胸筋充填術を施行した一例 第49回日本胸部外科学会九州地方会総会 2016.7.21-22 鹿児島
- 15、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：横隔膜弛緩症に対する完全胸腔鏡下横隔膜縫縮術の一例 第49回日本胸部外科学会九州地方会総会 2016.7.21-22 鹿児島
- 16、黒木英男、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：左肺全摘出後に対側肺に発生した胎児型肺腺癌の1例 第49回日本胸部外科学会九州地方会総会 2016.7.21-22 鹿児島
- 17、黒木英男、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：初めての cVATS 右下葉切除術 第15回福岡呼吸器外科手術セミナー 2016.9.2 福岡
- 18、山田浩平、神谷尚彦、池田翔大、古賀智子、黒木英男、鮫島隆一郎、酒井 正、井久保丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下胆嚢摘出術困難症例における術前 ENBD チューブ留置の有用性について 第26回九州内視鏡外科手術研究会 2016.9.3 福岡
- 19、山田浩平、鮫島隆一郎、池田翔大、古賀智子、黒木英男、神谷尚彦、酒井 正、井久保 丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した高度肥満症の1例 第52回日本赤十字社医学会総会 2016.10.20-21 宇都宮
- 20、池田翔大、井久保 丹、古賀智子、山田浩平、神谷尚彦、黒木英男、鮫島隆一郎、酒井 正、田渕正延、湯ノ谷誠二：NAC 後に治癒切除を行い術後13年目に癌性腹膜炎を来した胃癌の1例 第78回日本臨床外科学会総会 2016.11.24-26 東京



- 21、山田浩平、井久保 丹、池田翔大、古賀智子、神谷尚彦、黒木英男、鮫島隆一郎、酒井 正、田渕正延：食道癌術後 3 年、膵癌術後 4 ヶ月で上腸間膜静脈(SMV)閉塞を来した急性腹症の 1 例 第 78 回日本臨床外科学会総会 2016.11.24-26 東京
- 22、池田翔大、神谷尚彦、古賀智子、山田浩平、黒木英男、鮫島隆一郎、酒井 正、井久保 丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるクリニカルパス逸脱症例の検討 第 29 回日本内視鏡外科学会総会 2016.12.8-10 横浜
- 23、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：横隔膜弛緩症に対する完全胸腔鏡下横隔膜縫縮術の一例 第 29 回日本内視鏡外科学会総会 2016.12.8-10 横浜
- 24、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、湯ノ谷誠二：喀血に対する術前 BAE で Ef3 を得た肺腺癌の一例 第 57 回日本肺癌学会九州支部学術集会 2017.2.24-25 鹿児島
- 25、黒木英男、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：薄壁空洞を呈した肺原発腺癌の 1 例 第 57 回日本肺癌学会九州支部学術集会 2017.2.24-25 鹿児島
- 26、山田浩平、神谷尚彦、池田翔大、古賀智子、黒木英男、鮫島隆一郎、酒井 正、井久保丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：臀部から会陰に貫通した竹により多発小腸穿孔、外傷性腹壁瘻痕ヘルニアを呈した1例 第53回腹部救急医学会 2017.3.2-3 横浜
- 27、山田浩平、鮫島隆一郎、池田翔大、古賀智子、黒木英男、神谷尚彦、酒井 正、井久保 丹、田渕正延、湯ノ谷誠二、明石道昭：当院における胃内分泌細胞癌の 4 例 第 89 回日本胃癌学会総会 2017.3.8-10 広島
- 28、池田翔大、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二、井久保 丹、酒井 正、神谷尚彦、黒木英男、山田浩平、古賀智子：自動吻合器を用いた Y 脚吻合部の狭窄による胃切除後輸入脚症候群 第 89 回日本胃癌学会総会 2017.3.8-10 広島

【諸学会座長・司会等】

- 1、湯ノ谷誠二：基調講演①「胃癌化学療法 of 2nd-line 治療の変遷と現状」佐賀県医療センター好生館腫瘍内科部長 嬉野紀夫先生 胃癌サイラムザ講演会 in 佐賀 2016.5.20 佐賀
- 2、湯ノ谷誠二：一般演題 胃・十二指腸 7 第 107 回九州消化器病学会九州支部例会 2016.6.24-25 佐賀

【講演・講義】

- 1、ファシリテーター 湯ノ谷誠二 平成 28 年度佐賀県医療センター好生館緩和ケア研修会 2016.5.21-22 佐賀
- 2、「疾病治療論Ⅱ消化器」 井久保 丹、酒井 正、神谷尚彦 平成 28 年度唐津看護専門学校看護専門課程講義 2016.6-7
- 3、「呼吸器外科とは ～肺癌診療を中心に～」 黒木英男 第 22 回 地域がん診療連携拠点病院公開講習会 2016.7.11 唐津赤十字病院
- 4、「最期まで苦痛に耐える大腸がん患者への関わり ～患者の意思を尊重した治療と看護の難しさ～」池田翔大 地域がん診療連携拠点病院緩和ケア勉強会 2017.1.16 唐津赤十字病院



5、「緩和ケア概論—患者の視点を取り入れた全人的なケアを目指して—」 湯ノ谷誠二
嬉野医療センター緩和ケア研修会 2017.1.28-29 嬉野

【院内講演座長・司会等】

1、湯ノ谷誠二 企画責任者：平成 28 年度唐津赤十字病院緩和ケア研修会 2016.9.10-11
唐津（唐津赤十字病院）

2、鮫島隆一郎：「胃がん化学療法の変遷と現状」佐賀県医療センター好生館 腫瘍内科部
長兼化学療法室部長 嬉野紀夫先生 第 22 回唐津赤十字病院地域がん診療連携拠点病院
公開講演会 2016.10.14

3、湯ノ谷誠二：「がんと向き合い生きよう～仲間と支え合い、分かち合いながら～」特別
講演「患者力が仲間を支える～愛媛での取り組みから～」NPO 法人愛媛がんサポートおれ
んじの会理事長 松本陽子先生 特別講演「街なかのがんサロンから見えてくるもの」特
定非営利活動法人クレブスサポート理事長 吉野徳親先生 第 7 回唐津赤十字病院市民公
開講座 2016.11.13

4、湯ノ谷誠二：「がんと就労」 講演「がんと就労—佐賀県での取組等」 佐賀県健康福
祉部健康増進課 川原康義先生 講演「治療と職業生活の両立支援について」
佐賀県産業保健総合支援センター 北島祐介先生 講演「がん相談支援センターの就労支
援」 佐賀大学医学部付属病院がん相談支援センター 江頭 彩先生 平成 28 年度がん相
談地域連携研修会 2017. 2. 26

5、井久保 丹：「膵癌の診断・治療最前線」九州大学大学院臨床腫瘍外科教授 中村雅史
先生 第 12 回唐津赤十字病院地域がん診療拠点病院特別講演会 2017.2.28

4. この 1 年の歩み

【人事異動】

・平成 28 年 4 月 1 日赴任

黒木英男：総合病院山口赤十字病院外科より

池田翔大：自治医科大学の 3 年次臨床研修（外科勤務 4 月～10 月）

八板信介：自治医科大学の 3 年次臨床研修（外科勤務 11 月～1 月）

・平成 29 年 3 月 31 日辞任

山田浩平：佐賀県医療センター好生館消化器外科へ

古賀智子：福岡赤十字病院外科へ

池田翔大：馬渡島診療所へ

八板信介：小川島診療所へ



【教育】

・臨床研修 2 名（1 年次）

白石さくら：平成 28 年 8 月 1 日～平成 28 年 10 月 30 日

是枝 侑希：平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

・佐賀大学医学部医学科 5 年次臨床実習 28 名 学生担当：山田浩平

昨年度からの医員が 2 名（山田・古賀）残留したので、例年よりスムーズな年度移行ができた。鶴に代わって赴任した池田が自治医科大学の 3 年次臨床研修の形で 7 カ月限定の外科勤務であり、その後を同じく自治医科大学 3 年次臨床研修の形で八板が 3 カ月外科勤務したが、最後の 2 ヶ月は減員となった。新病院移転の影響もあり年間手術件数は減少した。



整形外科部

1. スタッフ紹介（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

院長 志田原 哲 昭和 51 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医

整形外科部

部長 生田 光 平成元年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
 日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術技術認定医
 日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

副部長 北村 貴弘 平成 9 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
 日本整形外科学会認定リウマチ医
 日本整形外科学会認定スポーツ医

増田 圭吾 平成 18 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
 堀田 謙介 平成 20 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
 李 硯遠 平成 26 年卒

リハビリテーション部

部長 仙波 英之 平成元年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医

2. 臨床実績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

手術件数

総件数		671 件
大腿骨近位部骨折		108 件
四肢の骨折・脱臼		169 件
人工関節置換術	股関節	18 件
〃	膝関節	25 件
関節鏡視下手術		31 件
脊椎手術		139 件
	内視鏡下手術	50 件



3. 研究業績

学会発表

1. 腰椎椎間板ヘルニアに対する MED 後のヘルニア再発例の検討
生田 光、増田圭吾
第 45 回日本脊椎脊髄病学会
2016 年 4 月 14～16 日（千葉市幕張）
2. Recurrent herniation after microendoscopic discectomy for lumbar disc herniation.
Ikuta K, Masuda K.
Spine Week 2016
2016 年 5 月 16～20 日（Singapore）
3. Recurrence of lumbar disc herniation after microendoscopic discectomy for lumbar disc herniation.
Ikuta K, Masuda K, Tominaga F, et al.
17th EFORT Congress 2016
2016 年 6 月 1～3 日（Geneva, Switzerland）
4. Surgical outcomes of minimally invasive stabilization using percutaneous pedicle screws for spine fractures with ankylosing spinal disorders.
Kai K, Ikuta K, Masuda K, et al.
17th EFORT Congress 2016
2016 年 6 月 1～3 日（Geneva, Switzerland）
5. Radiological examination as to dislocation pattern of femoral trochanteric fractures and the reposition after surgery.
Sakuragi T, Kitamura T, Masuda K, et al.
17th EFORT Congress 2016
2016 年 6 月 1～3 日（Geneva, Switzerland）
6. Volumetric Change of Graft Bone for Posterior Lumbar Interbody Fusion with Time.
Tominaga F, Ikuta K, Masuda K.
17th EFORT Congress 2016
2016 年 6 月 1～3 日（Geneva, Switzerland）



7. Radiological assessment of percutaneous pedicle screw insertion in transforaminal lumbar interbody fusion.
Masuda K, Ikuta K, Tominaga F, et al.
17th EFORT Congress 2016
2016 年 6 月 1～3 日 (Geneva, Switzerland)
8. Minimum 5-year outcome after tubular surgery with the assistance of endoscopic technique for lumbar spinal stenosis.
Ikuta K.
37th SICOT Orthopaedic World Congress 2016
2016 年 9 月 8～10 日 (Rome, Italy)
9. 椎間孔病変を伴った骨粗鬆症性腰椎椎体骨折に対する手術治療
生田 光、増田圭吾
第 25 回日本インストゥルメンテーション学会
2016 年 10 月 28～29 日 (長崎市)
10. 外傷性胸腰椎椎体骨折 (AO Type A) に対する経皮的椎弓根スクリューを用いた後方固定での治療経験
増田圭吾、生田 光
第 25 回日本インストゥルメンテーション学会
2016 年 10 月 28～29 日 (長崎市)
11. 腰仙椎外側神経根障害に対する MED の治療成績
生田 光、増田圭吾、堀田謙介、他
第 132 回西日本整形・災害外科学科
2016 年 11 月 19～20 日 (鹿児島市)
12. 当院におけるリスフラン関節脱臼骨折の術後成績
堀田謙介、増田圭吾、北村貴弘、他
第 132 回西日本整形・災害外科学科
2016 年 11 月 19～20 日 (鹿児島市)
13. 大腿骨転子下骨折術後 3 年の偽関節に対してテリパラチドが有効だった 1 例
李 硯遠、堀田謙介、増田圭吾、他
第 132 回西日本整形・災害外科学科
2016 年 11 月 19～20 日 (鹿児島市)



14. 当院における軸椎歯突起骨折の治療経験
増田圭吾、生田 光、北村貴弘、他
第 132 回西日本整形・災害外科学科
2016 年 11 月 19～20 日（鹿児島市）
15. 腰仙椎外側神経根障害に対する MED の治療成績
生田 光
第 19 回日本低侵襲脊椎外科学会
2016 年 11 月 24～25 日（東京）

講演

1. 胸腰椎骨折の治療
増田圭吾
第 29 回佐賀県骨折治療研究会
2016 年 6 月 25 日（唐津市）
2. 低侵襲脊椎手術
生田 光
SAGA SPINE COURSE
2016 年 11 月 13 日（東京）
3. 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下除圧術（MEL）
生田 光
第 132 回西日本整形・災害外科学科
2016 年 11 月 19～20 日（鹿児島市）
4. 骨盤骨折
堀田謙介
佐賀県整形外科勤務医会勉強会
2017 年 3 月 8 日（佐賀市）

研究会開催（代表幹事）

1. 第 6 回佐賀県北骨コッ病診連携会
志田原 哲、生田 光
2016 年 6 月 9 日（伊万里市）



2. 佐賀県骨折治療研究会
仙波 英之
2016 年 6 月 25 日 (唐津市)
3. 第 7 回佐賀県北骨コッ病診連携会
志田原 哲、生田 光
2016 年 11 月 17 日 (唐津市)
4. 第 1 回唐津整形外科医会学術講演会
生田 光、志田原 哲
2016 年 12 月 1 日 (唐津市)
5. 第 2 回唐津整形外科医会学術講演会
生田 光、志田原 哲
2017 年 3 月 27 日 (唐津市)

論文

1. Ikeuchi H, Ikuta K. Accuracy of pedicle screw insertion in the thoracic and lumbar spine: a comparative study between percutaneous screw insertion and conventional open technique. Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery 2016;136:1195-1202.
2. Ikuta K, Masuda K, Tominaga F, et al. Clinical and radiological study focused on relief of low back pain after decompression surgery in selected patients of lumbar spinal stenosis associated with Grade I degenerative spondylolisthesis. Spine 2016;41(24); E1434-1443.
3. Ikuta K, Tarukado K, Masuda K. Characterization and risk factor analysis for recurrence following microendoscopic discectomy for lumbar disc herniation. Journal of Neurological Surgery: Part A. 2017;78(2);154-160.

著書 (分担執筆)

1. 生田 光. 内視鏡下椎間板摘出術 整形外科看護 2016 秋季特集号 「ざっくりわかる整形外科の手術」 メディカ出版 飯田寛和監修, p.135-142.
2. 北村貴弘. 踵骨骨折 (Westhues 変法) 骨折 髄内固定治療マイスター メジカルビュー社 2016; p242-253.



4. この1年の歩み

平成28年4月1日より九州大学整形外科教室より堀田謙介先生がスタッフとして加わり、李硯遠先生が赴任されて新たな1年がスタートしました。九州大学からの派遣研修に来られる予定であった先生が諸事情のため、赴任されることが叶わず、本年度は1名欠員の状態となりました。

本年は8月1日に新病院への移転という病院の一大行事がありましたが、各先生方も移転作業の一端を担いました。

そんな中でも、整形外科の手術件数は例年同様の手術件数があり、今年度は671件でした。多忙な毎日となっていますが、佐賀県北部地域の基幹病院の整形外科として今後も地域医療に貢献出来るよう、スタッフ一同頑張っていきたいと考えています。



脳神経外科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部長	鈴山堅志	日本脳神経外科学会 専門医・指導医 日本脳卒中学会 専門医 日本脳神経血管内治療学会 日本脳卒中の外科学会 日本脳神経外科コンgres 医学博士
副部長	岡本浩昌	日本脳神経外科学会 専門医・指導医 日本脳卒中学会 専門医 日本脳卒中の外科学会 日本脳神経内視鏡学会 技術認定医 日本脳神経外科コンgres 医学博士
医師	若宮富浩	日本脳神経外科学会 日本脳腫瘍学会 日本脳腫瘍病理学会 日本癌学会
医師	中城博子	日本脳神経外科学会 日本脳神経外科コンgres 日本微小脳神経外科解剖研究会

2. 臨床業績

入院患者数	405 名
手術件数	111 件
動脈瘤クリッピング術	8 件
動脈瘤塞栓術	12 件
脳動静脈奇形塞栓術	1 例
腫瘍摘出術	5 件
腫瘍生検	2 件
頚動脈内膜剥離術	3 件
頚動脈ステント	3 件
EC-IC バイパス術	4 例
開頭血腫除去術	18 件

（内視鏡下 4 例）



水頭症手術	13 件
慢性硬膜下血腫	27 件
血栓回収療法	4 例
その他	11 件

3. 研究業績

当科での周術期感染症対策について

古川隆 高松裕一郎 岡本浩昌 鈴山堅志
佐賀脳神経外科手術手技研究会

脳膿瘍の治療中に生じたメトロニダゾール脳症の 1 例

鈴山堅志 古川隆 高松裕一郎 岡本浩昌
佐賀脳神経外科懇話会

重複中大脳動脈を伴った急性期脳梗塞に対して経皮的血栓回収術を施行した 1 例

古川隆 鈴山堅志 高松裕一郎 岡本浩昌 緒方敦之 高瀬幸徳 阿部竜也
日本脳神経血管内治療学会総会 2016

一過性脳虚血発作を呈した 2 年後に頭蓋内出血を生じた aplastic or twig-like middle cerebral artery の 1 例

内山拓 岡本浩昌 高口素史 田島裕 鈴山堅志
脳神経外科 44(2)2016

4. この 1 年のあゆみ

脳卒中や頭部外傷などの救急疾患が診療の中心となっています。このことは例年と比較し変化ありません。特に虚血性脳卒中については血管内治療（血栓回収療法）の導入・普及により超急性期治療の time window が延長し治療成績の更なる向上が期待される分野となっていますので、当科でも積極的に展開していきたいと考えています。



皮膚科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

副部長	土井 和子	平成 15 年卒	日本皮膚科学会 西日本皮膚科学会
	佐藤 友紀	平成 26 年卒	日本皮膚科学会 西日本皮膚科学会

2. この 1 年の歩み

今年度は武医師と交代で佐藤友紀医師が赴任し、診療を行いました。

外来診療は火、木、金曜日の午前中、月曜日は外来での小手術、水曜日には手術室での植皮術や悪性腫瘍切除等をおこなっています。

近隣地域で麻酔医のもと皮膚科手術を行っているのは当院のみですので、熱傷、悪性腫瘍などを積極的に受け入れ、地域医療に貢献してまいりたいと思います。



泌尿器科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部長 明利 浩行 平成 2 年卒 日本泌尿器学会専門医

副部長 西村 和重 平成 4 年卒 日本泌尿器学会専門医・指導医

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

手術症例内訳

	術式	件数
悪性腫瘍	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・その他のもの）	16
	膀胱悪性腫瘍手術（膀胱部分切除）	1
	精巣悪性腫瘍手術	2
	腎（尿管）悪性腫瘍手術	4
良性腫瘍	経尿道的前立腺切除術（前立腺肥大症）	6
	膀胱腫瘍切除術（経尿道的手術）	1
	開腹下膀胱切除術	1
結石	経尿道的尿路結石除去術（その他のもの）	4
	膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	2
	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）	10
	経皮的尿路結石除去術	15
	ピンハンマー式尿路結石破砕術	2
その他	経尿道的電気凝固術	1
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	5
	経尿道的尿管ステント留置術	13
	経尿道的尿管ステント抜去術	2
	経尿道的尿管狭窄拡張術	1
	陰嚢水腫手術（その他）	1
	腎部分切除術	2
	膀胱瘻造設術	4



	術式	件数
	尿道狭窄内視鏡手術	2
	精索捻転手術	2
	膀胱水压拡張術	2
	膀胱内凝血除去術	2
	前立腺生検	21
合 計		122

3. 研究業績

【学会発表】

鼠径部腫瘍の2例

山口博史・西村和重・明利浩行（唐津赤十字病院 泌尿器科）

日本泌尿器科学会 第81回 佐賀地方会 2016.9.3

4. この一年の歩み

平成28年度の泌尿器科は常勤医師2名で診療をしてまいりました。患者さま一人ひとりの身体的、精神的状況に合わせた治療を行っております。

佐賀県北部地区の地域医療支援病院として、尿路性器悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石、感染症を主に治療しております。

地域の前立腺検診と連携し、PSA検査により前立腺癌の早期発見に努めております。結石の治療では、ESWLをはじめ内視鏡的摘出術を積極的に進めてきました。

また、地域医療連携に努めており、地域の連携医療機関から多くの患者さまを紹介いただいております。



産婦人科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部長 佐護直人（平成 28 年 4 月 1 日～）

医師 小野剛史（平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

藤田 愛（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

入院患者数：389 人

分娩件数：146 件（経膣：74 件、帝切：72 件、帝切率：49.3%）

手術件数：218 件（予定：154 件：緊急：64 件）

帝王切開術：72 件（予定：31 件、緊急：41 件）

腹腔鏡手術：26 件（異所性妊娠：11 件、卵巣腫瘍：14 件、子宮摘出：1 件）

3. 研究業績

【学会】

平成 28 年 6 月 4 日

第 214 回 佐賀産婦人科学会学術研修会

「妊娠後期に左手掌尺側動静脈瘤が増悪し、早期の妊娠終結が必要と判断した一例」

小野 剛史

【講演】

平成 28 年 9 月 16 日

第 10 回地域がん診療連携拠点病院 特別講演会

「予防できる子宮頸がん ―日本での現状は―」

佐賀大学医学部附属病院 産科婦人科教授 横山 正俊 先生

平成 29 年 3 月 28 日

地域医療支援病院紹介症例報告会

「子宮体がんの予防と早期診断」佐護 直人

【論文】

「婦人科悪性腫瘍脳転移の 5 症例」萩尾 洋介（前産婦人科部長）

佐賀県産科婦人科学会/産婦人科医会会誌 2017 ; 28 ; 28-32

【研究会】

唐津産婦人科医研修会 毎月第 4 火曜日開催（症例報告等）



4.この1年のあゆみ

平成28年度の産婦人科は、臨床面では、産科領域においては分娩件数、帝切率ともほぼ例年と同様の臨床統計となっております。婦人科領域におきましては、子宮頸部の異形成および上皮内癌に対する子宮頸部の円錐切除術が、2年前から12例、24例、44例と漸増傾向にあります。腹腔鏡下手術は前年度の6例から26例と大幅に増加しており、吊り上げ法から気腹法へと術式も変更となりました。適応は良性卵巣腫瘍（術前診断）と異所性妊娠がほとんどですが、子宮摘出も一例実施しました。今後も適応の拡大が目標です。



眼科

1. スタッフ紹介 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

部長	木村 篤仁	昭和 58 年卒
眼科医師	上野 智弘	平成 23 年卒
眼科医師	中村 悠花子	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 25 年卒
ODT	萩原 千恵	平成 28 年 6 月末退職
	松尾 由貴	
	増田 佳奈	平成 28 年 4 月 1 日～

他、外来看護師さんが状況に応じて手伝ってもらっています。
またクラークさんにも応援していただいています。

2. 臨床業績

平成 28 年度眼科手術一覧

	合計
超音波水晶体乳化吸引術+眼内レンズ挿入	422
水晶体嚢外摘出術	3
眼内レンズ縫着術	5
エクस्प्रेसチューブレクトミー	5
網膜剥離バックリング手術	3
硝子体手術	1
眼瞼下垂手術	4
翼状片手術	5
斜視手術	1
眼瞼腫瘍手術	1
手術室使用の症例数 合計	450
抗 VEGF 硝子体注射	136
ケナコルトテノン嚢下注射	2
外来処置室での症例数 合計	138
後囊切開術	16
網膜光凝固術特殊	31
網膜光凝固術通常	4
虹彩光凝固術	1
レーザーを使用した症例数 合計	52
総合計	640



3. この一年の歩み

この年は、いままでの一年と大きく違った年でした。永年お世話になった病院建物があたらしく建て替わる年でした。場所は、別の場所に新しく新機能を盛り込んだ病院となり更にカルテの形式が紙ベースのものから完全な電子化へと移行する変革の年でした。これに対応する為にさまざまな事が必要となり、それに対応していく年でした。

平成 28 年度の眼科の中の流れを時系列に見ていくとします。

3 月 31 日にて藤田秀昭先生が退職されました。

4 月 1 日より福岡大学眼科医局より中村悠花子が赴任されました。

4 月 1 日より新しく ORT の増田佳奈先生が赴任されました。

それまで一緒に仕事をされてきた萩原千恵先生がめでたく 6 月末にて壽退職となるにともない増田佳奈先生が赴任されて、その間 2 か月程にて業務の引き継ぎなどしていただきました。これまでもが主な人の異動の流れでした。

病院全体の流れとしては、新病院に移転と電子カルテ化に向けてのレクチャーが始まりました。紙から電子に変るだけといえばそれまでですが、とりわけ眼科では他の科と違い特殊性がさらに特殊という形で独特の検査とそれに伴うデータの処理と表示、さらに画像を多彩に使用する為それに合う設備と電子カルテ上にて表示しやすくするシステムなど、既に他の病院にて電子カルテがあるのでそれをそのまま持ってくればとはいかない各病院独自の取決めなどをひとつひとつ確認して電子化するという気の遠くなるような作業が繰り返される毎日でした。それに眼科入院、眼科手術等の予約の患者様の調節がまた大変でした。だいたい 3~6 カ月位前から予約等が入っていますのでこれを 8 月下旬からの本格的手術スタートとして、7 月は後半より入院ゼロの体制となるように、その年の 3~4 月頃より調整作業に入っていく事も必要でした。

これらの準備の事もあり病院の移転に関しては、眼科としては特に人の移動・物の移動は天候にも恵まれて特に問題なく処理されたと思います。しかし、システムが正しく稼働するかなど実際の作業に入らないといろいろなシステムの「バグ」みたいなものと使う側の慣れと分かっていたつもりが実際の運用では、イメージと違いその場その場での確認・訂正の作業が移転当初は連日のことでした。また、入院等は 8 月の後半より入っていただき手術も稼働となりました。病院移転前にて新しく病棟が移りますのでそれに伴い勉強会等を行って準備してきましたが電子カルテ上での展開にともなう確認・指示だしや診察等の手順などあっちこっちで外来同様確認作業が連続でした。

それでも、新しい病院に移り眼科関連の機材・設備が新しくなり、広い場所での仕事となり作業が行いやすく、狭い場所でも今までしてきた事を思うととても快適な環境で仕事出来る事となりました。

臨床面は、途中入院、手術をお休みしなければならない状況でしたが、2. 臨床業績のような手術症例を行っていました。

全体総数は、手術室で行う手術、外来処置室にて対応している硝子体注射やテノン嚢下注射、レーザー等を用いる光凝固等のレーザー手術を入れると 640 件となりました。

白内障があいかわらず多いのですが、病院の移転等の煩雑さが手伝ってかそれ以外の他の手術が減っているようです。またレーザーに関係する手術が減少して 硝子体腔注射の増加が目立ちます。



入院の治療では、角膜の感染症が目立っており治療に苦慮しました。時代とともに治療方法が変わる事と病態も変わり、それに対する治療も変化がおり、今後疾病のニーズに応じた対応していく必要があるとも感じた年でした。

次に学術等に関してですが、研究業績では、福岡大学眼科研究会にて難治の角膜潰瘍の報告と緑内障の手術法の一つの濾過胞再建術のブレブナイフの使用経験の報告をしました。それぞれ上野智弘先生と 木村篤仁が報告しました。

また、唐津眼科地域連携の会にてのご報告としては、難治性の角膜潰瘍の一例の報告・検討と外傷性白内障の2例の報告をしました。

以上が、平成28年度を振り返ってみたところです。あたらしく場所を移転して設備・施設の一新に伴う事に関して、仕事の流れを考察して、より現実的に運びやすい疾患への対応とあたらしい治療方法のニーズに応じた診療の進め方を次年度の課題と感じつつ終わりたいと思います。

文筆 平成29年6月30日

唐津赤十字病院 眼科 部長 木村 篤仁



放射線科

1. 放射線科スタッフ紹介（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

部長	眞武 邦茂	平成 6 年卒	日本医学放射線学会 専門医 指導医 日本インターベンショナルラジオロジー学会 専門医 日本脈管学会 専門医 検診マンモグラフィ読影 認定医 腹部大動脈ステントグラフト 実施医
副部長	高橋 行彦	平成 14 年卒	日本医学放射線学会・専門医 指導医 日本消化器内視鏡学会
医師	高木 正統	平成 24 年卒	日本医学放射線学会 日本医学放射線腫瘍学会 検診マンモグラフィ読影 認定医

2. 臨床業績

CT	11,851 件
MRI	6,148 件
RI	375 件
血管造影	115 件
放射線治療	58 件
消化管検査	1,679 件

3. 研究業績

【学会・研究会発表】

- 1) 第 257 回唐津東松浦消化器研究会 平成 28 年 7 月 19 日（火）唐津市
長期の経過を追えた肝原発類上皮血管内皮腫の 1 例
唐津赤十字病院 放射線科 高木 正統
- 2) 第 259 回唐津東松浦消化器研究会 平成 28 年 11 月 15 日（火）唐津市
腹痛を主訴に来院した精巣腫瘍の 1 例
唐津赤十字病院 放射線科 高木 正統
- 3) 第 259 回唐津東松浦消化器研究会 平成 28 年 11 月 15 日（火）唐津市
ミニレクチャー『憩室出血対策としてのバリウム注腸の有用性について』
唐津赤十字病院 放射線科 眞武 邦茂
- 4) 第 261 回唐津東松浦消化器研究会 平成 29 年 3 月 15 日（火）唐津市
長期の経過が追えた、空腸 GIST の 1 例
唐津赤十字病院 放射線科 高木 正統
- 5) 第 23 回 福岡 IVR カンファレンス 平成 28 年 5 月 20 日 福岡市
「巨大 HCC に対する TACE 時にバルーンカテーテルで血管損傷を来した 1 例」
唐津赤十字病院 放射線科 眞武邦茂、高橋行彦、高木正統



- 6) 第24回 福岡 IVR カンファレンス 平成28年7月22日 福岡市
アンギオシールで止血し翌日に突然穿刺部出血を来した1例
唐津赤十字病院 放射線科 眞武邦茂、高橋行彦、高木正統
- 7) 第26回 福岡 IVR カンファレンス 平成28年11月25日 福岡市
「Osler病に伴った多発肺AVFに対するTAE」
唐津赤十字病院 放射線科 眞武邦茂、高橋行彦、高木正統
- 8) 第27回 福岡 IVR カンファレンス 平成29年1月27日 福岡市
「高濃度バリウムを用いた注腸による憩室出血対策」
唐津赤十字病院 放射線科 眞武邦茂、高橋行彦、高木正統
- 9) 第183回日本医学放射線学会九州地方会 平成28年6月18、19日 宮崎市
鼠径ヘルニアと鑑別を要した精索脂肪肉腫の1例
唐津赤十字病院 放射線科 高木正統、眞武邦茂、高橋行彦
外科 鶴安浩
泌尿器科 西村和重
- 10) 第184回日本医学放射線学会九州地方会 平成29年2月4、5日 沖縄県那覇市
透析中の食道癌患者に対する根治的放射線治療の成績
唐津赤十字病院 放射線科：高木正統、眞武邦茂、高橋行彦
九州大 臨放：大賀才路、本田浩

4. この1年の歩み

人事異動としては、前村医師から高木医師に交代した。

本年は新病院への移転に伴い、320列CT、3T MRIを新たに購入し、CT、MRI各2台体制となった。急患に対する迅速な検査の対応が可能となり、より地域医療支援病院としての機器整備が充実したものになった。一方、その他の機器は全て移設することとなり、近隣の病院の協力を得つつ、休止期間を乗り切ることが出来た。放射線治療に関しては移設に5か月という長期を要し、この間、福岡市にある福岡記念病院の協力も頂き、当院で対応できない間の治療を補って頂いた。



麻酔科

1. スタッフ紹介

部長	検見崎 裕	麻酔指導医 福岡大学臨床教授 日本麻酔科学会会員 日本ペインクリニック学会会員
副部長	白武 孝久	麻酔専門医 日本麻酔科学会会員 日本臨床麻酔学会会員
医師	嘉手川 繁登	麻酔認定医 日本麻酔科学会会員
医師	林 文子	平成 29 年 1 月 1 日着任 麻酔認定医 日本麻酔科学会会員 日本臨床麻酔学会会員 日本ペインクリニック学会会員
非常勤医師	十時 忠秀	平成 28 年 4 月から 6 月まで
	戸田 志緒里	平成 4 月から 7 月、平成 29 年 1 月まで
	内山 夏希	平成 4 月から平成 29 年 3 月まで
	外山 恵美子	平成 28 年 7 月から 12 月
	原 妹那	平成 28 年 8 月から 12 月
	熊野 仁美	平成 29 年 1 月から 3 月まで
	末永 佑太	平成 29 年 3 月

2. 臨床業績（平成 28 年度）

麻酔科担当症例総数	1416 例
全身麻酔	330 例
全身麻酔＋硬、脊、伝	909 例
硬膜外麻酔	4 例
脊髄くも膜下麻酔	74 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	71 例
伝達麻酔	7 例
その他	21 例



3. 研究業績

9月3日(土) 九州麻酔科学会第54回大会 佐賀市文化会館

①麻酔関連の誤投薬に関するインシデント報告の分析

発表者 嘉手川 繁登

②クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群患者に対する乳房切除術の麻酔経験

発表者 嘉手川 繁登

4. この一年の歩み

平成28年8月に新病院移転が行われた。大きな問題や混乱もなく無事移転作業は終了した。平成28年度の手術麻酔症例総数は移転に伴う制限も加わり昨年度の1518例より102例減少し1416例であった。診療科別では外科104例減、整形外科5例増、産婦人科14例増、脳神経外科14例減などであった。平成29年1月より待望のスタッフ増員があり常勤麻酔科医として林文子先生を迎えた。また非常勤医師の派遣を前年度と同様に週3日(火、木、金)、午後より福岡大学麻酔科に依頼した。新病院での運用面や電子カルテ移行での問題点もあったが少しずつ改善された。業務上はスタッフ増員もあり余裕を持ち待機手術のスケジュールを組め、緊急手術への対応も支障なく、特に問題なく経過した。



救急科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部長 中島 厚士

副部長 藤田 亮

吉武 邦将

2. 臨床業績

救命救急センター 年間重篤患者数（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

番号	疾病名	基準 (基準を満たすもののみ数えること)	患者数 (人)	退院・転院 (転棟を含む) (人)	死亡 (人)
1	病院外心停止	病院前心拍再開例、外来での死亡確認例を含む	96	10	86
2	重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞、急性心筋梗塞又は緊急冠動脈カテーテル施行例	47	44	3
3	重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂	13	12	1
4	重症脳血管障害	来院時 JCS 100 以上、開頭術、血管内手術施行例又は tPA 療法施行症例	70	52	18
5	重症外傷	Max AIS が 3 以上又は緊急手術施行例	223	214	9
6	重症熱傷	Artz の基準による	2	1	1
7	重症急性中毒	来院時 JCS 100 以上又は血液浄化法施行例	12	11	1
8	重症消化管出血	緊急内視鏡施行例	62	57	5
9	重症敗血症	感染性 SIRS で臓器不全、組織低灌流又は低血圧を呈する例	11	3	8
10	重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈する例	1	0	1
11	特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等	0	0	0
12	重症呼吸不全	人工呼吸器管理症例（1 から 11 までは除く。）	23	20	3



13	重症急性心不全	人工呼吸器管理症例又はSwan-Ganzカテーテル、PCPS若しくはIABP使用症例（1から11までを除く。）	14	12	2
14	重症出血性ショック	24時間以内に10単位以上の輸血必要例（1から11までを除く。）	0	0	0
15	重症意識障害	JCS 100以上が24時間以上持続（1から11までを除く。）	1	1	0
16	重篤な肝不全	血漿交換又は血液浄化療法施行例（1から11までを除く。）	0	0	0
17	重篤な急性腎不全	血液浄化療法施行例（1から11までを除く。）	5	4	1
18	その他の重症病態	重症肺炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群などで持続動注療法、血漿交換又は手術療法を実施した症例（1から17までを除く。）	68	58	10
合 計 （調査票3の「10. 年間重篤患者数」）			648	499	149

3. 研究業績

【学会発表】

- 1) 超高齢者のメトヘモグロビン血症に対してメチレンブルー投与を行い、溶血性貧血を合併した1例
吉武邦将
第44回日本救急医学会総会（16年11月 東京）
- 2) 縊頸による心肺蘇生後にタコツボ型心筋症を発症した患者に目標体温管理（TTM）を施行した1例
中島厚士
第44回日本救急医学会総会（16年11月 東京）
- 3) 酸・アルカリ誤飲患者にいつ内視鏡を行いますか？～内視鏡下洗浄・ステロイド局注療法を行った1例を踏まえて～
藤田亮
第44回日本救急医学会総会（16年11月 東京）
- 4) IPC 乳剤服毒による遅発性のメトヘモグロビン血症を呈し、メチレンブルー投与を行った1例
吉武邦将
第38回日本中毒学会総会 （16年7月 新潟）



- 5) 次亜塩素酸ナトリウム製剤による食道狭窄予防にステロイド局注療法を行った 1 例
藤田亮
第 38 回 日本中毒学会総会 (16 年 7 月 新潟)
- 6) 当院におけるマムシ咬傷 39 症例の検討
藤田亮
第 19 回 日本臨床救急医学会総会 (16 年 5 月 福島)
- 7) リツキシマブ投与、人工呼吸器管理により救命しえた顕微鏡的多発血管炎の 1 例
龍溪智史
第 31 回 日本救命医療学会 (16 年 9 月福岡)

【消防関係】

佐賀県 MC 作業部会
佐賀県 MC 協議会
救急救命士病院実習指導
救急救命士九州研修所学生実習指導

【ドクターヘリ】

佐賀県ドクターヘリ運航調整委員会

4. この 1 年の歩み

ありがたいことに現在は 3 人体制で業務を行っています (いつ一人体制になっても不思議ではないのですが)。大学からの後期研修医が一か月半来て研修を行ってくれました。Dr カー出動も数少ないながら時々あります。また月数回 Dr ヘリ搭乗のため大学へ行き、顔の見える関係を構築しています。

病院全体で急患を診るという素晴らしい風土の中、皆さまの邪魔をしないよう、これからもさらに一層診療に励んでいきたいと思えます。



病理診断科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 4 月 1 日～29 年 3 月 31 日）

医師

常勤 明石 道昭 日本病理学会専門医

日本細胞診学会専門医

死体解剖資格認定医

非常勤 甲斐 敬太 佐賀大学医学部附属病院病理部 准教授

日本病理学会専門医

日本細胞診学会専門医

死体解剖資格認定医

非常勤 山崎 真希子 佐賀大学医学部大学院病因病態科学講座

2. 臨床実績（平成 28 年 1 月～12 月）

組織診断 2263 例

術中迅速診断 101 例

病理解剖 9 例

3. 研究業績

剖検所見会（平成 28 年 1 月～12 月に病理解剖した症例）

（平成 28 年）

3 月 28 日 絞扼性イレウス、気管支肺炎、Rett 症候群

5 月 17 日 びまん性肺胞障害、肺胞性肺炎、肺膿瘍、肺水腫・出血、非閉塞性腸管虚血（空回腸、結腸）

6 月 20 日 悪性リンパ腫（DLBCL）、血球貪食症候群

7 月 25 日 重症肺炎、びまん性肺胞障害、多発性細血管血栓塞栓、血球貪食リンパ組織球症、前立腺癌（Gleason score:4+4=8）

9 月 12 日 重症肺炎、肺膿瘍、肺うつ血・水腫・出血、左肺動脈下葉枝血栓塞栓症、骨髓血球貪食像

10 月 17 日 慢性心不全、陳旧性心筋梗塞・PCI 後、両心室肥大症、心内膜線維症、慢性膵炎（IgG4 関連膵疾患）

11 月 21 日 敗血症（MRSA）、両側腸腰筋膿瘍・後腹膜膿瘍、肝胆汁鬱滞、腰椎椎体膿瘍・硬膜外膿瘍、他臓器好中球浸潤、DIC、左後腹膜血腫、肝硬変

12 月 19 日 特発性急性膵炎、消化管出血（食道静脈瘤破裂疑い）、非代償性肝硬変・肝不全

外科病理カンファレンス（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

（平成 28 年）



- 5月26日 ①広範囲の硬化と石灰化を伴った甲状腺乳頭癌の1例
②薄壁空洞形成を伴った肺原発腺癌の1例
- 6月30日 ①胃内分泌細胞癌の1例
②微小空洞形成した胆管癌の1例
- 7月28日 ①肺浸潤性粘液腺癌の1例
②低異型度虫垂粘液性腫瘍の2例
- 9月29日 ①動脈塞栓術により癌細胞の大部分が消滅した肺癌の1例
②硬化性変化を伴った肝血管腫の1例
- 10月27日 ①臍体部に発生した稀な嚢胞性腫瘍の1例
②高悪性度胎児型肺腺癌の1例
- 11月24日 ①遺伝性出血性毛細血管拡張症に伴う肺動静脈奇形の1切除例
(平成29年)
- 1月26日 ①胃リンパ球浸潤癌の1例
②若年男性の円形無気肺症例
- 2月23日 ①粘液性腫瘍との鑑別が問題となった虫垂憩室炎の1例
- 3月30日 ①空腸 GIST の1例
②化学療法により大部分が壊死した肺多形癌の1例

学会発表

- 第62回日本病理学会秋期特別総会
剖検結果の遺族説明にメディカルイラストレーションを使用した経験
明石道昭(平成28年11月10日)
- 第33回佐賀県臨床細胞学会地方会
EUS-FNAが有用であった臍神経内分泌腫瘍の1例
高田知佳(平成29年3月4日)

その他

- 医療事故調査委員会での剖検結果の発表(事故報告管理番号:17000040)
新生児遷延性肺高血圧症または新生児大量肺出血の疑いにより死亡した症例
明石道昭(平成29年3月31日)

4. この一年の歩み

平成28年4月より前任の木戸医師に代わり、明石が赴任しました。8月の病院移転に向けて、尾形係長を中心に旧病院に保管してあった大量の標本の選別と処分を行うと同時に、病理検査室の設計、新たな機材の選定を行いました。移転によって以下の点が新しくなりました。

- 病理検査室・剖検室全体の陰圧環境の整備。
- 剖検室：ご遺体の着替えや体重測定を行う前室を整備。剖検室内には感染対策に適応したL字型の昇降型解剖台を設置。使用者の感染予防となる吸引機付き電気ノコを購入。
- 病理室の自動染色装置、自動封入器の設置。



4. パラフィンブロック薄切用の回転式マイクロトームの増設。
5. 病理診断システムの更新と標本撮影装置の新設。これに連動した標本カセット印字機およびスライドガラス印字機新設によるバーコード運用。
6. 臓器保存用の真空包装機の設置。
7. 運用面として診断結果未参照を予防するためのアラーミング体制を開始。

これらの刷新により、より安全で正確な業務体制が構築され、より精度高くスピード感ある診断が可能となりました。

平成 29 年 3 月からは肺癌の抗 PD-1 抗体の保険適応に伴う病理検体検査に対応を始めました。また同月には唐津地区初となる医療事故調査委員会で、当院で行った剖検結果の発表を行いました。

今後は新たな設備を有効に活用し、臨床側の要望に遅滞なくお答えできるよう鋭意努力してまいります。また積極的に勉強会・学会に参加し、専門知見を更新するべく努めます。新病院に移転後は剖検数が低下しており、臨床の先生方には積極的な解剖のご依頼をお願いいたします。



形成外科

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

非常勤 高木 誠司 （福岡大学 形成外科より）（第 1 週以外の水曜日）
非常勤 有吉 瑞葉 （福岡大学 形成外科より）（第 1 週の水曜日）

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

手術室での手術症例数 26 例 （形成外科の症例 10、他科の症例 16）

3. この 1 年の歩み

基本的には毎週水曜日の午前中の中のみの診療であり、その限られた時間の中で外来診療と手術をこなしています。

外来診療では、小児科の御協力を得て「乳児血管腫に対する β ブロッカー内服治療」を新たに導入させて頂きました。

手術では、「形成外科疾患で全身麻酔を要する症例は、基本的には『手術は福岡大学病院で、術後フォローは唐津日赤で』」としております。その一方で、各科からの手術応援要請があった場合には、曜日・時間を調整してエキストラに対応させて頂きました。他科との共同手術は 16 件ありましたが、その中、呼吸器外科・麻酔科の先生および手術室の協力のもと、血管吻合を要する遊離皮弁（いわゆるマイクロサージャリー）を 2 例施行することができました。形成外科の分野においてマイクロサージャリーという手技はその診療の幅を大きく広げますので、手術室がこれに対応できることを証明できたことは大きな成果でした。

なんでも気軽に相談できる形成外科を心がけていますので、次年度も引き続きどうぞよろしくお願い致します。



2. 薬剤部門

薬剤部

1. スタッフ紹介（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

薬剤部長 湯ノ谷 誠二 副院長

薬剤課長	岩田 和弥	平成 8 年九州大学卒	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト
調剤係長	中村 栄子	平成 2 年福岡大学卒	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 糖尿病薬物療法准認定薬剤師 介護支援専門員資格取得薬剤師 佐賀県肝炎コーディネーター
製剤係長	青山 敦子	平成 6 年長崎大学卒	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師 佐賀県肝炎コーディネーター
薬剤師	木下 智弘	平成 19 年九州大学卒 平成 21 年同修士	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 がん薬物療法認定薬剤師
薬剤師	寺田 麻弥	平成 21 年九州保健福祉大学卒	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
薬剤師	宮崎 裕士	平成 18 年京都薬科大学卒	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 佐賀県肝炎コーディネーター
薬剤師	坂本 亜佐子	平成 18 年九州大学卒	日本病院薬剤師会認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師
薬剤師	横田 智也	平成 25 年広島国際大学卒	日本病院薬剤師会認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト
薬剤師	光瀬 佳奈子	平成 25 年長崎国際大学卒	日本病院薬剤師会認定薬剤師
薬剤師	田渕 友梨	平成 25 年同志社女子大学卒	日本病院薬剤師会認定薬剤師
薬剤師	柳原 佑美	平成 27 年同志社女子大学卒	
薬剤師	岩崎 集平	平成 26 年長崎国際大学卒	
薬剤師	青木 理奈	平成 28 年長崎国際大学卒	



薬剤師 鵜池 美希 平成 28 年長崎大学卒
 薬剤師 多幾 映里沙 平成 28 年福岡大学卒
 薬剤師 田口 陽平 平成 28 年第一薬科大学卒
 薬剤師 長橋 修平 平成 28 年長崎国際大学卒

常勤嘱託事務員

川添 淳子 【薬剤部業務補助】

井本 鼓 【薬剤部業務補助】

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

【処方箋枚数】

《入院》

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
処方箋	5,042	4,898	4,894	4,354	4,183	5,098	5,085	5,203	5,034	4,911	4,792	5,452	58,946
注射箋	4,529	4,541	4,354	3,982	5,574	5,794	6,251	6,191	6,063	6,007	5,715	6,241	65,242
麻薬処方箋	82	137	136	101	136	132	103	102	49	63	60	70	1,171
麻薬注射箋	191	171	236	222	214	186	221	299	321	321	308	284	2,974

《外来》

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
処方箋	595	584	603	559	580	542	533	565	636	601	571	594	6,963
注射箋	1,231	1,164	1,245	1,224	1,241	1,151	1,766	1,814	1,390	1,189	1,136	1,294	15,845
院外処方箋	4,690	4,770	4,845	4,693	4,426	4,639	4,417	4,596	4,682	4,625	4,504	5,106	55,993
院外発行率(%)	88.7	89.1	88.9	89.4	88.4	89.5	89.2	89.1	88.0	88.5	88.7	89.6	88.9

【調剤技術基本料】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入院件数	23	25	24	21	32	34	24	27	34	29	28	22	323
外来件数	201	163	175	173	167	145	157	174	207	201	196	162	2,121

【薬剤情報提供料】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
外来提供件数	248	219	216	228	208	183	194	205	252	237	223	188	2,601



【持参薬鑑別業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤鑑別 依頼人数	223	218	219	177	233	280	262	343	277	333	341	361	3,267
薬剤鑑別 依頼数	1,663	1,659	1,672	1,327	1,839	2,090	1,923	2,485	2,063	2,511	2,609	2,549	24,390

【調剤済薬剤支援業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調剤支援 実施人数	130	127	145	96	103	135	136	139	126	133	113	109	1,492

【無菌調剤業務】

《抗癌剤》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院調製 本数	283	283	291	212	307	221	258	205	204	324	227	254	3,069
外来調製 本数	309	328	374	354	390	321	300	318	326	319	322	362	4,023

《TPN 製剤》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院調製 本数	0	0	8	0	0	0	0	14	8	0	47	43	120

《その他製剤》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院調製 本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来調製 本数	7	8	7	6	8	9	8	7	10	8	9	10	97

【薬剤管理指導業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	447	392	428	400	282	416	456	496	481	519	514	599	5,430



【輸血用血液管理業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液取扱い本数	172	212	170	162	検査技術課に業務移管								716

【佐賀県血液センター委託業務】（唐津・東松浦地区医療圏緊急時血液配送事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配送件数	50	31	33	37	検査技術課に業務移管								151

3. 研究業績

【学会発表】

- 1) 持参薬鑑別報告書を利用した血糖降下薬適正使用の試み
中村 栄子
第59回日本糖尿病学会年次学術集会 2016.5.19 京都
- 2) 当院における終末期がん患者輸液療法の現状
坂本 亜佐子
第21回日本緩和医療学会学術大会 2016.6.17 京都
- 3) メトホルミン処方患者をeGFRと年齢分析からみた課題
中村 栄子
第5回日本くすりと糖尿病学会 2016.10.29 神戸

【研修会発表】

- 1) 熊本地震における災害救護活動～日赤救護班の活動（益城町）～
横田 智也
第4回佐賀県病院薬剤師会学術講演会 2016.6.18 唐津
- 2) 持参薬鑑別報告書を利用した血糖降下薬適正使用の試み
中村 栄子
第3回佐賀腎と薬剤研究会 2016.7.23 佐賀
- 3) 持参薬鑑別報告書を利用した血糖降下薬適正使用の試み
中村 栄子
第74回佐賀糖尿病内分泌懇話会 2016.9.9 佐賀
- 4) 当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化予防対策と現状
長橋 修平、中村 栄子
平成28年度日赤九州ブロック薬剤師研修会 2016.10.1 長崎
- 5) 新病院移転にまつわる話～移転準備から現在まで～
寺田 麻弥
第7回佐賀県病院薬剤師会学術講演会 2016.11.12 佐賀



- 6) チーム医療における薬剤師の役割
岩田 和弥
平成 28 年度佐賀県病院薬剤師会新採用薬剤師及び卒後教育研修会 2016.12.18 嬉野
- 7) バランス・スコアカードの導入後の現状分析
岩田 和弥
第 9 回佐賀県病院薬剤師会学術講演会 2017.2.4 唐津
- 8) メトホルミン処方患者を eGFR と年齢分析からみた課題
中村 栄子
第 46 回唐津糖尿病臨床カンファレンス 2017.2.20 神戸
- 9) 唐津赤十字病院での抗がん剤曝露対策
木下 智広
佐賀県病院薬剤師会第 6 回オンコロジー研修会 2017.3.4 佐賀
- 10) 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業～共有すべき事例～
岩田 和弥
唐松地区薬剤師研修会 2017.3.24 唐津

以上

4. この一年の歩み

この一年、下記の基本柱を念頭に病院薬剤師職能の充実に努めつつ、病棟薬剤業務の拡大に向けた業務転換の足掛かりを作る努力をしました。

- 1) 医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進
 - 2) 人材の育成・確保
 - 3) 病棟薬剤業務の拡大
- ① チーム医療の充実にに向けた取り組みに対し、専門の認定薬剤師取得とともに、チーム内における薬剤師存在意義の確立を求め、個人としての向上心を求めました。平成 28 年度は緩和薬物療法認定薬剤師 1 名の認定資格者が新たに誕生しました。現在、がん領域、緩和領域、糖尿病領域、栄養療法領域において認定薬剤師が活動しています。
- ② 近年、専門・認定薬剤師の取得・継続が喫緊の課題となっており、病棟薬剤業務を開始・継続するためにも薬剤師を途切れることなく配置できる体制を整える必要があります。薬剤師の確保への取り組みとしては、薬学部生奨学金制度を平成 24 年度から開始しています。平成 29 年 3 月 31 日現在、3 名の薬学部生に奨学金を付与しています。



- ③ 平成 28 年度の薬剤部には 2 名の認定実務実習指導薬剤師が在籍しました。薬学部 5 年生に対する長期実務実習（2.5 ヶ月）については、平成 28 年度は 11 名（1 期 4 名、2 期 6 名、3 期 1 名）の学生を受け入れ、実習指導を行いました。
- ④ 平成 28 年度は病棟薬剤業務拡大のために薬剤師 5 名を新規採用し、新病院移転後の平成 28 年 11 月より 8 病棟での薬剤師常駐制を開始しました。患者に安全かつ安心して薬物療法を受けてもらうために、入院中の服薬指導から退院時服薬指導まで、その内容の充実に努めてきました。退院時指導については、入院中の服用薬剤の確認並びに退院時処方との関連性について説明し、患者が居宅においても安心して薬物治療に臨めるように可能な限りの情報提供を行ってきました。今後は小児科病棟での薬剤師常駐を目指し、全病棟薬剤師常駐制へ向けて業務を展開していく予定です。

最後に、病院薬剤師は臨床薬剤師として他の医療スタッフから様々な期待をされています。その期待に応えるべく、個々のさらなる資質向上を目指していきたいと考えています。



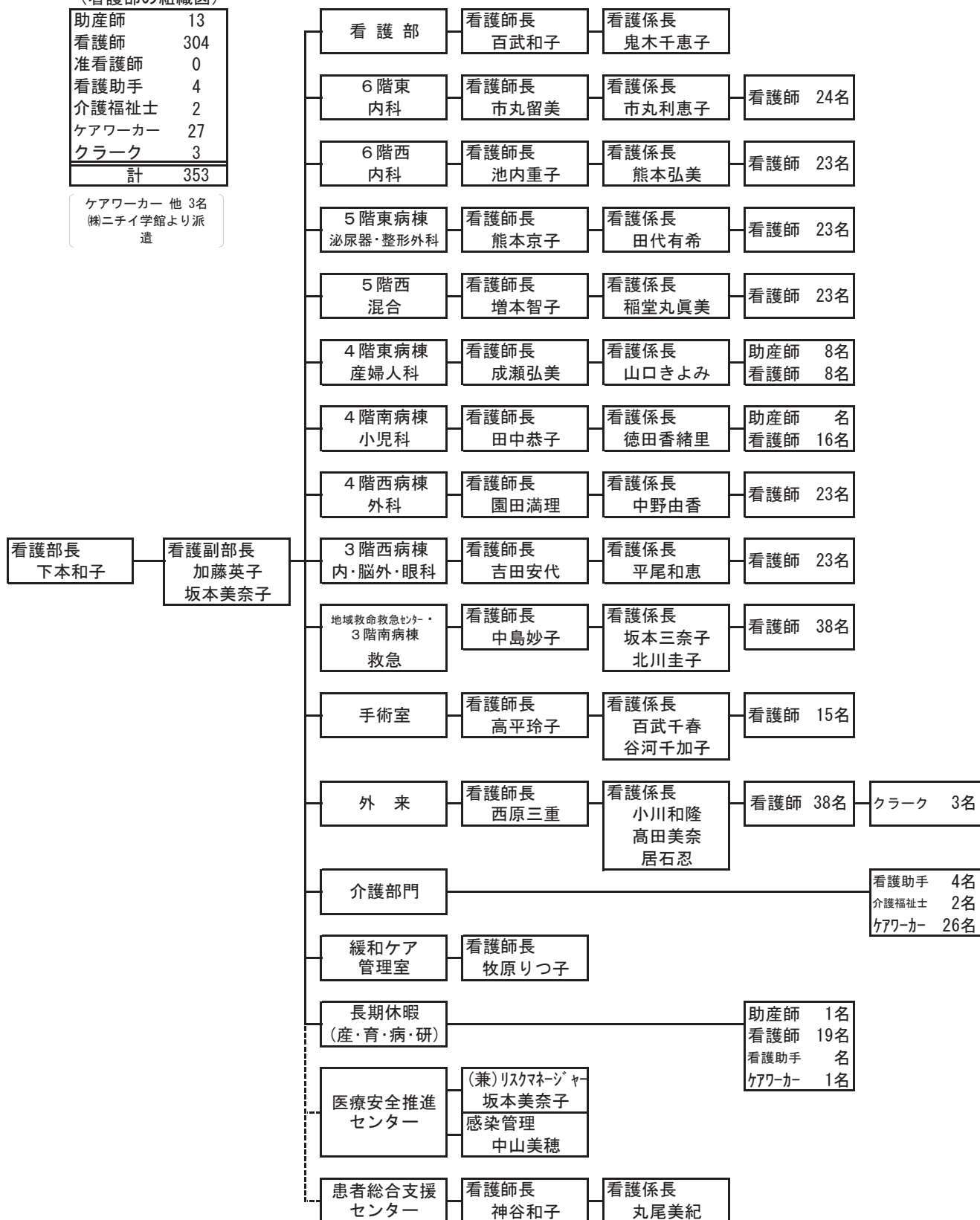
3. 看護部

1. スタッフ紹介（平成29年 3月 31日現在）

（看護部の組織図）

助産師	13
看護師	304
准看護師	0
看護助手	4
介護福祉士	2
ケアワーカー	27
クラーク	3
計	353

ケアワーカー 他 3名
 ㈱ニチイ学館より派遣





2. 研修業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

1) 院内看護部研修

No	日 時	テーマ・内容	講師・担当
1	4 月 8 日～4 月 28 日	新規採用者看護部オリエンテーション	看護部
2	4 月 11 日、4 月 12 日	新採用者看護技術研修	看護係長
3	4 月 25 日	第 1 回認定看護師研修会 「感染対策！おむつ交換時の手順を学ぼう」	西原三重
4	4 月 26 日	がん化学療法勉強会「抗がん剤投与時の曝露対策～看護師の立場から～」	古川悦子
5	5 月 9 日	フィジカルアセスメント研修説明会	看護部教育委員会
6	5 月 13 日	新採用者 1 ヶ月研修会	鬼木千恵子
7	5 月 25 日	第 1 回口腔機能管理プロジェクトチーム・認定看護師研修会共同開催企画 「実践！口腔ケア」～口の中をよく見てみよう～	岩崎里恵
8	6 月 3 日	看護倫理 I 研修会	看護部教育委員会
9	6 月 6 日	第 2 回認定看護師研修会 「感染対策！基本を学ぼう」	西原三重
10	6 月 8 日	新人支援スタッフ研修会 II	
11	6 月 13 日	看護研究研修会「研究計画書作成研修」	看護研究プロジェクト委員
12	6 月 15 日	コーチングと人材育成研修 I 「コーチングスキルを活用しよう」	看護部教育委員会
13	6 月 22 日	課題解決演習 「問題解決技法について」	看護部教育委員会
14	6 月 23 日	新任管理者研修会	池田事務部長
15	6 月 24 日	赤十字概論研修	佐賀県支部 事業推進課長 廣田聡
16	6 月 29 日	第 1 回看護部伝達研修会	看護部教育委員会
17	6 月 30 日	新採用者 3 ヶ月研修 「臨床研修のまとめ」	鬼木千恵子
18	7 月 4 日	第 2 回口腔機能管理プロジェクトチーム・認定看護師研修会共同開催企画 「実践！口腔ケア」～口の中をよく見てみよう～	岩崎里恵
19	7 月 8 日	人材育成に活かすコーチング研修	NPO 法人日本看護キャ



No	日 時	テーマ・内容	講師・担当
			リア開発センター 江藤節代先生
20	7 月 13 日	新採用者 4 ヶ月研修	鬼木千恵子
21	7 月 14 日	新任看護管理者 3 ヶ月フォロー	新任看護管理者プロジ ェクト委員
22	7 月 15 日	看護倫理Ⅱ研修	看護部教育委員会
23	9 月 2 日	新採用者 6 ヶ月研修 「ケーススタディに向け て」	看護部教育委員会
24	9 月 7 日	コーチングと人材育成研修Ⅱ	看護部教育委員会
25	9 月 14 日	急性期研修Ⅰ	看護部教育委員会
26	9 月 16 日～9 月 17 日	災害看護論研修	赤十字プロジェクト委 員
27	9 月 29 日	新採用者看護技術フォローアップ研修	看護係長
28	9 月 30 日	課題解決演習 中間フォロー研修①	看護部教育委員会
29	10 月 3 日	第 5 回認定看護師研修会	坂本三奈子
30	10 月 4 日	フィジカルアセスメント研修説明会	看護部教育委員会
31	10 月 5 日、7 日、 12 日、14 日、26 日、28 日	CV ポート抜針研修会	牧原りつ子、藤田直子、 古川悦子、佐藤真美
32	10 月 12 日	新採用者 7 ヶ月研修 《多重課題シミュレーション》	看護部教育委員会
33	10 月 13 日	新任看護管理者 6 ヶ月フォロー	新任看護管理者プロジ ェクト委員
34	10 月 15 日	看護診断NANDA-I 研修会	神奈川歯科大学短期大 学部看護科 准教授棚 橋泰之先生
35	10 月 17 日	エンゼルケア勉強会	緩和ケアリンクナース 委員
36	10 月 19 日	第 2 回看護部伝達研修会	看護部教育委員会
37	10 月 22 日	日本赤十字社こころのケア研修会	赤十字プロジェクト委 員
38	11 月 7 日	第 6 回認定看護師研修会「看護師だからでき る！！がん化学療法による皮膚障害の予防」	堀田悦子
39	11 月 9 日	看護倫理Ⅲ研修	看護部教育委員会



No	日 時	テーマ・内容	講師・担当
40	11 月 18 日	ケーススタディ中間報告会	看護部教育委員会
41	11 月 18 日～11 月 20 日	赤十字救急法研修	赤十字プロジェクト委員
42	11 月 25 日	コーチングと人材育成研修Ⅲ	看護部教育委員会
43	11 月 30 日	急性期看護研修Ⅰ・Ⅱまとめ研修	看護部教育委員会
44	12 月 5 日	第 7 回認定看護師研修会「人工呼吸器管理の基礎」～一般病棟での人工呼吸器管理・看護～	市丸利恵子
45	12 月 12 日	地域包括ケアシステムと診療報酬改定について	医事課 徳田課長
46	12 月 14 日	看護倫理Ⅳ研修	看護部教育委員会
47	12 月 16 日	課題解決演習 中間フォロー②研修	看護部教育委員会
48	12 月 19 日	新採用者 9 ヶ月研修 「看取りのケア」	鬼木千恵子、牧原りつ子
49	12 月 20 日	看護研究プロジェクト研修会 研究計画書発表会	看護研究プロジェクト委員
50	1 月 12 日	第 3 回看護部伝達研修会	看護部教育委員会
51	1 月 21 日	ケーススタディ発表会	看護部教育委員会
52	1 月 23 日	第 8 回認定看護師研修会 「患者さんと自分を守ろう」～感染を拡げないための嘔吐物処理～	中山美穂
53	1 月 27 日	看護研究発表会	看護研究プロジェクト委員
54	2 月 6 日	第 9 回認定看護師研修会 「知っていますか？糖尿病と足の関係」～糖尿病足病変予防のためにできること～	諸岡智子
55	2 月 8 日	「課題解決演習」実践報告会	看護部教育委員会
56	2 月 16 日	第 10 回認定看護師研修会 「がん放射線治療を受ける患者の看護～病棟で出来る看護ケア～」	佐藤真美
57	2 月 23 日	新任看護管理者 1 年目フォロー	新任看護管理者プロジェクト委員
58	3 月 15 日	新採用者 12 ヶ月研修	鬼木千恵子
59	3 月 23 日	新人支援スタッフ研修会Ⅰ	看護部教育委員会



2) 院外短期研修

No	月日	名称	参加者
1	4月10日	佐看協) 新しい診療報酬について~看護ケアに活かす~	12名
2	4月21日	「看護必要度を軸として診療報酬改定の対策」 [福岡]	2名
3	5月16日	佐看協) がんに関する基礎知識と看護	1名
4	5月19日	佐看協) 小児のフィジカルアセスメント	3名
5	5月26日	佐看協) 看護研究 I	1名
6	5月27日~5月29日	佐看協) 認定看護管理者制度ファーストレベル教育 課程	4名
7	5月28日	赤十字幼児安全法指導員研修会 [佐賀県支部]	3名
8	6月7日	佐看協) 新人のための心電図	2名
9	6月8日	佐看協) フィジカルアセスメント I	11名
10	6月10日~6月12日、 6月19日	佐看協) 認定看護管理者制度ファーストレベル教育 課程	4名
11	6月14日	佐看協) 小児の発達段階とコミュニケーション	2名
12	6月15日	佐看協) がん患者の疼痛コントロール	1名
13	6月21日	佐看協) 心電図 I ~基礎編~	2名
14	6月24日	「第14回創傷セミナー」講演会 [りふれ] 「地域で診る褥瘡創傷治療とケア」 小倉第一病院形成外科部長 石井義輝先生	2名
15	6月28日~6月29日	佐看協) 看護専門職としての育成を支援するコーチ ング研修会	1名
16	7月9日	第13回佐賀県感染管理ネットワーク研修会 [ま つら荘] 「みんなで考えようKYT~感染予知トレーニング」	2名
17	7月10日	佐看協) 口腔ケア研修会	1名
18	7月12日~7月13日	自衛消防業務新規講習 [福岡市民防災センター]	1名
19	7月13日	佐看協) 安全な与薬	1名



No	月日	名称	参加者
20	7月14日	佐看協) がん化学療法看護の基礎	1名
21	7月24日	重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修 [福岡九州ビル]	9名
22	8月17日	佐看協) フィジカルアセスメントⅡ	16名
23	8月24日	看護管理者研修「看護補助者の活用と成長支援研修会」 [アクロス福岡]	2名
24	8月25日	厚生労働省委託事業 パワハラ対策取組支援セミナー2016 [佐賀県教育会館]	2名
25	8月31日	2016年 感染対策セミナー [何近代ビル]	1名
26	9月2日～9月4日、 9月16～9月17日、 9月30日	佐看協) 認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	4名
27	9月5日～9月9日	赤十字医療施設九州ブロック中間管理者（看護師長）研修 [長崎原爆病院]	1名
28	9月7日	佐看協) フィジカルアセスメントⅢ	16名
29	9月9日～9月16日	熊本赤十字主催 ヨーロッパ視察研修（赤十字巡礼の旅）	2名
30	9月9日～9月11日、 9月25日～9月26日	佐看協) 認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程	2名
31	9月17日	第3回日本赤十字社医療対話推進者養成研修 [本社]	1名
32	9月27日～9月28日	佐看協) 佐賀県がん看護研修会	2名
33	9月30日～10月1日	がん化学療法医療チーム養成にかかる指導者研修 [国立がん研究センター築地キャンパス内]	1名
34	10月1日～10月2日	第4回佐賀県がんリハビリテーション研修会 [佐賀大学医学部附属病院]	1名
35	10月3日	佐看協) 「看護補助者の活用推進のための看護管理者研修」 ～ヘルスケア提供システムにおける連携強化を実現するために～	1名



No	月日	名称	参加者
36	10月7日	医療安全管理者研修会（集合研修）	5名
37	10月15日	実習施設担当者研修会　〔唐津看護専門学校〕	2名
38	10月19日、10月25日	佐看協）佐賀県がん看護研修会	2名
39	10月22日	手術部研修会　「皮膚統合性リスクへの手術看護」 〔済生会唐津〕	1名
40	10月26日	佐看協）人工呼吸器装着患者の看護	1名
41	10月28日～10月29日	九州ブロック「日本赤十字社医療安全推進担当者研修」 〔鹿児島赤十字会館〕	2名
42	11月5日	赤十字医療施設九州ブロック看護管理者研修会 「中堅看護師に必要なコミュニケーション能力」 (株)プランネットファイブ　田中和彦先生　〔JR博多シティ〕	12名
43	11月8日	赤十字医療施設看護部長会研修会　〔本社〕	1名
44	11月10日～11月11日、 11月17日	新人看護職員教育担当者研修会	1名
45	11月11日、11月30日	児童福祉関係職員専門研修会　〔佐賀県社会福祉士会〕	1名
46	11月11日	CART臨床研修会　〔要町病院腹水治療センター〕	1名
47	11月12日	新時代の看護マネジメント研修　〔福岡県看護協会〕 NPO 法人日本看護キャリア開発センター　下山節子 江藤節代 先生	2名
48	11月12日～11月13日、 11月19日～11月20日	佐看協）認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程	2名
49	11月15日	佐看協）佐賀県がん看護研修会	2名
50	11月18日	第2回日赤佐賀県支部管内施設合同広報研修会 2016〔佐賀県支部〕	2名
51	11月26日～11月27日	佐看協）看護共通研修会　「ELNEC－J研修会」	7名
52	11月26日～11月27日	リフレッシュ研修　〔志賀島〕	3名



No	月日	名称	参加者
53	12月2日	平成28年度県別会議・リーダー研修会 [ホテルニューオータニ佐賀]	1名
54	12月3日	新時代の看護マネジメント研修 [福岡県看護協会ナースプラザ研修室]	2名
55	12月4日	「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」 [九州がんセンター]	2名
56	12月10日	平成28年度佐賀県看護協会・看護連盟合同研修会～ 看護管理者セミナー～ 「管理者・教育者として知っておきたい法律の知識」 弁護士・看護師 友納理緒先生	6名
57	12月11日	「PFM導入による入退院支援の最適化」研修 [岡山]	2名
58	12月13日	「看護必要度ショック」完全対策セミナー Hファイル提出直前に抑えるべき要点 ～データ精度向上から病床戦略までの基本ステップ～ [沖縄]	2名
59	12月13日～12月14日	新人看護職員教育担当者研修会	1名
60	12月16日～12月17日	第3回日本赤十字社医療対話推進者養成研修 [本社]	1名
61	1月7日～1月8日	感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座 [東京]	1名
62	1月10日～1月11日	日本赤十字社認知症看護実践力向上研修会 [福岡赤十字]	14名
63	1月13日～1月15日	唐津小児救急センター研修	4南看護師
64	1月18日	原子力災害対応基礎研修会 [福岡県支部]	2名
65	1月21日～1月22日	佐看協) 認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程	2名
66	1月23日	佐看協) 乳がん患者の治療と看護	1名
67	1月28日	第3回九州HIV看護研修会 [大分県庁]	2名
68	2月3日～2月5日	唐津小児救急センター研修	4南看護師



No	月日	名称	参加者
69	2月7日～2月8日	インターネット配信研修「リアルタイム」 『認知症高齢者の看護実践に必要な知識』	9名
70	2月9日	看護管理者研修会 [本社]	1名
71	2月11日	地域緩和ケア連携調整員研修会 [国立がん研究センター築地キャンパス内]	1名
72	2月18日	佐賀県看護連盟唐津支部研修会 [虹ノ松原ホテル]	15名
73	2月25日	佐看協) 北部地区研修会 [相知交流文化センター]	8名
74	3月2日～3月4日	第28回九州ストーリーマリハビリテーション講習会 [福岡大学セミナーハウス]	1名
75	3月3日	佐賀県災害医療従事者研修	2名
76	3月21日	性暴力被害者支援事業に付随する研修会 [好生館]	1名

3) 院外長期研修

No	期間	名 称	氏 名
1	平成28年5月27日～ 12月16日	佐看協) 認定看護管理者教育課程ファーストレベル	田代有希 平尾和恵 中尾理恵子 浦津千秋
2	平成28年7月8日～平成 29年1月22日	佐看協) 認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程	百武和子 坂本三奈子

4) 学会

No	期間	名 称	氏 名
1	4月29日	第13回日本褥瘡学会 九州・沖縄地方会学術集会 [佐賀市文化会館]	百武和子
2	6月11日	第20回佐賀母性衛生学会学術集会 [佐賀県医師会成人病予防センター]	田中恭子(座長)
3	6月16日、 6月17日～6月18 日	第21回日本緩和医療学会教育セミナー 第21回日本緩和医療学会学術大会 [国立京都国際会館]	牧原りつ子
4	9月16日～9月17 日	日本医療マネジメント学会 第15回九州・山口連合大会 [佐賀市文化会館]	鬼木千恵子・岩 崎里恵(発表)



No	期間	名 称	氏 名
			者)、加藤英子
5	9月18日～9月19日	第21回日本糖尿病教育・看護学会 [山梨]	諸岡智子
6	9月27日～9月28日	第47回日本看護学会・看護管理・学術集会 [金沢]	下本和子
7	10月14日～10月15日	第54回日本糖尿病学会 九州地方会 [かごしま県民交流センター]	諸岡智子
8	10月20日～10月21日	第52回日本赤十字社医学会総会 [栃木県総合文化センター]	百武和子、居石忍、 山口尚栄
9	10月20日～10月21日	第54回日本癌治療学会学術集会 [パシフィコ横浜]	堀田悦子
10	10月20日～10月22日	第54回日本癌治療学会学術集会 [パシフィコ横浜]	藤田直子
11	10月29日	第5回日本下肢救済・足病学会九州・沖縄地方会学術集会 [J R九州ホール]	吉田のぞみ (コメンテーター)
12	11月26日	第13回日本感染管理ネットワーク九州沖縄支部総会・地方会 [福岡]	西原三重、中山美穂
13	2月4日～2月5日	第31回日本がん看護学会学術集会 「がん看護の跳躍する力」～未知なる世界の探求～ [高知]	藤田直子、佐藤真美
14	3月12日	第35回佐賀県看護研究学会 [ゆめプラット小城]	成瀬弘美 (座長)、森路恵 (発表者)、中島愛 (役員)、下本和子、加藤英子、坂本美奈子、鬼木千恵子、中山美穂、田中恭子、中島妙子、西原三重、市丸利恵子、百武千春、堀川和也、中畠和美、進藤聡子、増本芳



No	期間	名 称	氏 名
			美、中山正重、高 藏紳、大川内李 佳、田崎里枝
15	2 月 23～2 月 24 日	第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 [岡山シンフ ォニーホール他]	岩崎里恵
16	3 月 24 日	第 15 回日本フットケア学会年次学術集会ランチョンセ ミナー [岡山コンベンションセンター]	吉田のぞみ（講 師）

5) 救護班要員研修

No	期間	名 称	氏 名
1	10 月 1 日～10 月 2 日	日本赤十字社佐賀県支部救護班研 修会 [波戸岬少年自然の家]	
2	10 月 27 日～10 月 29 日	災害派遣医療チーム（DMAT）研 修 [兵庫]	
3	1 月 21 日～1 月 23 日	第 4 回全国赤十字救護班研修会 [本社]	
4	2 月 4 日～2 月 5 日	第 3 回九州・沖縄ブロック DMAT 技能維持研修 [宮崎大学]	

6) 訓練

No	期間	名 称	氏 名
1	10 月 10 日	佐賀県原子力防災訓練 [敷地内]	田代有希、居石忍、青木傑

7) 救護員派遣

No	派遣日時	救護名（派遣名）	派 遣 場 所	氏 名
1	4 月 3 日	さが桜マラソン 2016	佐賀市	古賀征樹、 鳥羽貢祐
2	4 月 15 日～4 月 16 日	平成 28 年熊本地震	熊本県	市丸利恵子、小 川和隆（DMA T） 徳田香緒里、山 口尚栄、 木下紗希



No	派遣日時	救護名（派遣名）	派遣場所	氏名
3	4月16日～4月18日	平成28年熊本地震	熊本県	市丸留美（DMAT） 居石忍、平尾和恵、江島沙織
4	4月20～4月23日	平成28年熊本地震	熊本県	百武和子、片波賀代、西方三帆
5	4月29日	有田陶器市	有田町	木下紗希
6	5月5日～5月8日	平成28年熊本地震	熊本県	田代有希、百武千春、鳥羽貢祐
7	5月7日～5月12日	平成28年熊本地震（病院支援①）	熊本赤十字病院	中尾理恵子、岡本智史
8	5月23日～6月5日	平成28年熊本地震（病院支援②）	熊本赤十字病院	富田学
9	5月27日～5月30日	平成28年熊本地震	熊本県	丸尾美紀、濱本優美、藤原紫乃
10	7月17日	第64回九州花火大会	西の浜	松尾綾子、山下千景
11	9月4日	第69回松浦地区青年相撲大会	唐津市体育の森公園相撲場	
12	2月5日	東西松浦駅伝大会	有田町	古賀大樹
13	2月12日	第57回唐津10マイルロードレース大会	唐津市	打越有希
14	3月19日	さが桜マラソン2017	佐賀市	宮崎厚子、柿山友希
15	3月26日	第29回虹の松原カップ西日本選抜小学生クラブ駅伝競走大会	唐津市	楠田明希

8) 講師派遣

No	派遣日時	救護名（派遣名）	氏名
1	6月4日	佐賀県ストーリーメイクセミナー [佐賀市市民活動プラザ]	百武和子
2	6月14日	唐津地区 心房細動治療講演会 [唐津シーサイドホテル] 「唐津赤十字病院における循環器疾患診療の現状」	丸尾美紀



No	派遣日時	救護名（派遣名）	氏 名
3	6 月 19 日	佐賀糖尿病療養指導士認定研修会 [佐賀大学医学部]	諸岡智子
4	7 月 7 日	いのちの教育 [佐志中学校]	松本利久子
5	7 月 11 日	いのちの教育 [西唐津中学校]	松本利久子
6	7 月 23 日	平成 28 年度フルオープンキャンパス卒業生講話 [緑生館]	諸隈静
7	9 月 27 日	唐津看護専門学校講義 「成人看護学方法論Ⅱ」	諸岡智子
8	10 月 4 日	唐津看護専門学校講義 「成人看護学方法論Ⅱ」	坂本三奈子
9	10 月 25 日	唐津看護専門学校講義 「看護マネジメント」	下本和子
10	11 月 1 日、11 月 24 日	唐津看護専門学校講義 「看護マネジメント」	下本和子
11	11 月 10 日	新人看護職員等集合研修事業教育担当者研修会	坂本美奈子
12	11 月 10 日、11 月 17 日	唐津看護専門学校講義 「成人看護学方法論Ⅰ」	百武和子
13	11 月 18 日、11 月 25 日	アカデミー看護専門学校講義	中島妙子
14	11 月 22 日	いのちの教育 [海青中学校]	田中恭子
15	11 月 25 日	佐賀県看護協会研修会	坂本三奈子
16	11 月 26 日～11 月 27 日	佐看協）看護共通研修会 「ELNEC-J 研修会」	牧原りつ子
17	11 月 27 日	ノバライフ1フィットセミナー i n 唐津 [唐津市高齢者ふれあい会館]	百武和子
18	11 月 29 日	いのちの教育 [七山小中学校]	山口きよみ
19	12 月 2 日	アカデミー看護専門学校講義	中島妙子
20	12 月 15 日	いのちの教育 [肥前中学校]	山口きよみ
21	12 月 15 日	いのちの教育 [玄海中学校]	山口きよみ
22	12 月 18 日	コメディカルのための外来糖尿病セミナー [りふれ]	吉田安代
23	1 月 14 日	平成 29 年度認定看護師教育課程「感染管理」説明会 [国際医療福祉大学 福岡キャンパス]	中山美穂
24	2 月 24 日	在宅介護施設スキンケア研修会 [済生会唐津]	百武和子
25	3 月 12 日	平成 28 年度オストメイトサロン [りふれ]	百武和子



9) 院外活動

No	日 時	名 称	氏 名
1	5 月 15 日	マイナビ合同就職説明会 [福岡国際センター]	下本、釘本
2	5 月 27 日	全国赤十字医療施設就職説明会 [日本赤十字看護大学]	坂本美奈子
3	6 月 21 日	第 1 回唐津地区自殺対策実務者検討会 [唐津総合庁舎]	中島妙子
4	9 月 4 日	CT Symposium 2016 in West Japan 感染症治療の未来に向けて～「新規抗菌薬の開発に向けた 8 学会の提言」を受けて～ [ホテル日航福岡]	中山 美穂
5	11 月 21 日～11 月 22 日	全国赤十字医療施設経営改善推進研修会 [本社]	神谷和子
6	11 月 23 日	第 8 回九州ブロック赤十字医療施設専門・認定看護師会 [長崎原爆病院]	百武和子、西原三重、 牧原りつ子、藤田直子、堀田悦子、坂本聡、 中山美穂、佐藤真美
7	1 月 13 日	赤十字医療施設九州ブロックキャリア開発ラダー推進者連絡会議 [大分赤十字]	田中恭子
8	2 月 17 日	赤十字病院合同キャリア相談会 [九州国際看護大学]	鬼木千恵子、高木杏
9	3 月 3 日	佐賀県災害医療従事者研修	市丸留美
10	3 月 13 日	ナース専科 就職ナビ 合同就職説明会 [マリンメッセ福岡]	加藤英子、古賀愛美
11	3 月 22 日	マイナビ看護学生就職セミナー [マリンメッセ福岡]	坂本美奈子、田代萌

10) その他

No	日 時	名 称
1	4 月 15 日	看護学生インターンシップ 参加：4 名
2	4 月 28 日	看護学生インターンシップ 参加：7 名
3	6 月 10 日	看護学生インターンシップ 参加：5 名



No	日 時	名 称
4	6 月 11 日	看護学生病院見学・説明会 参加：2 名
5	6 月 21 日～6 月 28 日	九州国際看護大学統合実習 (12 名)
6	6 月 23 日	看護学生病院見学・説明会 参加：1 名
7	7 月 2 日 7 月 16 日	新病院移転シミュレーション (運用リハーサル・患者移送練習)
8	7 月 6 日	平成 29 年度看護師採用試験 (推薦)
9	7 月 13 日	平成 29 年度看護師採用試験
10	8 月 1 日	新病院移転
11	8 月 19 日	看護学生病院見学 (唐津・伊万里)
12	8 月 23 日	ふれあい看護体験 参加：高校生 13 名
13	8 月 31 日	病院見学・説明会 参加：2 名
14	9 月 6 日	病院見学・説明会 参加：1 名
15	9 月 12 日～9 月 16 日	赤十字医療施設九州ブロック中間管理者（看護師長）研修受け入れ [福岡、長崎原爆、大分、沖縄より]
16	10 月 12 日	ケアワーカー採用試験
17	10 月 22 日	平成 29 年度看護師採用試験 (二次)
18	11 月 22 日	九州国際看護大学奨学生選考試験 [佐賀県支部]
19	11 月 25 日	看護学生病院見学・説明会 参加：1 名
20	3 月 15 日	葛飾赤十字産院より施設見学
21	3 月 23 日	看護学生病院見学・説明会 参加：1 名

3. この 1 年の歩み

今年も病院 BSC に基づき看護部の BSC を作成し各部署で活動した。

今年度 4 月、熊本地震が発生し救護班 5 班 DMAT2 班、熊本赤十字病院支援に計 21 名の看護師を派遣し救護活動や病院支援を行った。

平成 28 年 8 月の新病院移転に向け移送シミュレーションを重ね、引っ越し当日は、無事に全入院患者の移送が行われた。また、新病院では病棟再編成、外来ブロック制となり同



時に電子カルテ、PNS 導入、一部病棟を除き 2 交代夜勤の導入を行った。同時期の導入で一時は混乱した様子があったが徐々に軌道に乗り落ち着きを取り戻した。

また、昨年に引き続き CRE 対策に取り組んだ。新病院に移転し環境が整い新規発生はなかったが、今後も標準予防策の徹底を継続していく。



4. 医療技術部門

栄養課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

栄養課長（兼係長）	池田 敦子
管理栄養士	高崎 桂子
管理栄養士	近藤 まゆ子
管理栄養士	伊東 優
調理師	井上 正彦
調理師	北村 一政
調理師	三好 滋人
LEOC 委託 30 名	調理責任者 1 名、管理栄養士 1 名、栄養士 3 名、調理師 4 名 調理員 12 名、食器洗浄員 9 名

2. 臨床業績（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日）

栄養指導件数	339 件（入院患者 211 件 外来患者 128 件）
病棟訪問	390 名
栄養管理委員会	合計 2 回開催

3. 研究業績（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日）

【研修会等】

2016.5	福岡県栄養士会研修会 第 50 回日本糖尿病学会・年次学術集会
2016.6	佐賀県栄養士会総会・講演会 佐賀県栄養士会・唐津支部研修会
2016.7	佐賀県栄養士会・生涯教育
2016.8	福岡県栄養士会・生涯教育 日本栄養士会・委託事業講習会
2016.9	佐賀県栄養士会・生涯教育 福岡県栄養士会・生涯教育
2016.10	佐賀県栄養士会・生涯教育
2016.11	佐賀県栄養士会・生涯教育 訪問栄養ケア事業・スキルアップ研修会
2016.12	日本栄養士会・委託事業講習会



- 2017.1 日赤栄養士会・九州ブロック会議、研修会
 訪問栄養ケア事業・スキルアップ研修会
 佐賀 NST 研究会
- 2017.2 医療従事者研修会
 唐津糖尿病臨床カンファレンス

4. この1年の歩み

献立では LEOC の調理責任者及び栄養士と毎月 1 回、献立ミーティングを継続して開催し改善を行ってきました。

衛生管理では 1 分間手洗い実施及びテスト、手洗いに関する勉強会を昼のミーティング時に実施しました。

栄養指導では勉強会を開催し、新規に指導用パンフレットを作成しました。

BSC の 28 年度目標にも上げていました入院・外来の個別栄養指導件数は目標値までには到達しませんでした、27 年度と比べ 10%増加しました。診療報酬改定により栄養指導枠にがん、低栄養、嚥下障害が増え、栄養指導算定料も大幅に増加しました。指導拡充のお知らせとお願いを行い BSC 目標件数より伸びました。また、研修会等への参加を増やしスキルアップに繋げるようにしました。電子カルテ導入により、食事に関しての情報が他職種と共有でき食事相談件数も増加しました。約束食事箋は 8 月に改正し、化学療法や放射線療法等の治療に伴う食欲低下に配慮した、みのり食・なごみ食等も新設しました。平成 29 年 2 月 21 日～22 日に入院中の患者（115 名）にベッドサイドにて聞き取りのアンケート調査を実施しました。新病院からの温冷配膳車導入により適温での提供が前回より出来ている結果となりました。栄養管理委員会では食材フェア、アンケート調査、新規採用食器について報告しました。

臨床工学技術課

1. スタッフ紹介(平成 29 年 3 月 31 日現在)

課長 加勢田 達矢
係長 小池 昭男
臨床工学技士 藤岡 涼
臨床工学技士 井上 悦宏
臨床工学技士 牧 佑樹

【認定および資格取得】

- ・MDIC 認定士 5 名
- ・第 2 種 ME 技術者 3 名



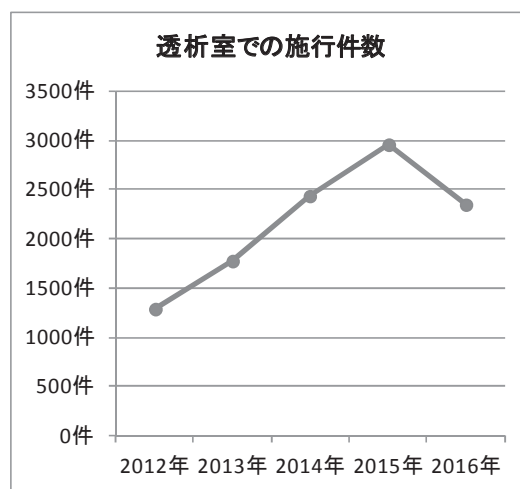
2. 透析室業務実績

透析勤務 人員配置 2 名〔 時間外休祭日は、1 名 呼出待機体制 〕
ベッド数 10 台〔 患者監視装置 9 台，個人用透析装置 1 台，CHDF 装置 1 台〕

透析件数の減少は、新築移転における患者制限と、外来透析がなくなったことによると考えられる。透析以外の緊急治療件数については、新築移転における患者制限があったにもかかわらず、30 件ほど増加した。特に、施行中、臨床工学技士が 1 名張り付くこととなる、PCPS・GCAP・腹水濾過濃縮再静注法などのマンパワーを必要とする業務の増加がみられる。このような治療が行われる場合は、ME センター担当者の応援にて対応している。

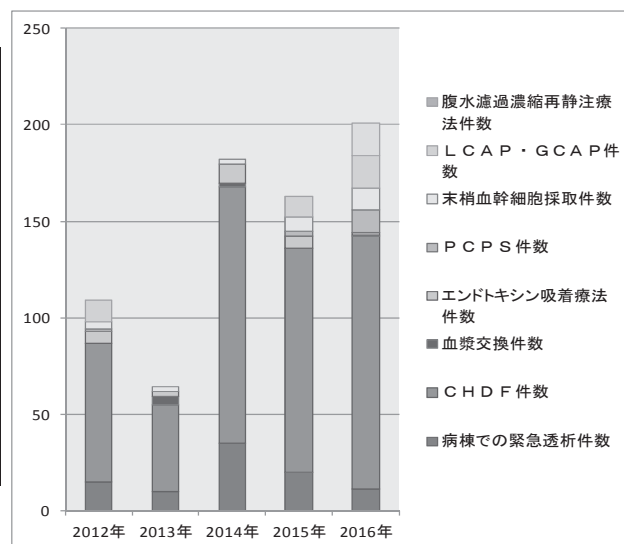
【透析件数】

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
透析室での施行件数	1287件	1777件	2432件	2951件	2350件



【透析以外の緊急治療件数】

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
病棟での緊急透析件数	15	10	35	20	11
CHDF 件数	72	45	133	116	131
血漿交換件数	0	4	2	0	1
エンドトキシン吸着療法件数	6	3	10	6	1
PCPS 件数	1	0	0	3	12
末梢血幹細胞採取件数	4	2	2	7	11
LCAP・GCAP 件数	11	0	0	11	17
腹水濾過濃縮再静注療法件数	0	0	0	0	17
総件数	109	64	182	171	201





3. ME センター業務実績

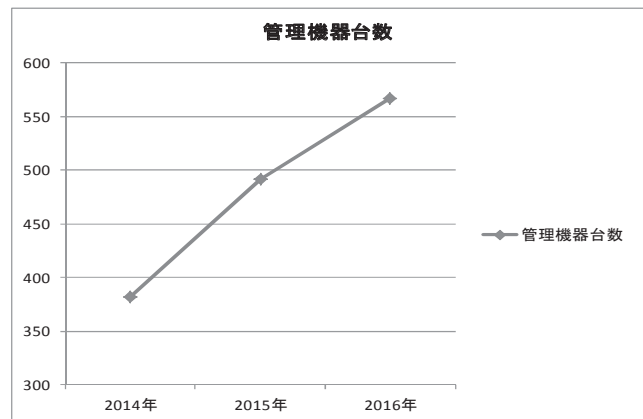
ME センター勤務人員配置 3 名 業務内容

(1)管理機器数 : 下記ME 機器の保守点検業務を行っている。

全体の管理機器総数は、平成 29 年 3 月 31 日現在にて前年度の 76 台増加し 567 台となっている。
機器の内訳は下記のとおりである。

【管理機器台数】

装置名	2014年	2015年	2016年
輸液ポンプ	58	66	88
シリンジポンプ	56	56	57
PCA機能付き小型シリンジポンプ	3	5	5
経腸栄養ポンプ	21	26	26
低圧持続吸引器	14	14	13
人工呼吸器	8	14	14
深部静脈血栓症予防装置	0	0	15
バック・バルブ・マスク	0	77	78
COM TEC	1	1	1
体温管理装置関連	1	1	1
透析関連機器	21	21	17
除細動装置	8	8	8
A E D	1	9	12
P C P S 関連機器	5	5	5
分娩監視装置	0	4	4
保育器	0	0	5
セントラルモニター	3	3	3
ベッドサイドコンソール	61	63	63
送信機	70	67	63
輸血・輸液加温システム	1	1	2
IVガートル台	50	50	87
計	382	491	567



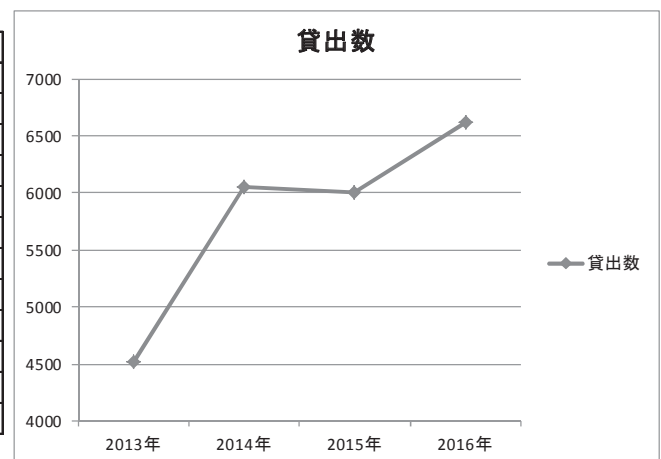
(2)中央管理機器の貸出状況

貸し出し件数は、前年度より 607 件増加の 6612 件となっている。

管理機器の種類と台数の増加に伴い、保守点検件数も 1636 件増加し、11577 件と右肩上がりになっており、現在これに 3 名で対応している。

【機器別貸出件数】

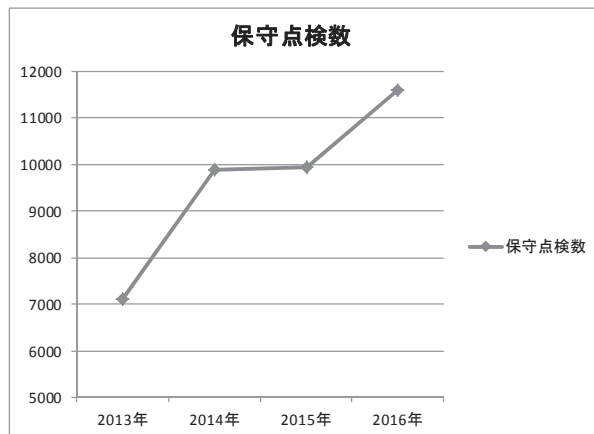
	2013年	2014年	2015年	2016年
輸液ポンプ	2142	2848	2853	3251
PCA小型シリンジポンプ	48	61	64	86
シリンジポンプ	1916	2213	2155	2044
経腸栄養ポンプ	274	294	284	301
低圧持続吸引器	139	175	217	204
バック バルブ マスク	0	455	432	495
人工呼吸器	0	0	0	179
血栓予防装置	0	0	0	317
セントラルモニター	0	0	0	35
ベッドサイドモニター	0	0	0	101
送信機	0	0	0	130
合計	4519	6046	6005	6612





【保守点検件数】

	2013年	2014年	2015年	2016年
輸液ポンプ	2152	2987	2852	3373
シリンジポンプ	1962	2358	2062	2112
PCA小型シリンジポンプ	47	68	74	113
経腸栄養ポンプ	283	339	277	321
低圧持続吸引器	182	227	242	246
人工呼吸器	214	214	247	283
深部静脈血栓症予防装置	0	1	6	336
バック パルプ マスク	0	455	398	465
COMTEC	6	6	12	17
体温管理システム	2	5	8	7
JUN-55X	0	0	11	13
除細動器	41	61	87	96
AED	0	70	114	124
PCPS	10	19	24	28
分娩監視装置	0	0	36	52
保育器	0	0	0	0
生体モニター	39	71	627	604
輸血・輸液加温システム	9	11	12	14
IVガートル台	2152	2987	2852	3373
計	7099	9879	9941	11577



4. 1 年の歩み

- 2016/06/05 佐賀県臨床工学技士会 (井上悦宏・牧佑樹)
- 2016/07/02 医療機器安全管理講習会 (藤岡涼・井上悦宏・牧佑樹)
- 2016/07/08～09 自衛消防業務新規講習会 (井上悦宏)
- 2016/07/14 第 80 回佐賀県人工透析懇話会 (井上悦宏)
- 2016/09/24～25 MDIC 認定セミナー (井上悦宏・牧佑樹)
- 2016/10/01～02 第 11 回九州臨床工学会 (牧佑樹)
- 2016/10/15 CHDF cafe (井上悦宏)
- 2016/10/22 九州 CHDF 技術検討会 (藤岡涼・井上悦宏)
- 2016/10/28～29 平成 28 年度九州ブロック日本赤十字社 医療安全推進担当者研修 (加勢田達矢)
- 2016/10/29～30 MDIC 認定セミナー (井上悦宏・牧佑樹)
- 2016/11/05～06 日本赤十字社臨床工学技士会九州・沖縄ブロック研修会 in 大分
(小池昭雄・藤岡涼・井上悦宏・牧佑樹)
- 2016/11/10～1 陰圧式腹水濾過濃縮再静注法 (KM-CART) 臨床研修 (藤岡涼)
- 2016/11/26 呼吸器セミナー in 鳥栖 (藤岡涼・井上悦宏・牧佑樹)
- 2016/11/26～27 DCS-100NX 保守点検講習会 (小池昭男)
- 2016/12/09 メラサキューム保守点検講習会 (牧佑樹)
- 2016/12/11 第 49 回九州人工透析研究会総会 (牧佑樹)

※その他、技士会・メーカー主催の講習・研修・勉強会等に参加

上記のようなセミナー講習会等に参加しながら、保守点検技術の習得・臨床工学技士としてのスキルアップを行うとともに、業務拡大の準備を行ってきた。透析室業務も ME センター業務も資料のとおり、業務繁忙となっているが、臨床工学技術課関与の加算の取得および算定を実現しつつ、更なる医療安全に寄与していきたいと考える。



検査技術課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 現在）

医療技術部長	仙波 英之				
医療技術部技師長	木下 政憲				
臨床検査技師					
課長	永石 信二				
係長	尾形 正也	川内 保彦	成村 和子		
技師	増本 和隆	井手 理恵	寺田 克也	鬼木 孝弘	
	宮原 美幸	井上 慎介	峯 悠太郎	高田 知佳	
	轟田 有紗	鶴田 志穂	徳田 英理子	吉田 萌子	
	横尾 亜矢子				

【認定および資格取得一覧】

氏 名	認 定 お よ び 取 得 資 格
永石 信二	国際・国内細胞学会認定細胞検査士 日本超音波医学会認定 超音波検査士（循環器） 消化器内視鏡学会認定内視鏡技師 特定化学物質作業主任者
尾形 正也	国内細胞学会認定細胞検査士 日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表） 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師 特定化学物質作業主任者 2 級臨床検査士（病理学）
川内 保彦	日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表） 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師 微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT） 2 級臨床検査士（血液学）
成村 和子	日本超音波医学会認定 超音波検査士（循環器、体表、血管、健診）
増本 和隆	日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表臓器）
鬼木 孝弘	日本超音波医学会認定 超音波検査士（体表臓器） 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
宮原 美幸	心電図認定技師
井上 慎介	佐賀糖尿病療養指導士 国内細胞学会認定細胞検査士 日本糖尿病療養指導士



氏 名	認 定 お よ び 取 得 資 格
	微生物検査技師
	感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)
峯 悠太郎	日本超音波医学会認定 超音波検査士 (循環器、血管) 2 級臨床検査士 (呼吸生理学)
鶴田 有紗	国際・国内細胞学会認定細胞検査士 佐賀糖尿病療養指導士
高田 知佳	2 級臨床検査士 (病理学) 日本超音波医学会認定 超音波検査士 (消化器、体表臓器)
鶴田 志穂	2 級臨床検査士 (血液学)

2. 研究業績

1) 九州支部医学検査学会 (佐賀)

- ・演題：巨大な疣贅を合併した感染性心内膜炎の 1 例
○峯悠太郎 成村和子 徳田英理子 永石信二
- ・演題：当院で経験した重症熱性血小板症候群 (SFTS) の 1 例
○鶴田志穂 井手理恵 寺田克也 横尾亜矢子 木下政憲
- ・演題：エルシニア腸炎の一例と選択培地の応用
○徳田英理子 川内保彦 井上慎介

2) 赤十字九州ブロック臨床検査技師会

- ・演題：エルシニア腸炎の一例と選択培地の応用
○徳田英理子 川内保彦 井上慎介

3) 日本臨床細胞学会佐賀支部地方会

- ・演題：EUS-FNA が有用であった膵神経内分泌腫瘍の 1 例
○高田知佳 尾形正也 永石信二 明石道昭 宮原貢一 野田隆博

4) 佐賀県臨床検査技師会研修会

- ・当院における CRE の検査体制
○川内保彦

3. その他活動

- ・佐賀県臨床検査技師会理事 川内保彦
- ・佐賀県臨床細胞学会佐賀支部事務局 永石信二
- ・平成 29 年度九州細胞診研修会 準備委員会役員 尾形正也 永石信二



4. この一年の歩み

平成 28 年度は 8 月の新病院開院に向けて、移転の準備に追われたスタートとなった。

臨床検査システムは従来のシステムをシスメックス CNA へ移行し、輸血システムを新しく導入した。各部門システムの構築には富士通との仕様・連携について検討会を何度も行った。生化学、免疫、血液、一般の分析装置は一新され、血算、凝固はバックアップ機が整備された。7 月より機器の搬入設置・ランニングを行いルーチン検査はもとより、緊急検査への対応のため装置の取り扱いのトレーニングを行った。

輸血検査はシステム化に際して他の病院の視察を行い、システムにおける安全性、認証、管理の検討を重ねた。8 月より血液製剤管理を薬剤部から検査部へ移行し、製剤備蓄管理、院内・院外払い出し業務の輸血一元管理を開始した。システム化においては輸血マニュアルを作成し、院内の輸血検査の周知を図った。

病理検査は従来のシステムから新しく正晃の Web path システムに更新され、環境面においては特定化学物質の取り扱い環境基準の規制に伴い、陰圧環境や局所排気装置が整備された。また全自動染色封入装置やオートラベラー、真空パック臓器保存など最新の設備で、剖検室も同様に感染対策や医療安全対策を考慮した環境が整った。細菌検査はバイテックのシステムを移設し、感染制御システムを新しく導入した。移転時は CRE 対策で 7 月に監視培養を実施し感染対策の一役を担った。H29 年 2 月には CRE の終息宣言が出されたが、持ち込み症例もあるため、検査が中心となって今後も引き続き感染対策に努める事が重要である。

生理検査は画像システムが増設され、超音波検査のオーダーリングがスタートし、電子カルテで動画再生が可能となった。また、超音波検査のブースも増え 5 台の装置で検査が実施できるようになった。各部署ともに移転当初は不慣れな面から業務に支障をきたすこともあったが、3 ヶ月を経過した頃から落ち着きだし、分析装置の機能を活用できるようになり、結果報告までの時間短縮が可能となった。外注依頼していた項目の 5 項目を院内導入した事で結果報告までの時間が短縮でき、診断や治療に貢献できていると思われる。血液ガス検査のオーダーリングは 7 ヶ月遅れたが、H29 年 2 月スタートした。今後は更に問題点の改善に努め、検査結果に付加価値をつけ、検査の役割を高められるよう努力してきたいと思います。



放射線技術課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

医療技術部長	酒井 正			
医療技術部技師長	木下 政憲			
放射線技術課長	平田 一英			
同係長	坂井 征一郎、江口 教久			
放射線技師	牧原 靖司	千綿 直也	服部 重雄	江頭 紀史
	槇 康児	立川 圭彦	池田 健人	吉海 ひかる
	三浦 有貴	東 和樹	肱下 真子	
受 付	藤原 征司	中山 みのり		

2. 業務件数（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

業務数の推移（過去 5 年）

	MRI	CT	治療	血管造影	心カテ	マンモ	RI
25 年度	3,844	9,821	157	166	347	865	523
26 年度	4,253	10,852	148	157	372	925	552
27 年度	4,373	11,647	143	166	320	886	419
28 年度	4,646	11,534	70	144	272	863	375

※平成 28 年度は新病院移転に伴う件数の減少有

3. 認定関連

放射線治療専門放射線技師	1 名
磁気共鳴専門技術者	1 名
放射線治療品質管理士	1 名
医用画像情報管理士	1 名
検診マンモグラフィ撮影放射線技師	3 名
放射線取扱主任 1 種合格	3 名
放射線管理士	2 名
がん放射線療法認定看護師	1 名



4. この一年の歩み

新病院移転で慌ただしい1年であった。8月に移転したが放射線治療は半年遅れの1月からの運用となった。CT、MRIがそれぞれ2台体制になることから2名の技師を採用した。新病院に移転してからは、MRI、CT共に2台体制になったが、思ったほど患者数が伸びなかった。業務改善や対外的なアピールの推進が必要である。また、MRI、CTの検診、ドックを充実させるべく対策をしたが、その成果が徐々に表れてきている。またMRI専門技術者の認定技師およびがん放射線療法認定の看護師の取得者が誕生した。

平成28年度

月	日	研修名・【場所】・(派遣者)
4月	12日	放射線業務従事者の為の教育訓練講習会【福岡】(牧原)
	16日～18日	熊本地震DMAT2班救護出動(江頭)
	20日～23日	熊本地震救護(坂井)放射線技師として出動
5月	7日	第8回九州CT研究会【北九州】(坂井、池田)
	12日	オクトレオスキャン(核医学)勉強会【当院】放射線科医、技師
	19日～20日	RI in vivo講習会【千葉】(牧原)
	27日～30日	熊本地震救護出動(池田)
	30日	CMRS(第一三共)【唐津市民会館】(平田、坂井、千綿、立川、東、吉海、肱下)
6月	3日～4日	日本赤十字社放射線技師会学術総会【東京】(坂井)
	19日	佐賀県放射線技師会学術総会【佐賀市】(座長：平田、演者：坂井)
7月	6日～8日	CTトレーニングアカデミー【那須】(池田)
	16日	第1回CTC研究会【福岡市】(坂井、池田)
	21日～22日	MRIトレーニング【東京】(立川)
	21日～22日	被ばく医療アドバイザー会議【本社】(坂井)
8月	1日	新病院開院
9月	4日	わかばマークマンモ勉強会【長崎】
	9日	佐賀県原子力災害医療基礎研修【佐賀】(江口)
	24日～25日	九州ブロック放射線技師会学術研修会【大分】(平田、演者：坂井、東、肱下)
	10日～11日	原子力災害時の医療に関わる研修の講師養成講座(基礎)【本社】(坂井)
	27日～28日	原子力災害時の医療に関わる研修の講師養成講座(医療)【本社】



月	日	研修名・【場所】・(派遣者)
		(坂井)
11 月	18 日	3 施設合同広報研修会【佐賀】(坂井)
	14 日、30 日	VINCENT 勉強会【院内】
		TCT バリウム勉強会【院内】
	5 日～6 日	九州放射線医療技術大会【別府】(江口)
	25 日～26 日	放射線腫瘍学会【京都】(江口)
	19 日	医学物理士講習会【東京】(江口)
	26 日	日本赤十字原子力基礎研修会【大阪】(坂井)
	12 日～13 日	日本赤十字社被ばく医療アドバイザー会議【本社】(坂井)
12 月	17 日	CT テクノロジー【福岡】(池田)
H29.1 月	18 日	原子力防災研修会【福岡赤十字】(千綿)
	25 日	放射線技師採用試験
2 月	8 日	緊急被ばく医療に関わる講演会【唐津・ロイヤルホテル】(坂井、東、肱下)
	16 日	ホールボディーカウンタの取り扱いにおける学内研修【長大】(坂井、江頭)
		日本赤十字社放射線技師会災害医療支援部会【神戸赤十字】(坂井)



リハビリテーション技術課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部 長	仙波 英之				
課 長	麻生 昭秀				
係 長	小倉 智朗				
理学療法士	田港 智恵美	小峠 直之	安河内 祐太	川本 千聖	
	永石 隼也	松本 維也	伊藤 真也		
作業療法士	吉富 竜一	横山 拓也	田口 智彩		
言語聴覚士	湯地 真澄	藤野 結衣			
マッサージ師	姉川 勝正				

2. 臨床業績

総得点 13,764,662 点（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

前年度より 2,164,072 点増

年間件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	理学療法	作業療法	言語療法
脳血管疾患	394	339	323	282	222
廃用症候群	157	161	145	6	50
運動器疾患	605	596	510	109	
呼吸器疾患	125	160	160	1	
がん疾患	67	109	98	13	5
心大疾患	91	79	79	1	
摂食機能	15	46			46
計	1,454	1490	12,64	411	323

3. 資格

・ 専門理学療法士（運動器）	小峠 直之	PT
・ 認定理学療法士（脳卒中）	田港 智恵美	PT
・ 認定理学療法士（循環）	伊藤 真也	PT
・ 認定理学療法士（脳卒中）	伊藤 真也	PT
・ 3 学会合同呼吸療法認定士	伊藤 真也	PT
・ 血管診療技師	伊藤 真也	PT



4. 業績

- ・ 介護認定審査会委員 麻生 昭秀 PT
- ・ 地域包括推進リーダー取得 小倉 智朗 PT
- ・ 第8回日本下肢救済・足痛学会学術集会 2016.5.27-28
「日常生活動作時の胼胝形成部にかかる力学的負荷量の検討～糖尿病を併発する透析患者において～」
伊藤 真也 PT
- ・ 第24回佐賀県NST研究会
「脳卒中患者においてST介入し経口摂取へ移行した症例～臨床1年目のSTが経験した2症例～」
藤野 結衣 ST
- ・ 第14回日本神経理学療法学会学術集会 2016.11.26-27
「意識障害と重度左半側空間無視を伴った内頸動脈領域脳梗塞患者の考察」
田港 智恵美 PT
「右側頭・後頭部脳出血後に普通自動車運転が可能になった1症例」
田港 智恵美 PT

5. この1年のあゆみ

今年度は、新たに理学療法士、言語聴覚士の各1名ずつの増員があり、理学療法士9名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、マッサージ師1名、計15名で急性期リハビリテーションの提供を行ってきました。今年は増員に伴い、心大血管リハビリテーションにおいて施設基準をⅡからⅠへ変更し全ての疾患別基準でⅠを取得できました。

また内部疾患患者のリハビリ処方が増え、チームリハビリテーション医療の充実を開始しました。

今後もスタッフ一人一人が専門的な知識や技術を身につけられるよう日々精進し、チーム医療の一員としてより質の高い急性期のリハビリテーションを提供していきたいと思えます。



5.医療安全推進センター

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

医療安全推進センター長（副院長）	茨木 一夫（医療安全管理責任者・兼任）
医療安全管理者（看護副部長）	坂本美奈子（専従）

2. 委員会

医療安全管理委員会	毎月 1 回	各部長以上
医療安全専門小委員会	毎週 1 回	診療部、看護部、薬剤部、医療技術部 医療社会事業部、医療安全管理責任者 医療安全管理者
リスクマネジメント検討会	毎月 1 回	各部署リスクマネージャー
事例検討会	必要時	
医療事故調査委員会	必要時	

3. 活動実績

【委員会】

・医療安全管理委員会	計 12 回	開催
・医療安全専門小委員会	計 42 回	開催
・リスクマネジメント検討会	計 11 回	開催
・事例検討会	計 14 回（12 事例）	開催
・事故調査委員会	2 回開催	（1 事例）

【研修会開催】

月 日	研修内容	講 師	対象・参加人数
平成 28 年 4 月 5 日	・医療安全管理	坂本美奈子	新採用者 49 名
平成 28 年 4 月 8 日	・医療安全	坂本美奈子	新採用看護師 32 名
平成 28 年 4 月 20 日	・医療安全 ・医療安全推進担当者の役割 ・ヒューマンエラー ・医療事故とその対応、検視について	坂本美奈子	新役職者 7 名
平成 28 年 5 月 13 日	・医療安全 ・医療安全推進担当者の役割 ・ヒューマンエラー ・医療事故とその対応、検視について	坂本美奈子	平成 28 年度 リスクマネージャー 20 名
平成 28 年 6 月 8 日	・医療安全	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）9 名
平成 28 年 6 月 10 日	・事例分析方法について ・エラー対策の思考手順について	坂本美奈子	平成 28 年度 リスクマネージャー 17 名



平成 28 年 7 月 1 日	「みんなで慣れよう！AED」	吉武 邦将 市丸 留美 小川 和隆 池上 純子	今年度新規採用者・前年度中途採用者対象 58 名
平成 28 年 9 月 7 日	・医療安全	坂本美奈子	育休復帰者（看護師）6 名
平成 28 年 9 月 8 日	第 1 回医療安全管理研修会 講演「病院で生じる情報セキュリティリスクと医療安全管理」	九州大学病院メディカルインフォメーションセンター長 教授 中島直樹	全職員 361 名
平成 29 年 1 月 31 日	第 2 回医療安全管理研修会 講演「医療事故調査制度について考える～その意義と課題～」	日本赤十字社九州ブロック血液センター 所長 入田和男	全職員 259 名
平成 29 年 2 月 7 日	「医療安全概論」第 1・2 章（DVD） ・「私が考える組織の中の医療安全と、私がとるべき医療安全行動」についてレポート提出		医療安全管理研修会未受講者 23 名

【院外での研修受講】

月 日	会議・研修会名	出席者	場所
平成 28 年 7 月 2 日	医療機器安全基礎講習会	藤岡 涼 井上 悦宏 牧 佑樹	九州大学医学部 百年講堂
平成 28 年 7 月 12 日	苦情・クレーム・悪質クレーム対応研修会	柿木 伸也	損保ジャパン日本興和福岡ビル
平成 28 年 8 月 29 日	平成 28 年度医療安全管理者交流会	田中 恭子 坂本美奈子	佐賀県看護協会 看護センター
平成 28 年 9 月 17 日	第 3 回日本赤十字社医療対話推進者養成研修	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 28 年 10 月 28 日 ～29 日	平成 28 年度九州ブロック日本赤十字社医療安全推進担当者研修会	加勢田達矢 伊藤 良子 坂本美奈子	鹿児島赤十字 会館
平成 28 年 11 月 17 日	平成 28 年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ	入江富美夫 坂本美奈子	福岡国際会議場
平成 28 年 12 月 16 日 ～17 日	第 3 回日本赤十字社医療対話推進者養成研修会	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 29 年 2 月 24 日～ 25 日	日本赤十字社 平成 28 年度 e-ラーニングを活用した医療安全管理者研修、集合研修	坂本美奈子	日本赤十字本社



平成 29 年 3 月 8 日	医療事故調査制度トップセミナー	志田原 哲	福岡国際会議場
-----------------	-----------------	-------	---------

【院外への会議出席】

月 日	会議・研修会名	出席者	場所
平成 28 年 5 月～1 月 (5 回)	佐賀県看護協会 医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会 看護センター
平成 28 年 6 月 17 日	平成 28 年度第 1 回日本赤十字社九州ブロック医療安全管理者会議	坂本美奈子	福岡赤十字病院
平成 28 年 7 月 29 日	日本赤十字社平成 28 年度医療安全推進室長会議	茨木 一夫	日本赤十字本社
平成 28 年 9 月 29 日	平成 28 年度第 2 回日本赤十字社九州ブロック医療安全管理者会議	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 28 年 9 月 30 日	日本赤十字社平成 28 年度医療安全管理者会議	坂本美奈子	日本赤十字本社

4. この 1 年の歩み

今年度は新病院への移転、電子カルテ導入と当院にとって激動の 1 年であった。加えて、医療安全管理者の交代もあり、大きな転機となった年であった。

8 月の新病院への移転、同時に電子カルテ導入という 2 つの大きな課題に対し、全職員一丸となって取り組み、大きなアクシデントもなく遂行できた。電子カルテ導入後は、部門システムとの連携、システム運用と実務上の業務フローへの転換など、運用上の課題が明らかになり、その都度検討し改善に取り組んだ。しかし、業務フローの変更、検証など、マニュアル化が追いつかず、改善後の運用状況に問題がないことを確認しつつ、今後早急なマニュアル整備が必要となっている。当時、特に病理結果レポートの見忘れによる事故報道が重なり、当院でも電子カルテ導入後どのように防止するか早急な対応が必要であった。その対策として検査技術課の協力で、医師が病理レポート結果を開封しているか、追跡して確認する体制を再構築し、「病理レポート参照状況確認マニュアル」を作成していただいた。

また、業務環境の変化は、種々のインシデント・アクシデントを発生させることにも起因し、アクシデント数は全体の約 3 % を占め、前年度より増加した。平成 27 年 10 月より運用が始まった「医療事故調査制度」に関して、当院でも調査が必要な事例が発生し、外部委員を招いた院内医療事故調査委員会を開催し、調査・審議を継続している。患者・家族の立場で医療のリスクを考え、当院に求められる「安心な医療」を提供することの責任について真摯に受け止め、全職員で再発防止に取り組んでいる。

医療安全は、全ての病院職員に共通したキーワードである。患者の安全第一を念頭に、医療チームがその機能を最大限に発揮できるよう、今後も多職種、全職員で医療安全への取り組みを推進していく必要がある。

【平成 28 年度 インシデント・アクシデント報告】

・インシデント・アクシデント報告件数

報告内容項目	アクシデント	インシデント	合計
報告件数	25	819	844



・内容別報告件数

内容 項目	指示 伝達	薬剤 輸血	治療 処置	医療用具 チューブ類	検査	療養上 の世話	転倒 転落	給食 栄養	その他
件数	46	183	71	146	86	27	218	27	40

・職種別報告件数

職種	医師	看護師	薬剤師	臨床検査 技師	放射線 技師	栄養士 調理師	理学療法士 言語聴覚士	臨床工 学技士	事務	その他
件数	26	719	25	29	18	12	2	5	5	3

【平成 28 年度 「広めよう！深めよう！安全対策」】

	部 署	事 例
7 月	外来	シャント肢からの採血
8 月	救命救急センター	オザグレルの投与速度間違い
	薬剤部	自己血糖測定器具の種類間違い
9 月	5 階西	寝たきり患者の車いす移乗時の皮膚損傷
	栄養課	アレルギー患者の飲み物配膳ミス
10 月	リハビリテー ション技術課	他職種間の連携不足により低酸素状態となった事例
11 月	4 階西	内服薬を PTP シートのまま誤って飲んでしまった
12 月	6 階西	喀痰培養検査未提出
	4 階東	単位確認不足によるマグセント過少投与
	4 階南	点滴の過剰投与
1 月	6 階東	1 週間組カレンダーでの内服薬（血糖降下剤含め）与薬忘れ
	3 階西	リザーバーマスク酸素投与中患者のベッドからの転落
2 月	5 階東	インスリン種類間違い
	臨床工学技術課	GCAP プライミング時の抗凝固剤添加量不足
	放射線技術課	MRI 検査に伴うベッド移動時に起こった点滴ルートの抜去
	事務部	患者さんの二重登録
3 月	手術室	血液による眼球被爆の可能性



医療安全推進センター 感染管理

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

院内感染対策委員長（副院長） 茨木 一夫
 感染管理認定看護師（看護係長） 中山 美穂

感染対策チーム（ICT）

第 3 内科部長 宮原 正晴（兼） 小児科医師 阿部 淳（兼）
 薬剤課長 岩田 和弥（兼） 薬剤師 田渕 由梨（兼）
 臨床検査技師 川内 保彦（兼） 臨床検査技師 井上 慎介（兼）
 感染管理認定看護師 西原 三重（兼） 看護係長 熊本 弘美（兼）
 感染管理認定看護師 中山 美穂（専任）

2. 委員会

院内感染対策委員会 毎月 1 回
 臨時院内感染対策委員会 必要時

3. 活動実績

院内感染対策委員会 計 12 回開催
 臨時院内感染対策委員会 計 1 回開催
 ICT ラウンド 週 1 回 計 49 回開催
 CRE に係る外部評価委員会 計 2 回開催
 CRE に係る日本赤十字社本社支援 1 回訪問支援

【院内研修会】

月 日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 28 年 4 月 5 日	感染管理 「感染対策の基本」 感染症法の届出及び 当院における耐性菌の検出状況	感染管理認定看護師 西原 三重 臨床検査技師 川内 保彦	新規採用者 参加人数 40 名
平成 28 年 7 月 5 日	公開講演会 全職員で取り組む病院感染対策 ～増加する薬剤耐性菌に立ち向かう～	地方独立行政法人 佐賀県医療センター 好生館 感染制御部部長 福岡 麻美 先生	医療従事者 参加人数 387 名
平成 28 年 9 月 30 日	公開講演会 楽しく学べる感染対策の重要ポイント ～CDC ガイドライン解説も含めて～	浜松医療センター 副院長兼感染症内科長 矢野 邦夫 先生	医療従事者 参加人数 356 名 (追加研修含む)



平成 29 年 1 月 23 日	認定看護師会研修会 患者さんと自分を守ろう！ ～感染を広げないための嘔吐物処理～	感染管理認定看護師 中山 美穂	医療従事者 参加人数 75 名
---------------------	--	--------------------	--------------------

【看護部対象の研修会】

月日	テーマ	対象、参加人数
平成 28 年 4 月 8 日	感染管理 感染対策の基本	看護部新規採用者 参加人数 32 名
平成 28 年 4 月・6 月	標準予防策 感染対策の基本を学ぼう	看護師・ケアワーカー 参加人数 61 名(2 回合計)
平成 28 年 5 月 6 日	感染対策の基本 リンクナースとしての役割	リンクナース 参加人数 12 名
平成 28 年 6 月～適宜開催	感染管理 感染対策の基本	看護部中途採用者 参加人数 20 名(4 回実施)
平成 28 年 6 月 23 日	できていますか?正しい手指衛生	係長会 参加人数 17 名
平成 28 年 10 月 19 日	第 2 回 看護部門伝達研修会 感染管理認定看護師(CNIC)への道	看護部 参加人数 40 名

【部門別研修会】

月日	テーマ	対象、参加人数
平成 28 年 10 月 28 日	患者さんと自分を守るために できていますか?正しい手指衛生	検査課 参加人数 13 名
平成 28 年 11 月 11 日	患者さんと自分を守るために できていますか?正しい手指衛生	看護補助者 参加人数 24 名
平成 29 年 1 月 13 日	患者さんと自分を守るために 正しく手指衛生できていますか	教育センター 参加人数 12 名
平成 29 年 3 月 29 日	患者さんと自分を守るために 正しく手指衛生できていますか	薬剤課 参加人数 15 名

【院内感染防止対策会議】 ～5 病院合同開催～

月 日	会議の内容	開催場所
平成 28 年 5 月 18 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 CRE 感受性検査について ジカウイルス感染症に関する情報提供 大規模自然災害の被災地における感染制御マネジメントの手引き	唐津赤十字病院



月 日	会議の内容	開催場所
平成 28 年 7 月 5 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 CRE 経過と対応について ビブリオ・バルニフィカスについて	唐津赤十字病院
平成 28 年 11 月 21 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 CRE 経過と対応について インフルエンザ・ノロウイルスの流行シーズンに向けて 麻疹の地域的流行を受けて 薬剤耐性(AMR)対策アクションプランについて 針刺し事故後の検査・対応について	唐津赤十字病院
平成 29 年 2 月 20 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 CRE 経過と対応について インフルエンザ・ノロウイルスの罹患状況と対応について 薬剤耐性(AMR)対策アクションプランについて	唐津赤十字病院

【院外研修会】

月 日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 28 年 6 月 21 日	チーム医療 感染管理	感染管理認定看護師 中山 美穂	九州国際看護大学 参加人数 12 名
平成 28 年 11 月 16 日	聴講実習 感染管理	感染管理認定看護師 中山 美穂	看護学生 参加人数 68 名
平成 28 年 12 月 17 日	第 14 回 佐賀県感染管理ネットワーク研修会 平時から災害時の感染対策を考えよう	感染管理認定看護師 中山 美穂	県内医療従事者 参加人数 43 名
平成 29 年 2 月 17 日	CRE(カルバペネム耐性腸内細菌科細菌)に係る 感染制御の取り組み ～外部の訪問支援を受けて～	感染管理認定看護師 中山 美穂	済生会唐津病院 参加人数名

【訪問支援】

月 日	目的	訪問施設
平成 28 年 11 月 21 日	CRE 検出を受けて臨時感染対策委員会開催 ・当院での CRE に係る感染制御に向けた取り組み ・城内病院での感染対策・環境整備の確認ラウンド	城内病院

【感染対策評価】

月 日	内容	開催場所
平成 29 年	マニュアル等、書類による事前評価	済生会唐津病院



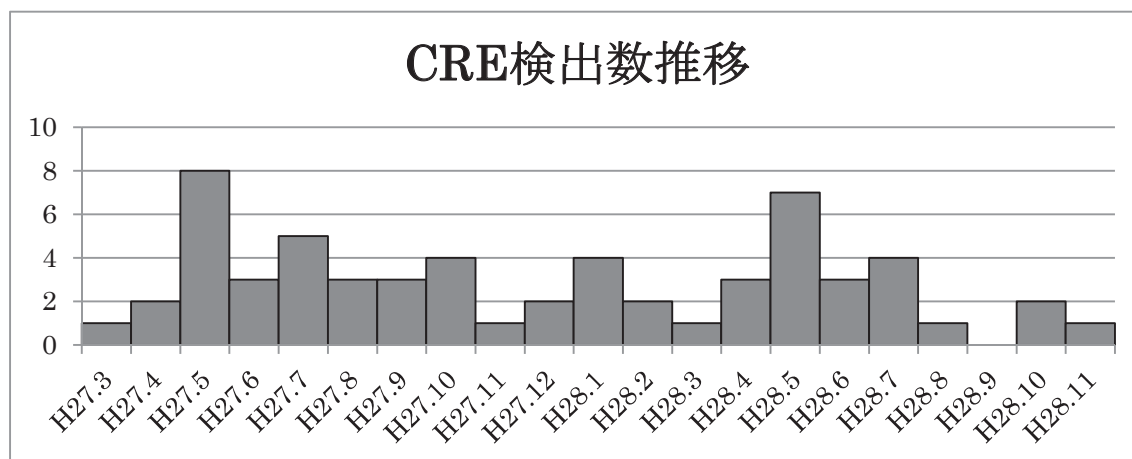
1 月 13 日		
平成 29 年 1 月 18 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	済生会唐津病院
平成 29 年 2 月 7 日	マニュアル等、書類による事前評価	済生会唐津病院
平成 28 年 2 月 15 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	唐津赤十字病院

4. この1年の歩み

平成 27 年 5 月に発生したカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)のアウトブレイクは、平成 28 年 3 月末時点で監視培養による CRE 検出が 39 例となり、まだ終息に至っていない状況であった。病院の新築移転を 8 月に控え、医療安全推進センターにおける感染管理部門では感染管理認定看護師が 2 名となり専任担当者の変更ならびに、外来師長として外来部門への感染管理認定看護師の配置など組織改革が行われた。

CRE アウトブレイクの終息に向け、組織一丸となって感染制御の取り組みを継続的に行っている中で、CRE 保菌状態の患者が 4 月、5 月と累計 5 名検出されたことにより、再アウトブレイクが危惧された。5 月に緊急感染対策会議を開催し、佐賀大学感染制御部並びに保健福祉事務所への相談、7 月には本社からの訪問支援を受け、対策提言による感染対策の再見直し・強化活動を行った。ICT ラウンドのほかに、看護部・院長による環境ラウンドも継続し、患者移送シミュレーションやコホート病棟の検討など移転に向けた積極的監視培養を実施した。CRE 保菌患者 12 名が入院されていたが、感染対策・環境整備の管理的視点での他者評価など多職種・多部門が組織的に感染対策に取り組み対応できたことが、移転前後での水平感染を疑わせる症例もなく新病院移転を終えたことにつながったと考える。

新病院移転後は、他施設からの入院時持ち込み症例 2 名を含む 3 名の新規 CRE 発生、保菌患者の再入院などあるが、平成 29 年 3 月末時点での新規発生はなく、水平伝播・拡大はみられず終息に向かっている。





CRE 監視培養の実施に伴い、耐性菌分離率は以下のように推移している。

(院内感染対策サーベイランス事業：JANIS 集計引用)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	0.33%	2.55%	2.74%
第 3 世代セファロsporin耐性肺炎桿菌	1.07%	1.49%	0.67%
第 3 世代セファロsporin耐性大腸菌	1.27%	3.32%	2.84%
フルオロキノロン耐性大腸菌	8.02%	11.83%	11.89%

本年度までは、CRE 監視培養による臨床検体以外からの耐性菌分離も多い。多剤耐性緑膿菌 (MDRP)、多剤耐性アシネトバクター(MDRA)、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)などの検出はみられていない

MRSA 検出人数は平成 26 年度 164 人、平成 27 年度 134 人、平成 28 年度 122 人であった。CD 検出人数は平成 26 年度 23 人、平成 27 年度 13 人、平成 28 年度 22 人となっている。

インフルエンザ対策として、インフルエンザ予防のポスター、手洗い、うがいの啓蒙を行い、本年度は佐野講堂を利用し職員へのインフルエンザワクチン接種を集合接種で実施した。ワクチン接種率は 89%(前年 85%、前々年度 92.4%)、ワクチン接種率は 90%を超えていない状況である。発生動向は、11 月に職員のインフルエンザ発症があったが患者への感染はなく、患者からの感染を疑う職員が 2 名、入院時すでに発症している患者や外泊時に罹患した患者、家族内感染の職員がほとんどで院内での感染拡大はなかった。ワクチン接種していない職員 1 名が家族間での感染により発症しており、ワクチン接種の副作用と、インフルエンザに罹患した場合の不利益の両方を考慮し、医療従事者としてワクチン未接種者へのワクチン接種を進めていく必要がある。

平成 28 年度は新病院移転を終え、感染管理体制の再構築ならびに、感染対策への組織風土の醸成に向けて新たな一步を踏み出す機会になった。今後、国策としても薬剤耐性菌(AMR)の制御に向けて、抗菌薬の適正使用など感染対策の推進と徹底についてアクションプランが打ち出されており、感染対策は院内のみならず地域の医療機関との連携が重要になってくる。当院は感染防止対策加算 1(400 点)ならびに感染防止対策地域連携加算(100 点)を算定しており、組織的に適切に感染対策を行うことが責務であり標準予防策の徹底と、標準予防策に付加した感染経路別予防策が確実に実施でき、地域の感染対策のモデルとなるように、組織横断的に、迅速に活動していきたい。



6.教育研修推進センター

1.スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

責 任 者	センター長	橋本 重正			
配属職員	医療社会事業課長	入江 富美夫			
	メディカルクラーク	轟木 聖子	松尾 有希子	松本 みのり	
		田中 由美	日高 純子	山崎 胤美	
		川崎 沙也加	中嶋 香織	石橋 奈穂子	
		瀬戸口 直子	池田 香織	松尾 さやか	
		榎 宗子			

2. 業務内容（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

1) 研修医に関すること

(1) 臨床研修（基幹型・協力型）病院の関係書類作成

① REIS 入力 4 月 30 日までに必須（九州厚生局提出）

平成 27 年度の実績、平成 28 年度指導体制などの入力

- ・唐津赤十字病院の情報・実績
- ・協力病院（松籟病院・虹と海のホスピタル）の情報・実績
- ・協力施設（唐津市民病院きたはた・脇山内科・久保田産婦人科麻酔科病院・唐津市馬渡島診療所・唐津市小川島診療所・唐津市加唐島診療所・佐賀県赤十字血液センター）の情報・実績

② 九州厚生局・佐賀大学・九州大学・日本赤十字社へ研修の実績等の書類作成・提出

③ EPOC 画面への研修医登録と指導医割付

(2) 医師臨床研修マッチング参加を申込スケジュールに沿って申し込み実施

- ・初期研修医 応募受付・面接試験準備

4 名の面接実施

- ・研修医 3 名マッチング成立

(3) 次年度研修医募集のプレゼンテーション参加

- ・九州大学医学部 初期研修プログラム説明会（橋本部長・入江）
- ・レジナビフェア 臨床研修説明会（橋本部長・龍溪先生（研修医）、長谷川先生（研修医）、白石先生（研修医）・入江）
- ・佐賀大学医学部 初期臨床研修プログラム説明会（橋本部長）

(4) 2 年次研修医(1 名)の院外研修に関する契約

- ・佐賀大学医学部付属病院・松籟会病院・馬渡島診療所・唐津民病院きたはた
佐賀県赤十字血液センター

(5) 研修医勉強会（1 回／2 週間）企画・準備等

(6) 研修医の評価 EPOC 評価入力の依頼及び確認



(7) 指導医養成ワークショップ受講に関する手続き (4名)

・明石 道昭先生 (佐賀)・藤田 亮先生 (佐賀) 土井 和子先生 (佐賀)
井上 周先生 (佐賀)

(8) 臨床研修委員会開催 (院内・院外合同 1 回)

(9) 病院見学者 (3 名) の受付・対応

・九州大学 1 名(5 年)・北海道大学 1 名(5 年)・兵庫大学 1 名(4 年)

2) 臨床研修の企画・実施に関すること

(1) 自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 (1 日) 受け入れ計画・準備

(2) 地域枠入学生特別プログラム実習 (1 年生 2 名、3 日間) 受け入れ計画・準備

3) 施設認定申請手続きに関すること

日本専門医機構 専門研修プログラム連携施設認定申請書の作成補助 (九州大学・佐賀大学)

4) 院内の教育研修に関すること

(1) 職員研修委員会開催 (新任管理者研修会、秋期接遇研修会)

(2) 新採用者研修会企画、準備、進行、終了後のアンケート集計

5) 医師の業務軽減に関すること

(1) メディカルワークの業務及び具体的数値

業務内容項目		平成 27 年度	平成 28 年度
診断書等書類作成		5, 100	5, 327
実施済み薬入力		30, 025	28, 921
病名登録患者		27, 403	26, 774
抗血栓薬休薬日入力		104	56
DPC 入力		1, 759	2, 252
退院証明書発行		607	658
院外等処方訂正入力		1, 117	1, 196
退院カルテ整理		5, 695	
医師の退院サマリー未整理補助		555	
データ入力	NCD (外科)	621	500
	肝疾患	114	
	血液疾患症例登録	73	104
	ER Data Base 入力	1, 991	1, 979
	救命救急センター入院台帳	1, 163	1, 001
	骨粗鬆症性骨折の広域ネットワーク研究		



(1) その他調査

血液関係調査、糖尿病患者 MAP データ収集、外科系調査等

(2) その他業務

外来(6 部署)受付および診療補助業務、外科がんサージボード準備、がん連携パス同意書等書類作成、SSI 等データ入力補助

3. この一年のあゆみ

教育研修推進センターの業務内容は上述のように多岐にわたります。

まず、初期臨床研修に関して報告します。当院は、言うまでもなく佐賀県北における急性期医療の分担という重要な役割を担っておりますが、初期臨床研修においても基幹型施設（1 年次 4 名）および協力型施設（同 5 名）となっています。当院での臨床研修を盛んにすることは、県内で医師を養成するといった意味合いからでも大事ですし、研修医の存在が病院全体に良い刺激を与え、院内の活性化に繋がるという点でも重要です。

初期研修医増員に関しては、各種研修説明会に橋本、入江が出席し、当院における研修の特徴を説明しました。この際には、研修医にも協力頂きました。2017 年度の 1 年次研修医は基幹型 3 名が入職しており、少しばかりは効果が見られたかと思っています。今後も皆様のご意見を参考に当院の良さをアピールする機会を増やしたいと思えます。

次に、当センターのもうひとつの重要な業務として医師事務作業補助があります。上述の資料のように補助業務件数は、昨年度以上に増加しました。診断書等書類作成、病名登録、DPC 入力などに加え、特に未整理医師サマリー補助は大幅に増加しています。これらの業務は診療報酬上も評価されており、引き続き補助業務の実施、そして適正な拡充を図ってまいります。

今後とも院内各分野、各職にご助言、ご支援をよろしくお願い致します。



7. 救命救急管理センター

1. スタッフ紹介 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

センター長	中島 厚士 (兼)
医療社会事業課長	入江 富美夫 (兼)

2. 業務内容

- 1) 救急・ICU 委員会開催 毎月 1 回
- 2) 救命救急センター入院台帳、ER Data Base 入力
 - ・救命救急センターの充実段階調査報告
(救命救急センターの状況、充実段階評価、年間重篤患者数 等)
 - ・小児救急医療体制の現状調査報告
- 3) 会議の連絡調整
 - ・佐賀県医療機関情報・救急医療情報システム (99 さがネット)
 - ・佐賀県メディカルコントロール関係
 - ・長崎県ドクターヘリ症例検討部会
 - ・日本赤十字社救急医療担当者会議
- 4) 救急救命士との話し合い開催
- 5) AHA-BLS コース、ACLS 研修等の受講案内

3. この一年の歩み

地域救命救急センター開設から、今年で 8 年目となり、佐賀県の救命救急センターは、重度熱傷対応を備えた佐賀県立病院好生館と佐賀大学医学部附属病院、地域型の NHO 嬉野医療センターと当院の 4 病院があります。平成 27 年度実績に基づく平成 28 年度救急救命センター充実度段階評価は、4 病院ともに A 評価を頂きました。

救命救急センターを管理していくうえでの課題は、ベッドコントロールです。当院は地域医療支援病院の機能もあり、ご紹介のあった方々は、是非もなく受け入れるべきであろうと考えております。しかし、後方（一般）病床が空かないと、救命センターの安定した患者さん達が移動できず、救命センターが満床かそれに近い状態となれば、安心して急患の受入が出来なくなります。皆様のご理解・ご協力で救急医療が成り立っております。

また、当院医師と唐津市消防の救急救命士、唐津市保健福祉部担当者を交えての意見交換会を開き、地域での救急医療のあり方について考える機会を頂きました。日頃のご協力に感謝いたすと共に、地域の中で救命救急センターの役割を十分果たしていく所存でございます。今後とも、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

8. がん医療推進センター

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

センター長 副院長 湯ノ谷 誠二（兼）

看護師 牧原 りつ子（兼） 神谷 和子（兼） 丸尾 美紀（兼）

主 事 内田 敦子（兼） 池上 純子（兼）（平成 29 年 12 月 31 日付退職）

社会福祉士 岩田 亜衣（兼） 肘井 和樹（兼） 柿木 伸也（兼） 松尾 あすみ（兼）

歯科衛生士 岩本 優美（兼） 中村 幸恵（兼）

2. 業務内容

1) 委員会開催

- ・ がん診療連携拠点病院運営委員会 12 回
- ・ がん化学療法委員会 12 回

がん化学療法レジメン審査承認数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0	2	1	0	0	1	2	2	0	2	0	3	13

2) 院内がん登録状況（経営企画・情報課 参照）

3) 講演会、研修会等の開催について

● 市民公開講座

月日	場所	内容	参加人数
平成 28 年 11 月 13 日（日）	唐津赤十字病院 佐野講堂	テーマ：「がんと向き合い生きよう～仲間と支えあい、分かち合いながら～」 司会：唐津赤十字病院 副院長 湯ノ谷 誠二 ①新病院紹介 ②唐津赤十字病院 がん相談支援センターの紹介 ③講演： NPO 法人クレブスサポート理事長 吉野 徳親先生 演題：「街なかのがんサロンから見えてくるもの」 ④特別講演： NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長 松本 陽子 先生 演題：「『患者力』が仲間を支える ～愛媛での取り組みから～」	計 160 名



● 緩和ケア研修会（対象：医師を中心とした院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 28 年 9 月 10 日(土) 9 月 11 日(日)	佐野講堂	厚生労働省のがん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標とすることが閣議決定された。これを受け、地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア研修会を実施したものである。	院内医師 15 名 13 名 院外医師 5 名 4 名

● 特別講演会（対象：院内・院外医師）

月日	場所	内容	参加人数
平成 28 年 9 月 16 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「予防できる子宮頸がん—日本での現状は—」 佐賀大学医学部附属病院 産科婦人科 教授：横山 正俊 先生	院内 63 名 院外 17 名 計 80 名
平成 28 年 12 月 2 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「進行肺癌に対するニボルマブの有用性と院内副作用対策」 国立病院機構九州医療センター 呼吸器科 科長 一木 昌郎 先生	院内 62 名 院外 22 名 計 84 名
平成 29 年 2 月 28 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「 膵癌の診断・治療最前線 」 九州大学大学院 臨床・腫瘍外科 教授 中村 雅史 先生	院内 68 名 院外 22 名 計 90 名

● 公開講演会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 28 年 6 月 10 日（金）	4 階講堂	「気持ちのつらさと痛みにどう向き合うか」 佐賀大学医学部附属病院 精神神経科 助教 國武 裕 先生	院内 56 名 院外 40 名 計 96 名
平成 28 年 10 月 14 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「胃がん化学療法の変遷と現状」 佐賀県医療センター好生館 腫瘍内科部長兼化学療法室 部長 嬉野 紀夫 先生	院内 56 名 院外 20 名 計 76 名

● 公開講習会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 28 年 7 月 11 日（月）	4 階講堂	「呼吸器外科手術～肺癌診療を中心に～」 唐津赤十字病院 呼吸器外科部長 黒木 英男	院内 59 名 院外 17 名 計 76 名



● 緩和ケア勉強会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 28 年 6 月 27 日（月）	4 階講堂	『暴言や暴力行為のあるターミナル中期～後期の肺がん患者への関わり』 座長 唐津赤十字病院 呼吸器内科医師 がん薬物療法専門医 梅口 仁美 ・主治医の立場から「症例提供」 唐津赤十字病院 呼吸器内科医師 井上 周 ・看護師の立場から 「トラベルビーの人間対人間の看護を用いて」 唐津赤十字病院 南 3 階病棟看護師 がん化学療法看護認定看護師 古川 悦子	院内 60 名 院外 23 名 計 83 名
平成 29 年 1 月 16 日（月）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「最期まで苦痛に耐える大腸がん患者への関わり」 ～患者の意思を尊重した治療と看護の難しさ～ 座長：唐津赤十字病院 第 1 内科部長 野田隆博 唐津赤十字病院 緩和ケア認定看護師 牧原りつ子 講師：唐津赤十字病院 外科レジデント 池田翔大 唐津赤十字病院 4 階西病棟看護師 佐伯文子	院内 64 名 院外 27 名 計 91 名

4) がん地域連携パス

● 運用件数

	胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺がん
平成 26 年度	24	20	1	0	2	1	0
平成 27 年度	12	20	0	0	4	0	0
平成 28 年度	9	7	0	2	0	0	1

5) 緩和ケア

● 緩和ケア外来

	(延べ受診者数/年)	外来日
平成 27 年度	104	週 2 回 火曜日(13:00～16:00)、金曜日(9:00～13:00)
平成 28 年度	94	同上

● 緩和ケアチーム：緩和ケアチームカンファレンス：49 回(火曜日 1 回/週 開催)

緩和ケアチームラウンド件数： 587 件（2 回/週 火曜日、金曜日）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
34	30	43	29	75	61	48	68	41	49	51	58



● がん患者スクリーニング実績（外来で実施件数）

	総数	外科	内科	婦人科	泌尿器科
平成 27 年度	1764	1527	189	36	13
平成 28 年度	1318	977	306	25	16

6) がん患者支援センター

● がん相談とがん以外相談延べ人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
がん相談	106	89	87	70	99	102	89	113	100	65	123	108	1,151 (23%)
がん以外相談	322	330	301	316	234	268	257	329	100	387	373	406	3,867 (77%)
合計	428	419	388	386	333	370	346	442	444	452	496	514	5,018

7) がん患者会「ほほえみの会」 毎月 第 2 土曜日開催

● 会員数 12 名（平成 29 年 3 月 31 日現在）

● 平成 28 年度活動内容

	内容	参加人数
1 月	総会	2
2 月	H27 年 11 月 8 日に開催された市民公開講座のビデオ上映会	3
3 月	H27 年 11 月 8 日に開催された市民公開講座のビデオ上映会	3
4 月	花の入れ替え・口腔ケアについて（講師：歯科衛生士）	4
5 月	座談会	3
6 月	ちぎり絵	7
7 月	アピアランスケア	6
8 月	<8/20 開催> 新病院見学会・座談会	3
9 月	<9/17 開催> ちぎり絵・座談会	4
10 月	市民公開講座（11 月 13 日開催）で掲示する広報の作成	5
11 月	<11/19 開催> チューリップの球根植え・座談会	2
12 月	社会福祉士による勉強会	1

会員数 12 名であるが、毎月の参加者数が 1 名～2 名と減少したため、平成 29 年 2 月より会員制を廃止し、自由参加形式で運営を試みることにしている。



3) 口腔機能管理実績（歯科衛生士）

	平成 27 年度	平成 28 年度
術前歯科紹介	305	276
周術期口腔機能管理（算定）	161	140
訪問歯科診療	55	128
周術期口腔ケア	410	337

3. この一年のあゆみ

今年度の市民公開講座は、新病院へ移転したことを記念して、当院の佐野講堂で開催した。テーマは「がんと向き合い生きよう～仲間と支えあい、分かち合いながら～」(司会：湯ノ谷誠二副院長)とし、160名の市民の方に参加していただいた。

新病院移転に伴い、がん相談窓口、緩和ケアチーム、周術期口腔ケア、患者会についてのリーフレットをリニューアルし、院内の各部署へのポスター掲示とともに配置し広報を強化した。また、患者ラウンジに、各種がん関連の情報冊子の配置とインターネット情報を患者さんが自由に利用できるスペースを確保することができた。

がん患者スクリーニングは、主に心理相談員が化学療法を受ける患者さんに対して実施し、身体的、精神的苦痛をキャッチして主治医や看護師とともに苦痛の緩和が図れるように支援を行っている。1318名のスクリーニングを実施することができた。

がんに関連した研修会（特別講演会、公開講演会、公開講習会、緩和ケア勉強会）は、9回/年開催し、参加総数は676名、うち院外参加者総数は144名と、多数の参加を得ることができた。



9. 地域医療連携室

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

地域医療連携室長 第 1 循環器内科部長 森 唯史（兼）
 看護師 神谷 和子 丸尾 美紀
 主 事 内田 敦子 池上 純子（平成 29 年 12 月 31 日付退職）
 社会福祉士 岩田 亜衣 肘井 和樹 柿木 伸也 松尾 あすみ
 歯科衛生士 岩本 優美 中村 幸恵

2. 業務内容

1) 紹介率、逆紹介率

	紹介率	逆紹介率
平成 26 年度	76.1%	55.5%
平成 27 年度	81.8%	59%
平成 28 年度	83.9%	64.1%

平成 26 年度診療報酬改定により計算方法
 が変更された。また、紹介率 65%以上逆紹
 介率 40%以上となる

2) 医療機器共同利用数、共同病床利用数

・ 医療機器共同利用数

	CT	MRI	RI	血管造影	治療	超音波	その他	合計
平成 26 年度	126	118	125	0	42	6	6	423
平成 27 年度	109	115	90	4	44	4	9	375
平成 28 年度	92	78	111	5	34	7	4	331

・ 共同病床利用数

	共同病床利用患者数	利用日数
平成 26 年度	9	215
平成 27 年度	6	140
平成 28 年度	8	68

1 人の患者が入退院を繰り返された



3) 研修会開催

・ 紹介症例報告会

開催日	内容	参加人数
平成 28 年 5 月 24 日 (火)	研修医 症例報告 「IgG4 関連疾患の肺病変に関する解析」 内科医師 貞松 宏典 トピックス 「排尿障害治療について」 泌尿器科副部長 西村 和重	院内 42 名 院外 4 名 計 46 名
平成 28 年 9 月 27 日 (火)	トピックス 「形成外科領域における最近の話題」 形成外科 非常勤医師 高木 誠司	院内 46 名 院外 6 名 計 52 名
平成 28 年 11 月 22 日 (火)	紹介症例報告 2 例 研修医 症例報告 「リツキシマブ投与と人工呼吸器管理により 救命しえた顕微鏡的多発血管炎の一例」 研修医 龍溪 智史 トピックス 「熱性けいれんの見方、止め方 ―最近の話題―」 小児科医師 田島 大輔	院内 52 名 院外 4 名 計 56 名
平成 29 年 1 月 24 日 (火) (シーサイドホテル 羽衣の間)	唐津赤十字病院 地域医療連携 特別講演会 【DVD 上映】 「ホタテ・プラズマローゲンがその治療と予防を一新する」 【講演】 演題：せん妄の診断と治療 演者：小嶺江藤病院（産業医科大学精神科専修医） 吉野 幸司 先生 【特別講演】 演題：病は「脳疲労」から～プラズマローゲンの活用 演者：医療法人社団ブックス理事長 藤野 武彦先生	院内 64 名 院外 25 名 計 89 名
平成 29 年 3 月 28 日 (火)	紹介症例報告 4 例 研修医 症例報告 「金属異物による誤嚥性肺炎の 1 例」 研修医 白石 さくら トピックス 「子宮体癌の予防と早期診断」 産婦人科部長 佐護 直人	院内 52 名 院外 7 名 計 59 名



4) 救急患者数

	救急用又は患者輸送用自動車 により搬入した救急患者の数	左記以外の救急患者の数	計
平成 26 年度	2,097 人 (1,392 人)	5,944 人 (793 人)	8,041 人(2,185 人)
平成 27 年度	1,991 人 (1,327 人)	5,992 人 (782 人)	7,983 人(2,109 人)
平成 28 年度	1,979 人 (1,208 人)	5,350 人(776 人)	7,329 人(1,984 人)

() 内は、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を示す

5) 地域連携

・ 地域連携パス連携医療機関数

	大腿骨 頸部 骨折	脳卒中	がん						
			胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺 がん
平成 26 年度	8	8	45	45	12	22	23	22	12
平成 27 年度	8	8	46	46	12	22	24	22	14
平成 28 年度	0	0	47	47	12	22	24	22	14

・ 地域連携パス使用患者数

	大腿骨頸部骨折	脳卒中	がん
平成 26 年度	84 人	71 人	48 人
平成 27 年度	68 人	90 人	36 人
平成 28 年度	0 人	0 人	19 人

・ 佐賀県診療録地域連携システム利用状況

	登録医療機関数	登録者数
平成 26 年度	22	103
平成 27 年度	24	94
平成 28 年度	31	77



6) 委員会開催

- ・ 地域医療支援病院委員会 1 回
- ・ 病床運営委員会 なし

7) 相談業務

ケース人数

ケースの区分	実人数
年度実人数	1,219 人

年度延べ人数

ケースの区分	延人数
年度延人数	5,018 人

新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医師	605 件
看護職	427 件
院内職員	10 件
本人	30 件
家族・親戚縁者	72 件
院外関係機関	167 件
近隣者・知人	3 件
ソーシャルワーカー	3 件
合 計	1,317 件

介入の時期

区分	実人数
受診	22 人
外来継続	190 人
入院時	27 人
入院継続	209 人
退院期	831 人
その他	38 人
合 計	1,317 人

援助方法

方 法		延 件 数
面接	本 人	1,060 件
	家族・親戚縁者	908 件
電話	本 人	12 件
	家族・親戚縁者	466 件
訪問	家族・親戚縁者	0 件
	そ の 他	0 件
同行・同伴・代行		10 件
文書・FAX		663 件
情報収集		603 件
院内協議・院内カンファレンス		4,228 件
院外協議・院外カンファレンス		3,410 件
合同カンファレンス		8 件
合 計		11,368 件

相談援助内容

内 容	延 件 数
家族関係に関すること	114 件
在宅介護・地域生活に関すること	726 件
療養生活に関すること	657 件
経済的問題に関すること	143 件
就労・職場環境に関すること	11 件
就学・教育環境に関すること	3 件
虐待・暴力・人権に関すること	13 件
受診・受療に関すること	188 件
転院に関すること	2,845 件
他施設利用に関すること	552 件
心理・情緒的問題に関すること	37 件
他福祉関係法利用に関すること	1,147 件
その他	5 件
合 計	6,441 件



8)退院支援

- ・退院支援加算 2 の算定件数、退院調整看護師、MSW と共に、各病棟に週 1 回出向き退院支援カンファレンスを実施。カンファレンス所要時間 30 分～1 時間。

H27 年度	退院支援加算 2、算定件数	45 件/ 年
H28 年度	〃 〃	717 件/ 年

3. この一年のあゆみ

当院は、平成 28 年 8 月に新病院開院を機に、紹介型病院として更なる連携の強化と医療の質の向上をめざすというビジョンを掲げられた。病院全体で、地域救命救急センターとして救急車からの要請は断らない、地域医療支援病院および地域がん診療連携拠点病院として開業医からの紹介は断らないこととして取り組み、平成 28 年度の紹介率 83.9%、逆紹介率 64.1%と地域医療支援病院としての承認要件は達成できた。院内広報誌「地域連携室だより」にて、紹介率・逆紹介率の月毎の実績、受け入れ不可事例の情報、医科歯科連携を含めた当院の連携情報の発信を強化した。

脳卒中・大腿骨頸部骨折地域連携パスは、8 つの医療機関と連携を結び 3 回/年の連絡会を開催したが平成 28 年度診療報酬改定に伴い、当院が地域連携パスの算定ができなくなったことから、6 月に連携施設と協議を行い、地域連携パスの運用は中止となった。しかし、紹介症例報告会は継続とし、5 回/年開催し、参加総数は 302 名（うち院外参加者総数は 46 名）であった。医療機関を計画的に訪問し、顔と顔の見える関係を構築することを目的に 16 施設の訪問を行い、地域医療機関からの要望を伺い、体制等を院内で協議を行った。

相談業務は、相談数 1,219 名、相談延べ数は 5,018 名であった。佐賀県北部医療圏では、平成 28 年度から「退院支援ルール」の運用が開始された。これを機に、院内の退院支援の更なる強化を目標に掲げ、ケアマネジャーとの情報提供を行い、着実な引継ぎを行い退院後も自宅で安心して生活できることを目指した。病棟看護師とも協働し、退院支援 2 算定件数は平成 27 年度 45 件、平成 28 年度 717 件と実績を上げることができた。



10. 事務部

事務部長	池田 隆雄
事務副部長	山口 和夫
	坂本 正策

総務課

1. スタッフ紹介 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

総務課長	飯島 新吾
------	-------

【総務係・人事係】

総務係長兼運転手	松本 英成
人事係長	高寄 里香
主事兼運転手	大串 博輝
〃 兼広報推進室	大松 万佐也
嘱託	中原 恵利子
〃	岩切 泰司
〃 (運転手)	中村 広行
〃 (医局秘書)	吉富 聡美
〃 (医局秘書)	古賀 広美
〃 (疾病予防センター)	平松 佳子
〃 (看護管理センター)	山崎 朝美
〃 (医療安全管理室)	馬場 結子

2. この1年の動き

【会議】

診療管理会議	11 回	幹部会議 (定例)	12 回
管理会議	12 回	薬事審議会	6 回

【委員会】

医療安全管理委員会	12 回	広報委員会	9 回
クリニカルパス委員会	12 回	患者サービス委員会	12 回
予算管理委員会	1 回	衛生委員会	12 回
救急・ICU委員会	12 回	災害対策委員会	1 回



院内感染対策委員会	12 回	リスクマネジメント検討会	12 回
褥瘡対策委員会	6 回	医療ガス安全管理委員会	1 回
保険請求委員会	12 回	栄養管理委員会	6 回
がん化学療法委員会	12 回	がん診療連携拠点病院運営委員会	12 回
輸血療法委員会	6 回		
情報システム・パス・診療録管理合同委員会	12 回		

【研修会等】

新規採用職員研修会	5 日間	緩和ケア研修会（2 日間）	1 回
院内緩和ケア勉強会	2 回	医療安全管理研修会	2 回
紹介症例報告会	5 回	がん診療連携拠点病院公開講習会	1 回
救急法研修会（3 日間）	1 回	がん診療連携拠点病院公開講演会	2 回
褥瘡対策研修会	1 回	がん診療連携拠点病院特別講演会	3 回
感染症対策公開講演会	1 回	感染対策研修会	2 回

【その他】

メンタルヘルス（産業医：第 1 木曜）12 回、（臨床心理士：第 3 金曜）12 回
計 24 回

【平成 29 年度採用選考会】

○看護師（推薦）	日時	平成 28 年 7 月 6 日	10:00
看護師	日時	平成 28 年 8 月 13 日	10:00
〃（二次）	日時	平成 28 年 10 月 22 日	10:00
○臨床検査技師	日時	平成 28 年 12 月 19 日	10:00
○放射線技師	日時	平成 29 年 1 月 25 日	10:00
○社会福祉士	日時	平成 29 年 2 月 1 日	10:00

【訓練】

消防（防火）訓練

第 1 回（昼間想定）

実施日時 平成 28 年 7 月 21 日（木）14:00～15:30

実施場所 3 階西病棟 357 号室出火想定



第2回（昼間想定）

実施日時 平成29年2月13日（月）14:00～14:30

実施場所 5階病棟 デイルーム出火想定

3. その他

永年勤続本社表彰伝達式 日時 平成28年5月30日 16:30

新病院竣工式典 日時 平成28年7月23日 12:30

新病院祝賀会 日時 平成28年7月23日 16:30

場所 シーサイドホテル

新病院移転 日時 平成28年8月1日

開院59周年記念式典 日時 平成28年10月21日 18:30

場所 シーサイドホテル



会計課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

会計課長	山崎 利幸	用度 1 係長	岩本 幸敏
営繕係長（兼）	岩本 幸敏	用度 2 係長	大森 崇生
経理係長	林田 美奈子		
主 事	石橋 耕一	主 事	飯盛 慶一
主 事	川内 かな子	嘱 託	井本 二三夫
嘱 託	吉村 睦美	嘱 託	松尾 貴和子

2. この 1 年の歩み

（1）経理関係

医業収益について、入院では新病院移転に伴い 7 月、8 月に患者数の制限をしたことで、前年度に比べて診療単価、患者数ともに減少しおよそ 2 億 4,000 万円の減収となった。外来では、注射料等の増加により診療単価は伸びたが患者数は減少しており前年度並みの収益となった。

医業費用については、職員数増員による給与費の増加、移転に伴う委託費の増加、新病院における固定資産の取得による減価償却費の大幅な増加により、前年度よりおよそ 15 億 4,000 万円の増加となった。

その結果、医業収支はおよそ 15 億 7,000 万円の赤字、全体では 13 億 2,000 万円の赤字を計上した。

収益的収入及び支出

単位：百万円

医 業 収 益 （ A ）	7, 3 2 0	医 業 費 用 （ B ）	8, 8 9 4
入 院 関 係	5, 3 5 2	材 料 費	2, 0 2 9
外 来 関 係	1, 8 1 4	給 与 費	4, 1 8 3
そ の 他	1 5 4	そ の 他	2, 6 8 2
そ の 他 の 収 益	1, 4 1 7	そ の 他 の 費 用	1, 1 6 4
収 入 合 計 （ C ）	8, 7 3 7	費 用 合 計 （ D ）	1 0, 0 5 8
医 業 収 支 （ A ）－（ B ）	－ 1, 5 7 4		
当 期 純 利 益 （ C ）－（ D ）	－ 1, 3 2 1		

（2）用度関係

平成 2 8 年 8 月 1 日の新病院移転計画における医療機器等の整備計画に基づき、医療機器及びソフトウェアの更新を行った結果、医療機器について約 2 0 億円、情報システムについて約 8 億 5 千万円にて整備ができた。



また、医薬品の価格については、薬価改定の年であった為、価格変動があり交渉が困難な年となったが、年間6回以上の交渉の結果、約3,100万円、試薬については、約300万円の値引きに持ち込めた。

診療材料については、診療材料ベンチマークシステムを活用すると共に、SPD委託業者と連携した価格交渉を実施し、1,100万円のマイナス効果を出す事ができた。

なお、新病院に伴う医療機器整備については次の通りである。

医療機器整備一覧（主要整備品）

機器名称		数	機器名称		数
1	血液ガス分析装置	1	7	血液分析・塗抹標本作製装置	1
2	磁気共鳴画像診断装置 3.0TS	1	8	免疫発光測定装置	1
3	一般用X線装置	1	9	骨密度測定装置	1
4	X線コンピュータ断層撮影装置 320	1	10	外科用イメージ（Cアーム）	1
5	結石破碎装置	1	11	超音波画像診断装置 Aplio500	1
6	全自動尿検査装置	1	12	採血管準備システム	1

（3）営繕関係

平成26年6月7日に着工した新病院建設事業が、平成28年4月30日に竣工引渡となった。平成28年8月1日に新病院開院を迎えた後も、瑕疵にあたるものを含めた修繕・手直し工事がある程度発生している。

また、新病院では空調・動力設備についても一新しているため、実稼働における設備の運用およびメンテナンス体制の効率化を進めている。

新病院建築工事の概要

工事の名称	唐津赤十字病院移転新築工事		
工事の着工年月日	平成 26 年 6 月 7 日		
工事の竣工引渡年月日	平成 28 年 4 月 30 日		
開院年月日	平成 28 年 8 月 1 日		
施設の構造及び規模	本館（鉄筋コンクリート造 7 階建）	23,303.19 m ²	
	エネルギー棟（鉄筋コンクリート造 2 階建）	806.18 m ²	
	マニホールド（鉄筋コンクリート造平屋建）	21.00 m ²	
	立体駐車場（鉄骨造 3 階建）	4,042.92 m ²	
工事費用	約 9,080 百万円		



医事課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

医事課長	徳田 孝久	
医事係長	米倉 稔喜	
主 事	福本 望	
嘱 託	高木 博美	馬場 結子
委 託	外来業務	13 名
	入院業務	10 名
	DPC 業務	1 名

2. この 1 年の歩み

平成 28 年度においては、8 月に新病院への移転を行ったため新病院の開設申請、旧病院の廃止申請など業務は多忙であり施設基準等については、旧病院で取得していた基準の引き継ぎ取得に重点を置き申請作業を行いました。

また平成 29 年 2 月 17 日には九州厚生局佐賀事務所による「施設基準等に係る適時調査」が行われ各種基準に係る指導を受けました。今回の指導においては数値要件のほかに、特にチーム医療に係る委員会や研修会要件などが指摘され、職員全体での施設基準に係る認識の必要性が重要であることを再認識させられた調査でした。

病床機能報告制度においては、今回の報告までは旧病院の病床に係る報告であり、昨年と同様の地域救命救急センターの 15 床を「高度急性期」、残りの 286 床を「急性期」として報告することとなりました。

3. 施設基準の取得状況（主なもの）

- ・精神疾患診療体制加算 (平成 28 年 4 月 1 日)
- ・医師事務作業補助体制加算 1 (25 対 1) (平成 28 年 6 月 1 日)
- ・25 対 1 急性期看護補助体制加算 (再取得) (平成 28 年 7 月 1 日)



4. DPC 係数の推移

	28.4 以降	28.6 以降	28.7 以降	28.8 以降	29.1 以降	29.3 以降
Ⅲ群 基礎係数	1.0296	1.0296	1.0296	1.0296	1.0296	1.0296
暫定調整係数	0.0215	0.0215	0.0215	0.0215	0.0215	0.0215
機能評価係数Ⅰ	0.2383	0.2395	0.2492	0.2492	0.2555	0.2480
機能評価係数Ⅱ	0.0741	0.0741	0.0741	0.0741	0.0741	0.0741
合計係数	1.3635	1.3647	1.3744	1.3744	1.3807	1.3732

※平成 28 年 8 月より新病院移転

5. その他（研修会等）

- ・ 平成 28 年度業務スキル向上のための教育研修 （平成 28 年 9 月 9 日）
〃 （平成 28 年 10 月 18 日）
- ・ 平成 28 年度 九州ブロック赤十字病院・健康管理センター医事主任者会議
今津赤十字病院 （平成 28 年 11 月 21 日～22 日）
- ・ 自衛消防業務新規講習 （平成 28 年 10 月 6 日～7 日）



経営企画・情報課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

課長	野方 宏紀
経営企画係長	高寄 一郎
診療情報係長	岩本 利恵子（診療情報管理士）
主事	築城 和明
主事	志波 孝治（診療情報管理士）
主事	吉武 明美（診療情報管理士）
主事	川添 美沙（診療情報管理士）
主事	結城 健
臨時	入江 亮太郎
委託	システムエンジニア 2 名

2. この一年の動き

【委員会開催・参加】

《開催》

・情報システム委員会	12 回
・診療録管理委員会	12 回
・クリニカルパス委員会	11 回
・広報委員会	4 回

《参加》

・褥瘡委員会	6 回
・地域がん診療連携拠点病院運営委員会	12 回
・DPC 運営委員会・コーディング専門委員会	11 回
・図書委員会	1 回

【研修業績】

- 平成 28 年度 院内がん登録実務中級認定者研修（認定証） 岩本 利恵子
- 平成 28 年度 院内がん登録実務初級認定者研修（認定証） 川添 美沙

【BSC 導入に向けた取組み】

平成 26 年度より本格導入した病院 BSC の運用も 3 年目を迎えた。各部署 BSC 提出後に院長ヒアリングを実施し、病院幹部との BSC を通じたコミュニケーションを図った。11 月からは、院長ヒアリングの第 2 回を実施し、BSC の進捗状況の確認を行った。

また、10 月には東京都港区で開催された「日本医療バランスト・スコアカード研究学会



第 14 回学術総会」にて口述発表を行い、優秀演題賞を受賞した。その報告会を 12 月に院内で行い、今後の取組みへの意識と意欲の向上を図った。

3. その他

<院外研修会・セミナー・他>

- ・佐賀県診療情報管理懇話会（11 回）（平成 28 年 4 月 23 日）【岩本】
- ・院内がん登録実務初級認定者研修（平成 28 年 6 月 13 日）【川添】
- ・院内がん登録実務中級認定者研修（平成 28 年 6 月 22 日）【岩本】
- ・28 年度佐賀県がん登録研修会（平成 28 年 8 月 26 日）【岩本・吉武】
- ・日本医療マネジメント学会九州・山口（平成 28 年 9 月 16 日～17 日）【岩本】
- ・第 24 回栗田基金研修会（平成 28 年 9 月 23 日～24 日）【岩本】
- ・佐賀県診療情報管理懇話会（12 回）（平成 28 年 10 月 8 日）【岩本・吉武】
- ・福岡県院内がん登録研修会（平成 28 年 11 月 5 日）【岩本】
- ・3 施設合同研修会（平成 28 年 11 月 18 日）【川添】
- ・平成 28 年度赤十字医療経営分析研修会（平成 28 年 11 月 28 日）【吉武】
- ・28 年度佐賀県がん登録研修会（平成 28 年 12 月 16 日）【岩本・川添】
- ・3 施設合同研修会（平成 29 年 2 月 12 日）【川添】
- ・第 13 回 DPC セミナー（平成 29 年 2 月 20 日）【志波】
- ・28 年度佐賀県がん登録研修会（平成 29 年 2 月 24 日）【岩本・吉武】
- ・第 20 回全国赤十字診療情報管理研究会（平成 29 年 2 月 25～26 日）【吉武】
- ・地域ミーティング（佐賀県）（平成 29 年 3 月 11 日）【岩本・川添】

<実習生受け入れ>

福岡医療秘書福祉専門学校 3 名（平成 28 年 6 月 20 日～7 月 8 日）

【疾病統計まとめ】

今年度は、退院患者数は前年度と比べて 95 件減少の 6,458 件、2 年連続の減少となった。サマリー完成率は 94.1%（年間平均）前年度と比較すると 1.5%減、8 月より新病院移転のため入院調整を行ったことや、電子カルテ導入によりサマリーの様式が変更になったことなどが影響したと思われる。

疾病大分類別では前年度と比較、神経系・尿路系・呼吸器疾患が増加、循環器系の疾患が大幅の減少となった。

診療科別では、内科・小児科は増加したが、外科・産婦人科が減少、特に外科は 120 件の減少。要因としては、医師の異動が影響したと思われる。

科ごとの紹介・逆紹介入院は、他院（外来）が大幅に増加、連携の強化が伺える。

疾病上位では、前年度同様 1 位から 3 位まで変動なし、胃がんは増加したが、外科



系の疾患が減少した。

手術・処置では、前年度同様 1 位から 3 位までは変動はなかったが、外科の手術が大幅に減少したことで順位の変動があった。

今年度は 8 月 1 日に新病院移転をし紙カルテから電子カルテに移行した。

また、病歴システムも富士通の病歴大将からインズシステムに変更になり当初は旧システムとの連携がうまくいかず調整をしながら業務を行った。11 月からは質的監査も開始し、質の向上にむけて病歴管理を今後強化していきたい。

2016 年度 疾病大分類別 退院患者件数

(退院数 6,458)

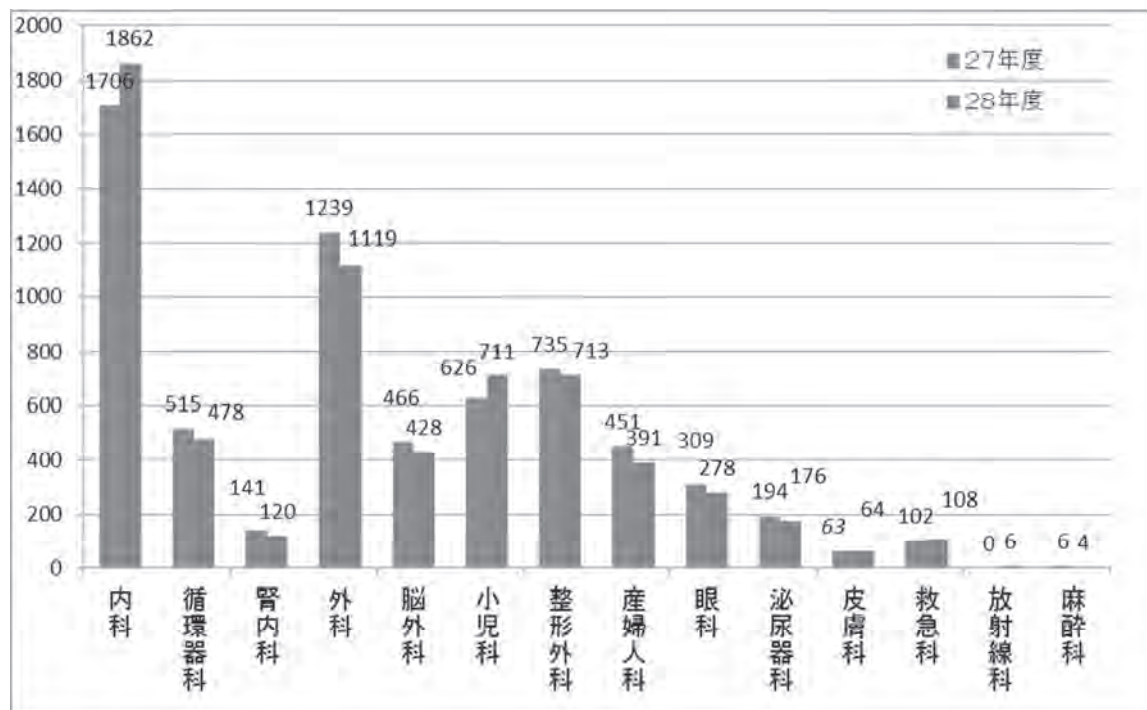
	大分類	計	男	女	死亡数
I	感染症及び寄生虫症	173	105	68	19
II	新生物	1,807	989	818	87
III	血液及び造血器・免疫障害	47	25	22	1
IV	内分泌・栄養及び代謝疾患	114	63	51	1
V	精神及び行動の障害	27	16	11	0
VI	神経系の疾患	115	56	59	1
VII	眼及び付属器の疾患	276	118	158	0
VIII	耳及び乳様突起の疾患	7	4	3	0
IX	循環器系の疾患	784	427	357	63
X	呼吸器系の疾患	634	391	243	31
X I	消化器系の疾患	727	427	300	13
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	54	27	27	0
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	247	118	129	2
X IV	尿路生殖器系の疾患	307	151	156	6
X V	妊娠・分娩及び産褥	214	0	214	0
X VI	周産期に発生した病態	87	51	36	1
X VII	先天奇形・変形及び染色体異常	18	11	7	
X VIII	症状・徴候及び異常所見	118	83	35	4
X IX	損傷・中毒及び外因の影響	647	308	339	5
X X	傷病及び死因の外因	0	0	0	0
X X 1	健康状態に影響を及ぼす要因他	55	29	26	0
	合 計	6,458	3,399	3,059	234



2016年度 診療科別退院患者件数

(退院数 6,458)

診療科	計	男	女
内科	1,862	1,155	707
腎内科	120	83	37
循環器科	478	269	209
小児科	711	386	325
外科	1,119	610	509
整形外科	713	326	387
脳外科	428	222	206
皮膚科	64	30	34
泌尿器科	176	126	50
産婦人科	391	0	391
眼科	278	119	159
放射線科	1	1	0
麻酔科	4	3	1
救急科	113	69	44
計	6,458	3,399	3,059





2016年度 診療科別紹介・逆紹介件数

(退院数 6,458)

診療科	紹介入院	他院（外来）	転院
内科	670	270	191
腎内科	45	34	19
循環器科	218	204	71
小児科	421	113	30
外科	243	106	49
整形外科	358	162	192
脳外科	168	103	147
皮膚科	38	2	3
泌尿器科	64	12	17
産婦人科	257	8	25
眼科	122	5	0
麻酔科		1	1
救急科	22	30	20
合 計	2,626	1,050	765

2016年度 疾病中分類 上位20

(退院数 6,458 冊)

順位	中分類 コード	疾病名	件数	平均在院日数	平均年齢
1	H25～H28	白内障(片側)	253	8.0	77.0
2	D12	結腸・直腸腺腫	217	3.4	66.8
3	C34	肺がん	205	19.1	70.5
4	C16	胃がん	162	15.1	69.2
5	I63	脳梗塞	160	25.8	76.4
6	C18	結腸がん	146	12.4	68.7
6	C50	乳がん	146	9.5	59.5
8	K80	胆石症	138	9.1	69.7



9	S72	大腿骨骨折	128	32.3	84.0
10	I50	心不全	116	24.9	78.4
10	J18	肺炎	116	15.6	51.2
12	C83	悪性リンパ腫	104	25.3	74.1
13	C20	直腸がん	100	11.6	66.2
14	I20	狭心症	84	5.2	69.2
15	C22	肝がん	78	13.6	72.9
16	I61	脳内出血	75	37.0	70.5
16	K56	腸閉塞	75	15.9	63.3
18	I25	慢性虚血性心疾患	72	4.4	66.4
19	K63	大腸ポリープ	70	4.3	65.8
19	J20	気管支炎	70	4.9	7.0
21	S06	頭蓋内損傷	59	21.9	65.4

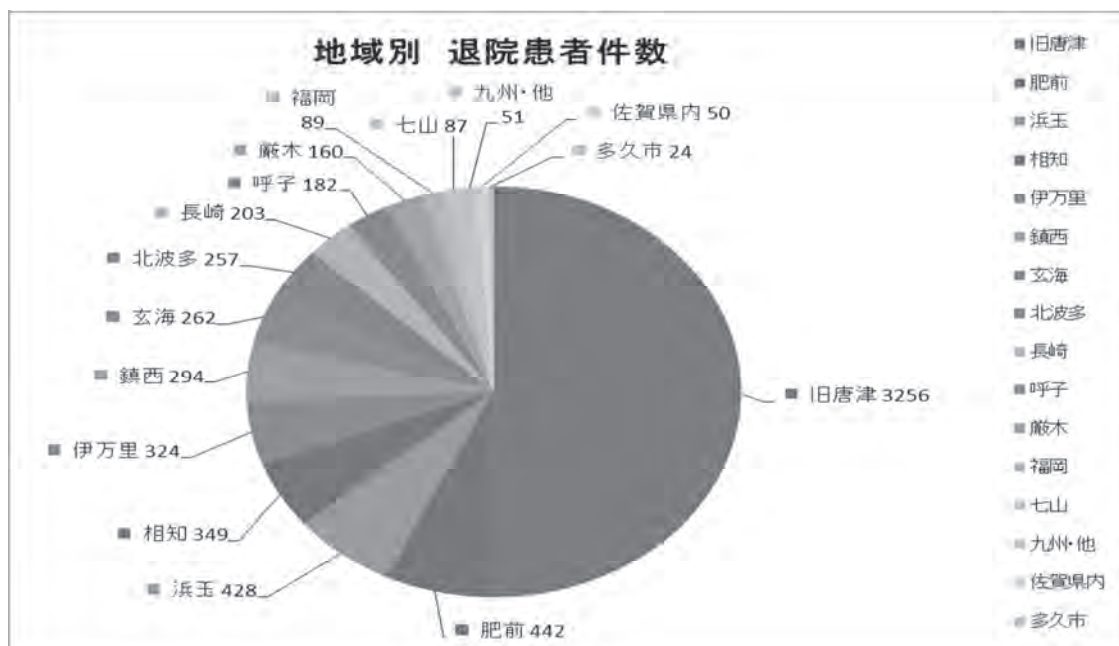
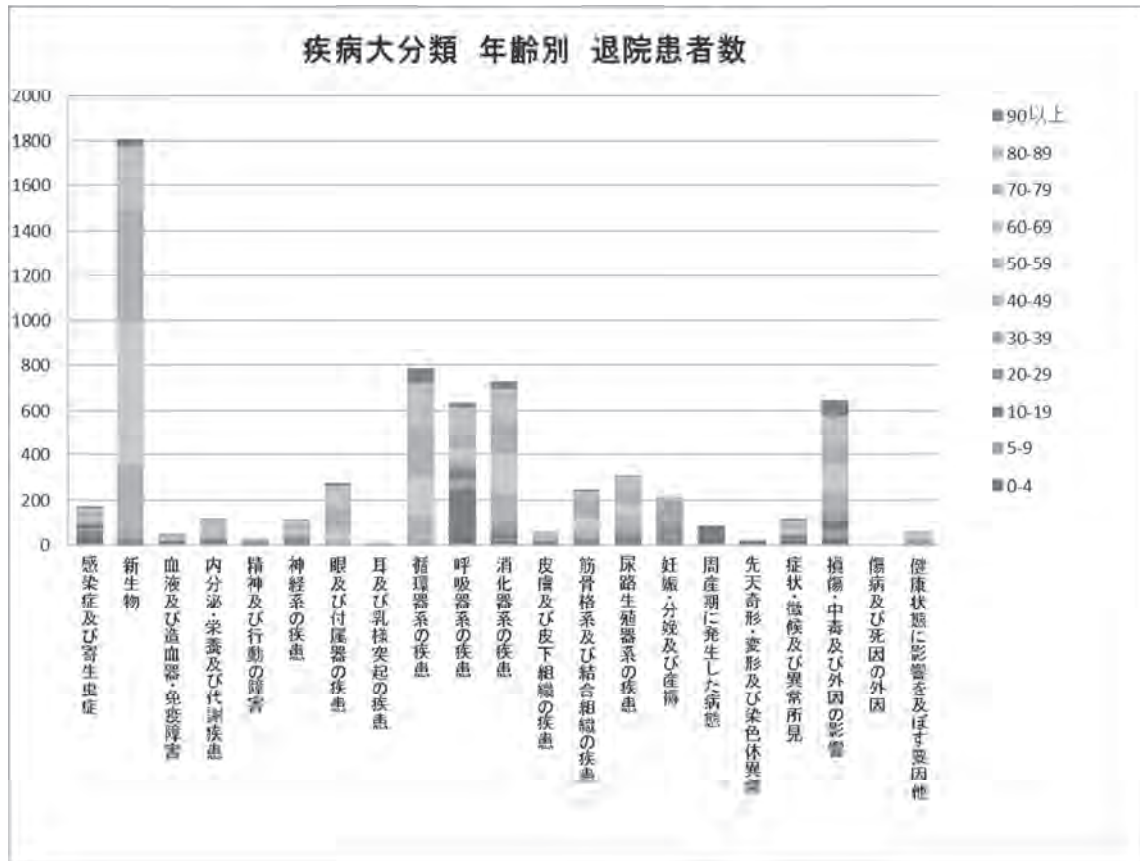
2016年度 手術・処置（ICD-9CM）件数 上位20

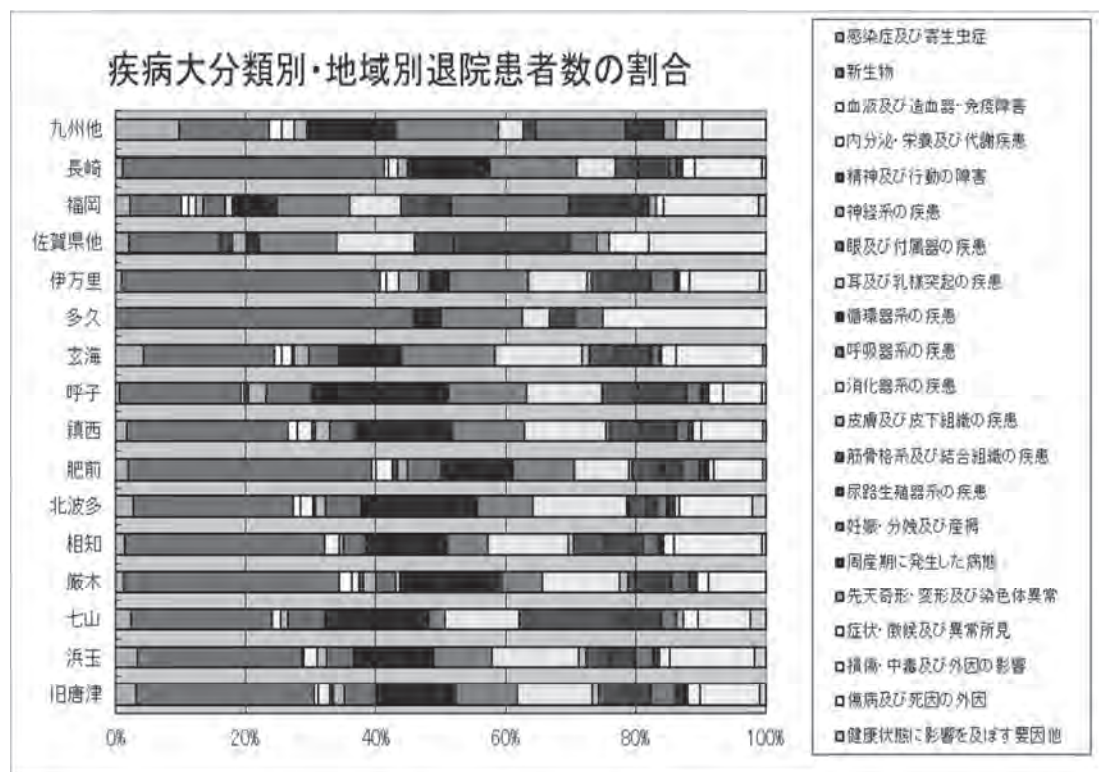
（退院数 6,458）

順位	主手術・処置名	件数
1	超音波水晶体乳化吸引術（片側）	384
2	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（EMR）	321
3	心カテーテル検査（CAG）	228
4	経皮的冠動脈形成術（PCI）	101
5	内視鏡的胆道ステント留置術	97
6	大腿骨骨折	83
7	人工関節置換術（股 53 膝 28）	81
8	帝王切開術（選択的 30 緊急 39）	69
9	内視鏡的乳頭切開術（EST）	67
10	胆嚢摘出術（開腹 4 腹腔鏡下 58）	62
11	骨内異物（挿入物）除去術（上肢 37 下肢 21）	58
12	内視鏡的消化管止血術（胃）	56
13	乳房温存術 34 乳房切除術 20	54
13	脊椎固定術（頸椎・椎弓・腰椎）	54
15	胸腔鏡下肺切除術（悪性・良性・ブラ）	52
15	経皮的冠動脈ステント留置術	52
15	内視鏡的胆道結石除去術	52



18	結腸・直腸切除術（開腹 4 腹腔鏡下 47）	51
19	（ソケイ・腹壁癒痕・大腿）ヘルニア術（内、腹腔鏡下 16）	45
20	子宮腔部円錐切除術	43





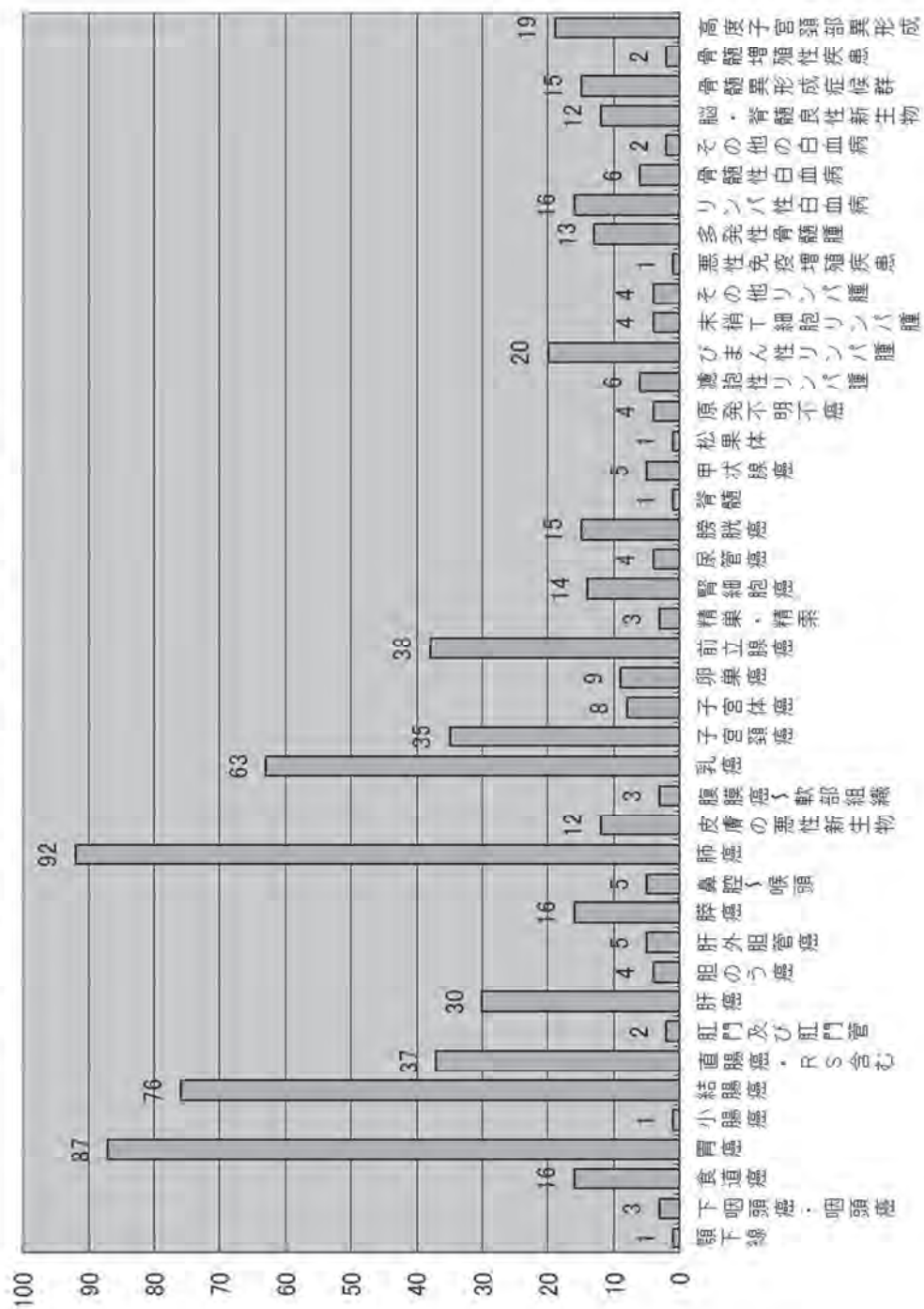


2016年 がん登録 部位/治療別 状況

部位別	ICD-10コード	件数	男	女	手術	開腹	腹・胸腔鏡	内視鏡	化学・その他	放射線	化学・放射
顎下線	C08	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
下咽頭癌・咽頭	C13~14	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
食道癌	C15	16	13	3	3	1	2	7	7	0	4
胃癌	C16	87	54	33	43	26	17	25	27	0	0
小腸癌	C17	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
大腸癌	C18~20	(113)	(68)	(45)	(57)	(7)	(50)	(36)	(35)	(2)	(0)
結腸癌	C18	76	44	32	40	4	36	29	20	1	0
直腸癌・RS含む	C19~20	37	24	13	17	3	14	7	15	1	0
肛門及び肛門管	C21	2	1	1	1	0	1	0	1	0	0
肝癌	C22	30	20	10	12	11	1	0	17	0	0
胆のう癌	C23	4	1	3	2	1	1	0	3	0	0
肝外胆管癌	C24	5	3	2	2	2	0	0	1	0	0
膵癌	C25	16	9	7	2	2	0	0	6	1	0
鼻腔～喉頭	C30~32	5	5	0	0	0	0	0	0	1	0
肺癌	C34	92	62	30	36	3	33	0	33	3	8
皮膚の悪性新生物	C44	12	6	6	9	0	0	0	2	0	0
腹膜癌～軟部組織	C48~49	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0
乳癌	C50	63	0	63	49	0	0	0	57	8	2
子宮頸癌	C53	35	0	35	20	0	0	0	0	0	0
子宮体癌	C54	8	0	8	4	0	0	0	1	0	0
卵巣癌	C56	9	0	9	3	0	0	0	1	0	0
前立腺癌	C61	38	38	0	0	0	0	1	17	10	0
精巣・精索	C62-63	3	3	0	3	0	0	0	1	0	0
腎細胞癌	C64	14	11	3	7	0	0	0	1	2	0
尿管癌	C66	4	4	0	1	0	0	0	0	1	0
膀胱癌	C67	15	12	3	0	0	0	11	11	2	0
脊髄	C72	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺癌	C73	5	2	3	3	0	0	0	0	0	0
松果体	C75	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
原発不明不癌	C80	4	2	2	0	0	0	0	1	0	0
ホジキン病	C81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
濾胞性リンパ腫	C82	6	3	3	0	0	0	0	5	0	0
びまん性リンパ腫	C83	20	10	10	1	0	0	0	19	0	0
末梢T細胞リンパ腫	C84	4	3	1	1	0	0	0	5	0	0
その他リンパ腫	C85	4	3	1	0	0	0	0	3	0	0
悪性免疫増殖疾患	C88	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
多発性骨髄腫	C90	13	6	7	0	0	0	0	5	0	0
リンパ性白血病	C91	16	7	9	0	0	0	0	11	0	0
骨髄性白血病	C92	6	2	4	0	0	0	0	6	0	0
その他の白血病	C95	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0
脳・脊髄良性新生物	D18~43	12	3	9	2	0	0	0	0	0	0
骨髄異形成症候群	D46	15	10	5	0	0	0	0	6	0	0
骨髄増殖性疾患	D47	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0
高度子宮頸部異形成	N87	19	0	19	16	0	0	0	0	0	0
合 計		710	372	338	277	53	105	80	286	30	14



2016年 院内がん登録 部位別





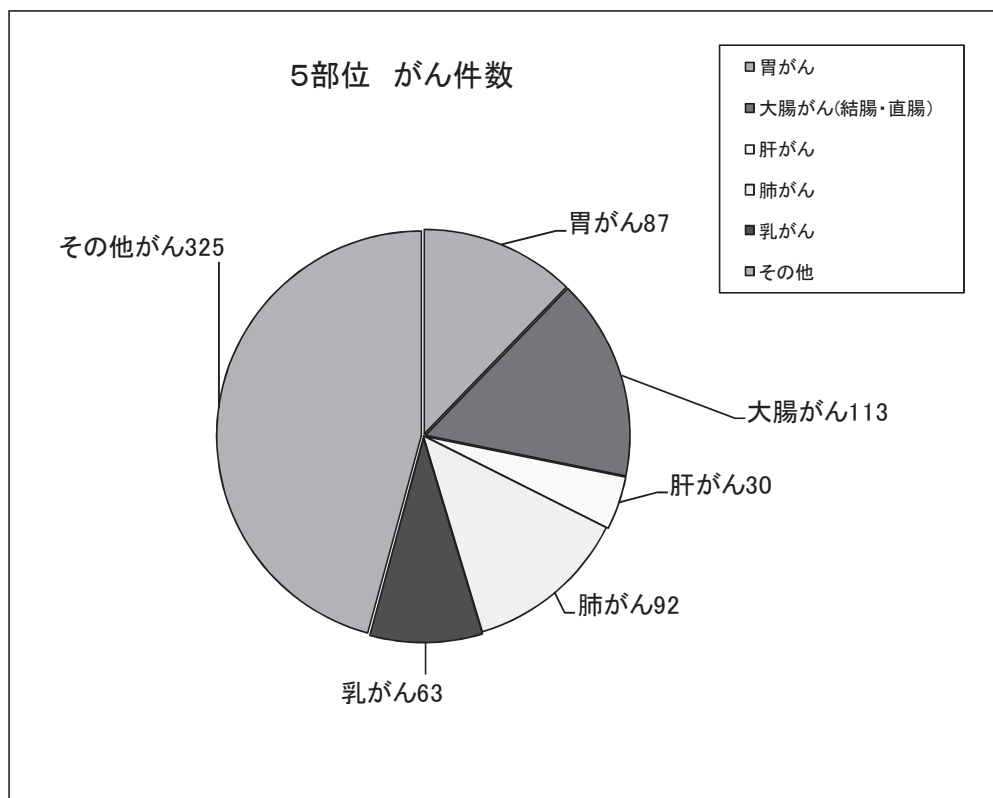
2016年 院内がん登録 5部位がん・死亡件数

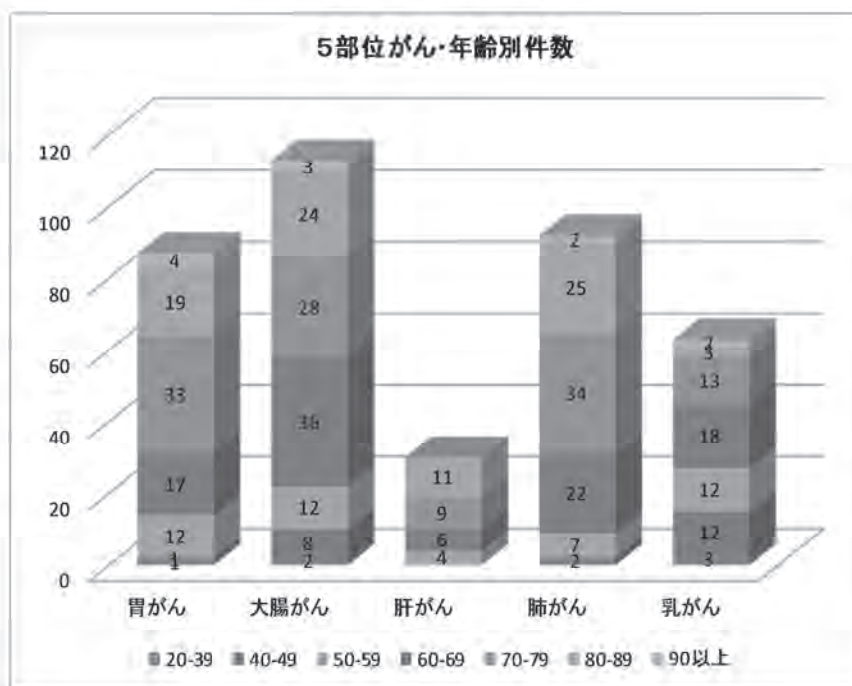
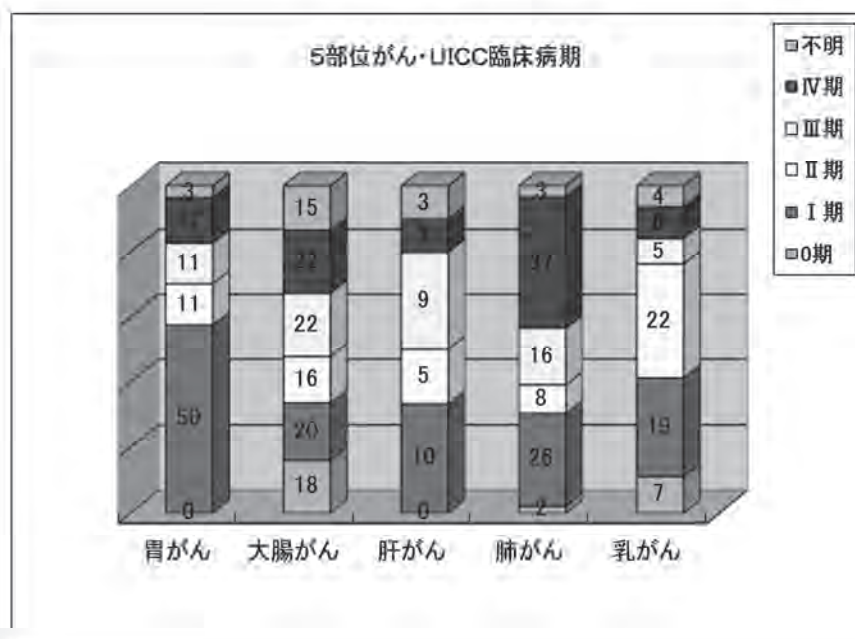
部位	件数	占有率	死亡	割合
胃がん	87	12%	7	8%
大腸がん(結腸・直腸)	113	16%	13	12%
肝がん	30	4%	9	30%
肺がん	92	13%	26	28%
乳がん	63	9%	2	3%
その他	325	46%	46	14%
合 計	710	100%	103	15%

院内死亡	56
院外死亡	47
合 計	103

* 院外死亡は、おくやみ
他施設情報

死亡数は平成28年5月31日現在

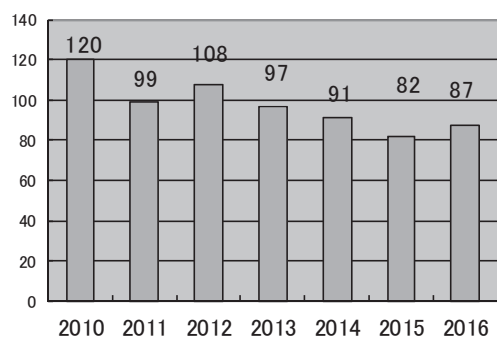




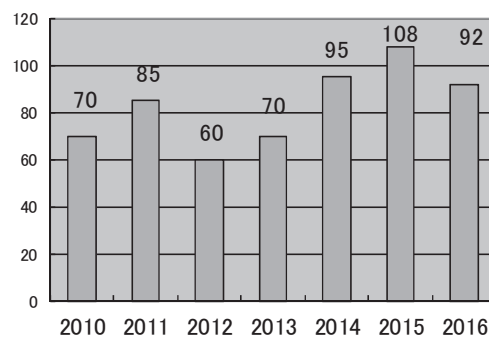


5大がん 年別 登録件数

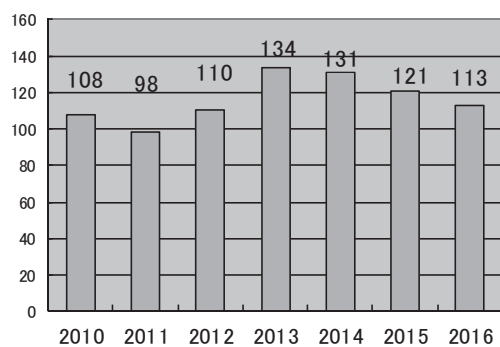
胃 癌



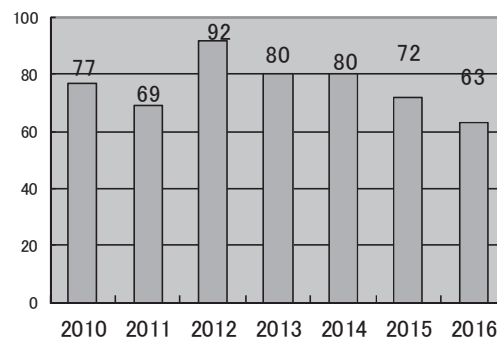
肺 癌



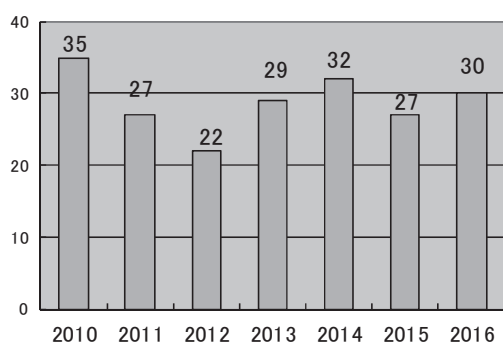
大腸癌



乳 癌

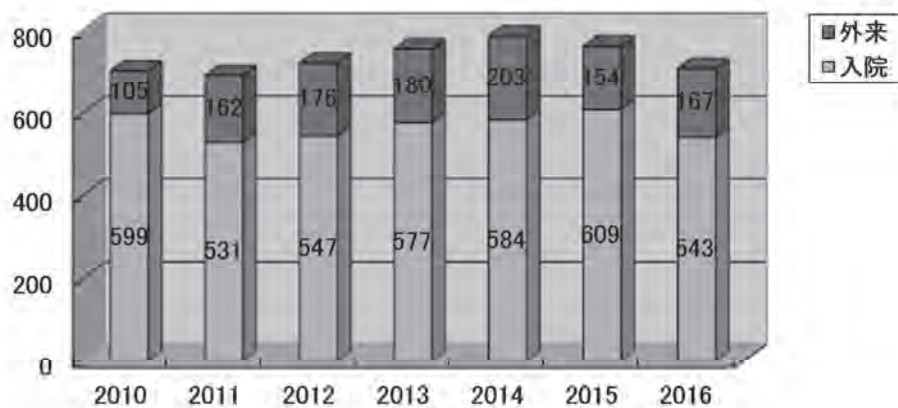


肝 癌

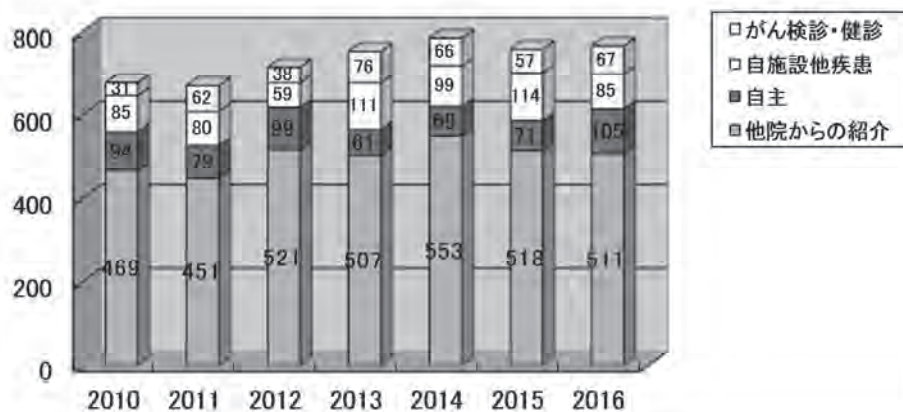




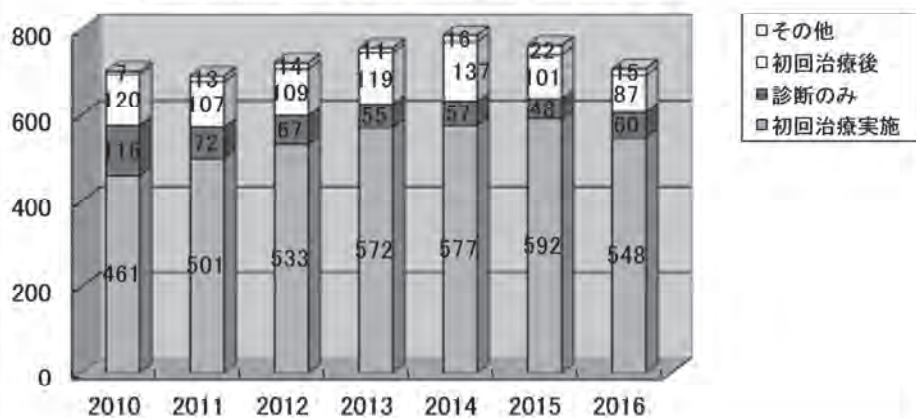
院内がん登録件数の年次推移



来院経路の年次推移



登録数に占める当院での初回治療件数の年次推移





2016年 部位別 上位10

順位	部位別	件数
1	肺癌	92
2	胃癌	87
2	結腸癌	76
4	乳癌	63
5	子宮頸癌(頸部異形成含む)	54
6	前立腺癌	38
7	直腸癌・Rs	37
8	肝癌	30
9	びまん性リンパ腫	20
10	食道癌	16
10	膵臓癌	16
10	リンパ性白血病	16

2016年 手術別 上位10

順位	手術名・内視鏡	件数	開腹	腹腔鏡
1	乳房切除術(温存術 29 切除術 20)	49		
2	胃切除術(胃全摘 18・幽門側 25)	43	26	17
3	結腸切除術	39	3	36
4	子宮円錐切除術	35		
5	肺切除術(部分・区域・肺葉切除)	34	1	33
6	内視鏡の大腸粘膜切除術(EMR)	26		
7	内視鏡の胃粘膜下層切除術(ESD)	22		
8	直腸切除術(低位前方切除10 切断術5 他 2)	17	3	14
9	肝切除術	12	11	1
10	皮膚悪性腫瘍切除術	9		



＜院内がん登録 まとめ＞

院内がん登録数は、前年度と比較すると大幅に減少をした。要因としては新病院移転時の入院調整を行ったことや放射線治療が約半年間休止になったことが影響したと思われる。

部位別に見てみると、上位は肺がん・胃がん・結腸がんの順で胃がんが前年度と比べると若干増加し結腸がんが減少した。治療別では、手術件数が減少し化学療法が増加、放射線治療は新病院移転に伴い休止していたため大幅に減少した。

今年度は、院内がん登録システム **casefinder** と新システムとの併用で最終チェックを行った。また、2016 年症例より標準登録様式が変更になり、初回治療の定義が大幅に変わった。バイパス術などの緩和的手術療法は初回治療と見做されなくなったため手術件数減少に若干影響したと思われる。

今後は新標準登録様式を熟知し、それに従って正確なかつ迅速ながん登録入力・データ提出を行い地域がん診療連携拠点病院としての役割を担っていきたい。



広報推進室

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

- 室長 山口和夫（本務 事務副部長）
主事 大松万佐也（本務 総務課主事）
〃 福本望（本務 医事課主事）
〃 結城健（本務 経営企画情報課主事）
〃 川内かな子（本務 会計課主事）

2. この 1 年の歩み

平成 25 年 4 月 1 日に設置された「広報推進室」も 4 年目を迎えた。

主な業務としては、

- ① 院外広報誌「みらい」の継続的な発行
季刊誌として年 4 回発行した。新病院の情報をトピックスとして毎号に連載し、地域の方々に新病院の情報をお知らせすることができた。
- ② ホームページの全面リニューアル
新病院開院時にホームページのリニューアルを行い、採用情報のページを新たに作成した。また、診療実績など、データを最新情報に更新した。
- ③ 三施設合同広報委員会への参画
支部・血液センター・病院の三施設合同の広報委員会も軌道に乗り、委員会を毎月各施設持ち回りで開催した。
主な活動は、三施設合同のフェイスブックの運営、各施設が行うイベントに他施設も参加する合同イベントの開催、職員を対象とした「赤十字写真コンテスト」などを実施した。
- ④ 患者総合支援センターとの連携強化
地域医療連携誌「日赤からつ」と掲載内容や発行時期の調整を行い、連携医療機関には両広報誌を同封して発送するなど連携を強化した。

3. 今後の課題

- ・新病院の更なる広報
- ・ホームページの内容充実
- ・新病院開院後のイベントの検討



11. 医療社会事業部医療社会事業課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

医療社会事業部長	酒井 正
医療社会事業課長	入江 富美夫
主事	林 三樹子
危機管理顧問	多良 伸之
常勤嘱託事務員	吉富 聡美 平成 28 年 9 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日
常勤嘱託事務員	平松 佳子 平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

2. この一年の歩み

1) 委員会

- ・患者サービス委員会 計 10 回開催

2) 糖尿病教室

- ・平成 28 年度受講者数 117 名（第 1 期～第 4 期合計）

3) ボランティア

- ・平成 28 年度 ボランティア受け入れ 14 名

4) スズラン贈呈式 平成 28 年 6 月 2 日

5) 健診・人間ドック

健診	人数	人間ドック	人数
船員生活習慣病予防健診	27 人	1 泊 2 日人間ドック	16 人
県職婦人がん検診	0 人	1 泊 2 日人間ドック＋脳ドック	55 人
事業所健診	28 人	日帰り人間ドック	124 人
被爆者定期健診	0 人	日帰り人間ドック＋脳ドック	28 人
被爆者がん健診	0 人	JR 日帰り人間ドック	9 人
被爆者二世健診	0 名	一日ドック	118 人
じん肺・石綿健診	16 人	脳ドック	15 人
合計	71 人	合計	365 人

6) 救護

- ・救護任命式 平成 28 年 7 月 6 日

任命者	医師	3 名
	看護師長	3 名
	看護師	6 名
	主事	6 名

- ・常備救護班要員研修会

日 時 平成 28 年 10 月 1 日～2 日

会 場 佐賀県波戸岬少年自然の家



参加者	受講者	スタッフ	
日本赤十字社佐賀県支部		4 名	
佐賀県赤十字血液センター	5 名	1 名	
唐津赤十字病院	20 名	9 名	
計	25 名	14 名	合計 39 名

・平成 28 年度佐賀県原子力防災訓練 平成 28 年 10 月 10 日

《緊急被ばく医療訓練》

医療班（医師 2 名・放射線技師 2 名・看護師 3 名・主事 2 名）

本 部（副院長・救急科部長・事務部長・看護部長）

医療社会事業課 2 名

指 導（医療社会事業部長・看護副部長 1 名・放射線技師 2 名）

・平成 28 年度臨時救護員派遣

派遣先	派遣年月日	派遣員数	救護件数
第 113 回有田陶器市	平成 28 年 4 月 29 日	看護師 1 名	2 件
第 17 回虹の松原トライアスロン in 唐津	平成 28 年 6 月 19 日	運転手 1 名 救急車 1 台	0 件
第 64 回九州花火大会	平成 28 年 7 月 17 日	看護師 2 名	0 件
第 69 回記念松浦地区青年相撲大会	平成 28 年 9 月 4 日	看護師 1 名	0 件
第 70 回記念東西松浦駅伝大会	平成 29 年 2 月 5 日	看護師 1 名 運転手 1 名 救急車 1 台	0 件
第 57 回唐津 10 マイルロードレース大会	平成 29 年 2 月 12 日	看護師 1 名 運転手 1 名 救急車 1 台	1 件
第 29 回虹の松原カップ西日本選抜小学生クラブ駅伝競走大会	平成 29 年 3 月 26 日	看護師 1 名 運転手 1 名 救急車 1 台	0 件



・熊本地震に対する唐津赤十字病院の救護活動

職 務		DMAT	第1救護班	DMAT	第2救護班	第3救護班	病院支援	第4救護班	病院支援	病院支援	第5救護班	合計
派遣期間		4/15 (金) ～16(土)	4/15(金) ～16(土)	4/16(土) ～18(月)	4/16(土) ～18(月)	4/20(水) ～ 4/23(土)	4/20(水) ～ 4/25(月)	5/5(木) ～5/8(日)	5/7(土) ～ 5/13(金)	5/23(月) ～ 6/5(日)	5/27(水) ～ 5/30(月)	
派遣先		益城町 役場 救護所	益城町 総合運動 公園	熊本 赤十字 病院	益城町 総合運動 公園	益城町 総合運動 公園	熊本 赤十字 病院	益城町立 広安 小学校	熊本 赤十字 病院	熊本 赤十字 病院	南阿蘇 長陽 中学校	
派 遣 者	医師	1	1	1	1	1	1	1			1	8
	研修医							1			1	2
	看護師長	1	1	1	1	1		1			1	7
	看護師	1	1		1	1		1	1	1	1	8
	看護師		1		1	1		1	1		1	6
	放射線技師					1						1
	理学療法士							※1				※1
	検査技師											
	栄養士											
	主事	1	1	1	1	1		1	1		1	8
		1	1	1	1	1		1			1	7
	支部調整員											
計		4(5)	6	4	6	7	1	8	3	1	7	47(48)

注1 計の()書きは、支部を含む人数

注2 派遣者の※印は主事としての業務



すずらん患者慰問 平成 28 年 6 月 2 日





救護班任命式 平成 28 年 7 月 6 日





平成 28 年度常備救護班要員研修会 平成 28 年 10 月 1 日～2 日





平成 28 年度常備救護班要員研修会 平成 28 年 10 月 1 日～2 日





原子力防災訓練 平成 28 年 10 月 10 日





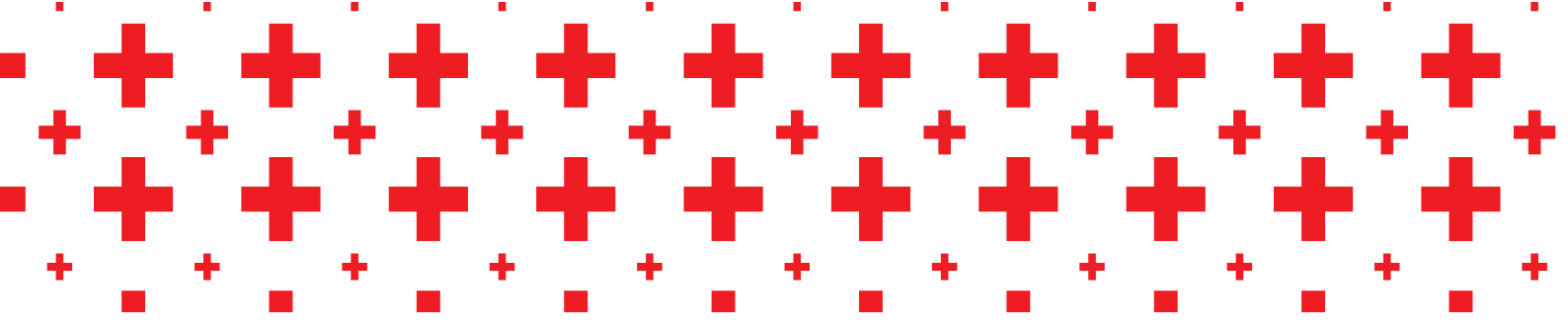
熊本派遣第1救護班・第1DMAT出陣式 平成28年4月15日





益城町現地写真 平成 28 年 5 月 7 日～ 12 日





地域医療**支援**病院

地域**救命**救急センター

地域**がん**診療連携拠点病院

臨床研修病院(**基幹型**・協力型)

地域**災害**医療センター

二次**被ばく**医療機関

